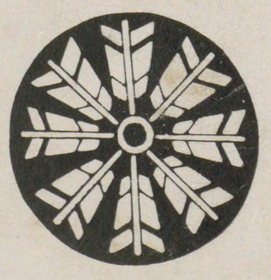
Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

141 242



江戸文學圖錄

藤井博士
還曆記念

昭和文庫圖書印

紫影藤井先生明治二十七年東京帝國大學を出で給ひしより學びの道に教への場におりたちいそしみ給へる月日の數も重なりて三十餘年去夏七月十五日を以て華甲の壽を迎へ給ひ筆硯ます〳〵健かなり生等その喜びを記念せむが爲に一書を編し名づけて江戸文學圖錄といふ

先生によりまことの色香知りそめし花の千種の限りもなければそが中にゆかりの色ばかりを武藏野の春秋にたづね集めてこの園に移しうゑしが百二十六類二百九十二點におよびぬるなり

その花のさきてみのらむ種子とりて
君がよはひの數にかぞへむ

昭和四年八月

後學　義則識

凡例

一、本書は江戸時代の文學書中、代表的なものを選んで、その原本の面目を一般に知らしめる目的を以て、編纂したものである。隨つて必ずしも稀覯の珍籍を採收したわけではない。

一、原本は努めて初版の善本により、且つ異版あるものはこれを併せ收めるつもりであつたが、編者の微力な爲めに、粗漏不備も少からぬことゝ思ふ。

一、解說は初學者の便に資するに過ぎないので、すべて簡略に從つた。なほ寫眞版には一々番號を附し、解說の番號と照應するに便した。

一、本書の編纂に當り、藤井乙男先生は自ら本書に收めた大部分の原本を貸與され、なほ伊藤松宇・石田元季・加賀豐三郎・角田竹涼・南木芳太郎・三村清三郎・山口剛等の諸氏も、各々その藏本を貸與され、若くは寫眞を寄贈されるなど、甚大の便宜を與へられた。記して深く諸家の厚意を謝する。なほ其他公私の圖書館・文庫の好意に負ふ所が多い。

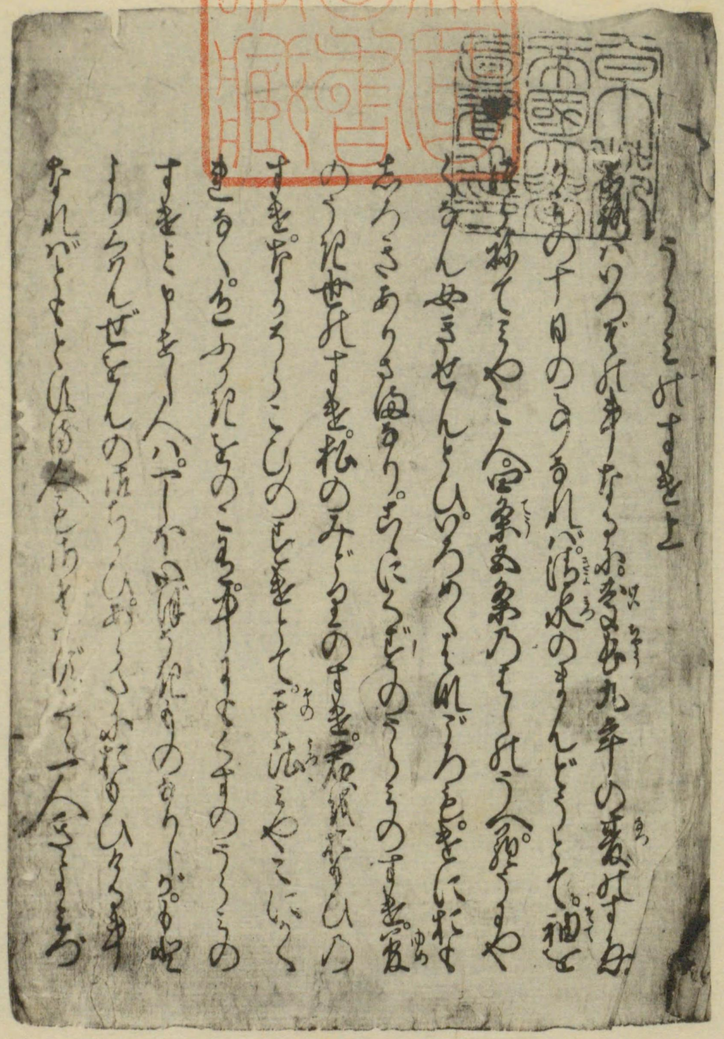
一、本書の裝幀は津田青楓畫伯を煩はし、又扉紙の題字は新村出博士の揮毫を乞うた。兩氏の好意をこゝに謝する。

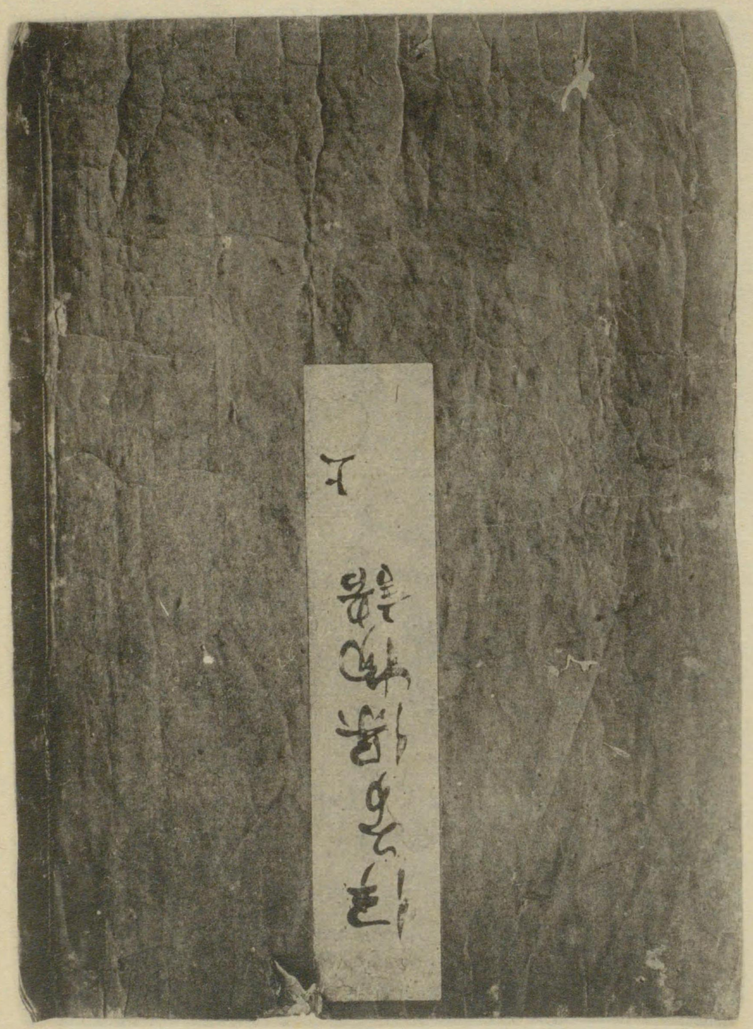
一、本書の解說には會員加藤順三・頴原退藏・能勢朝次・金子實英が主としてこれに當つた。

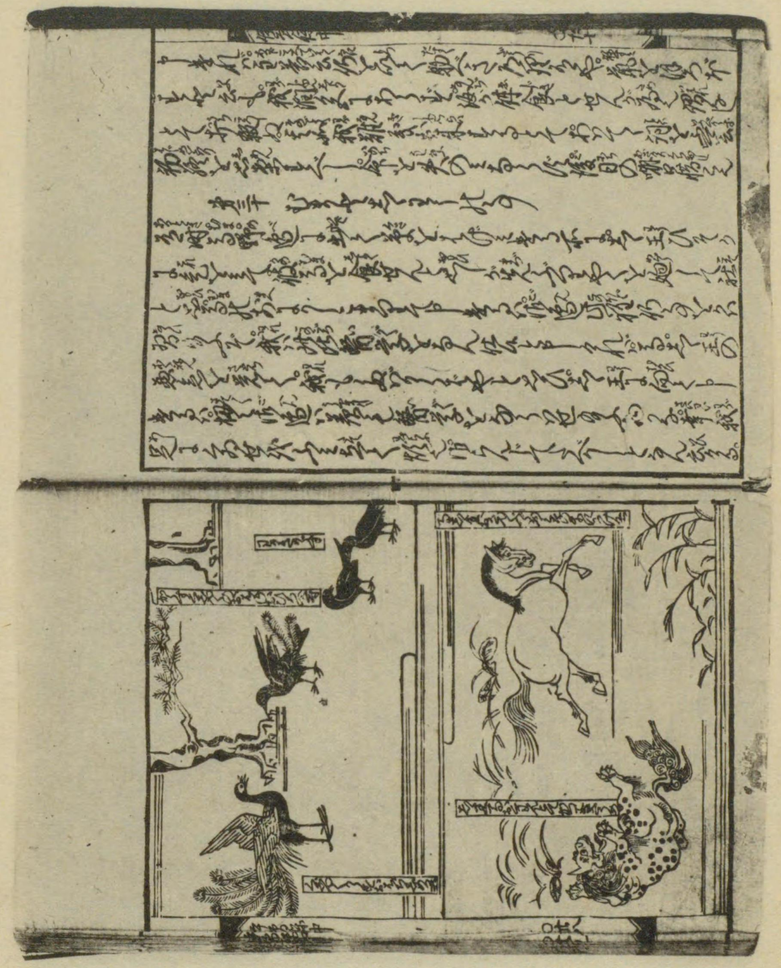
昭和四年十二月

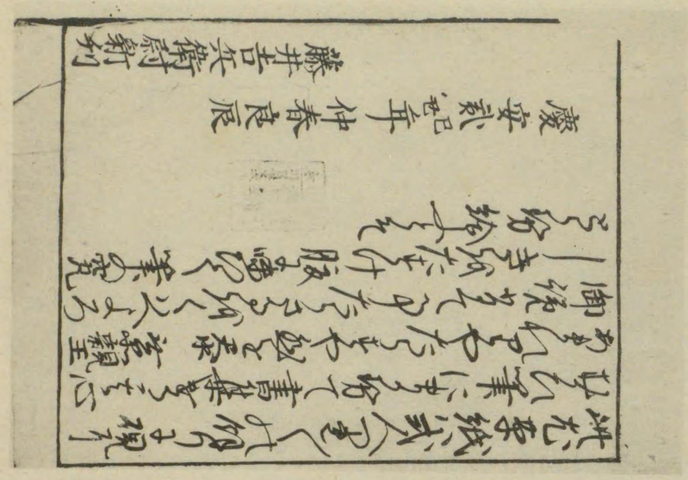
京都帝國大學內

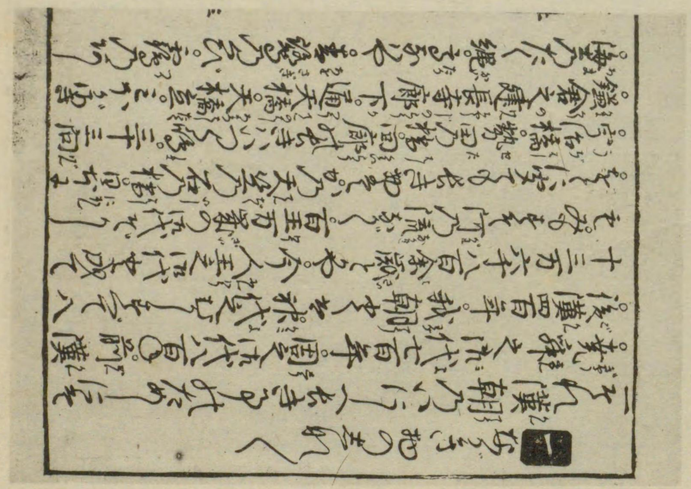
國文學會



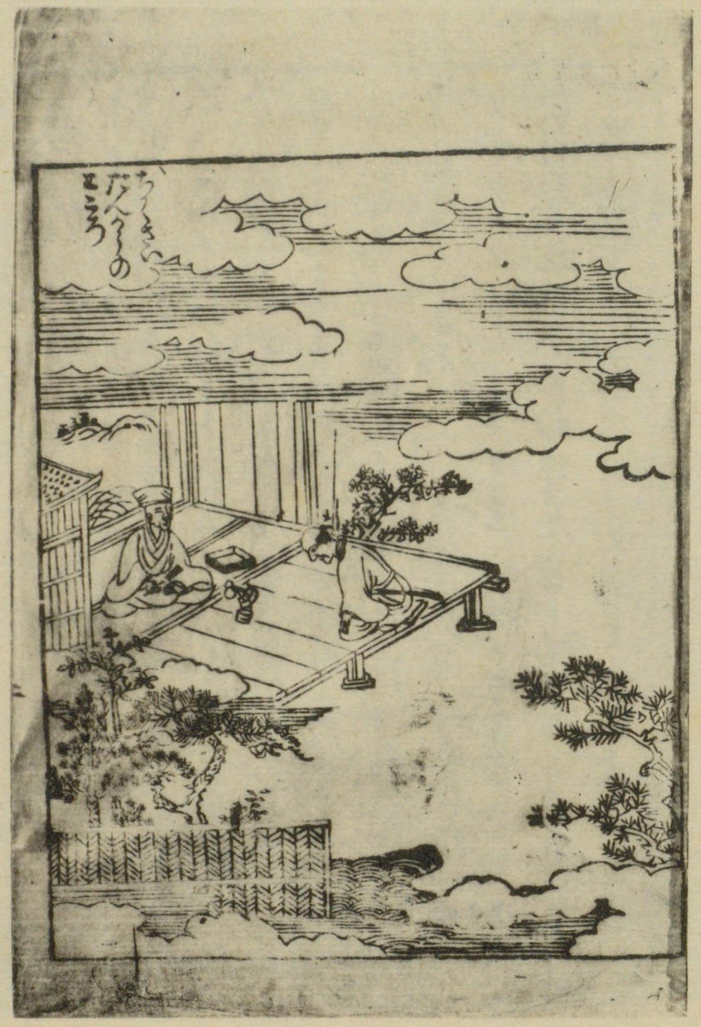




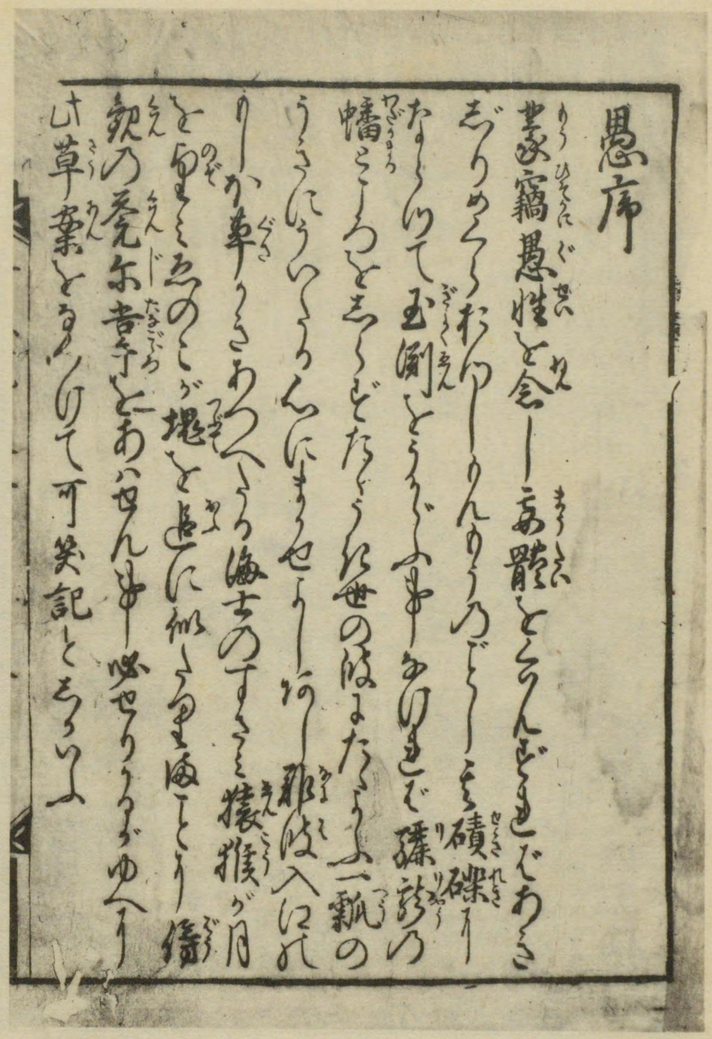


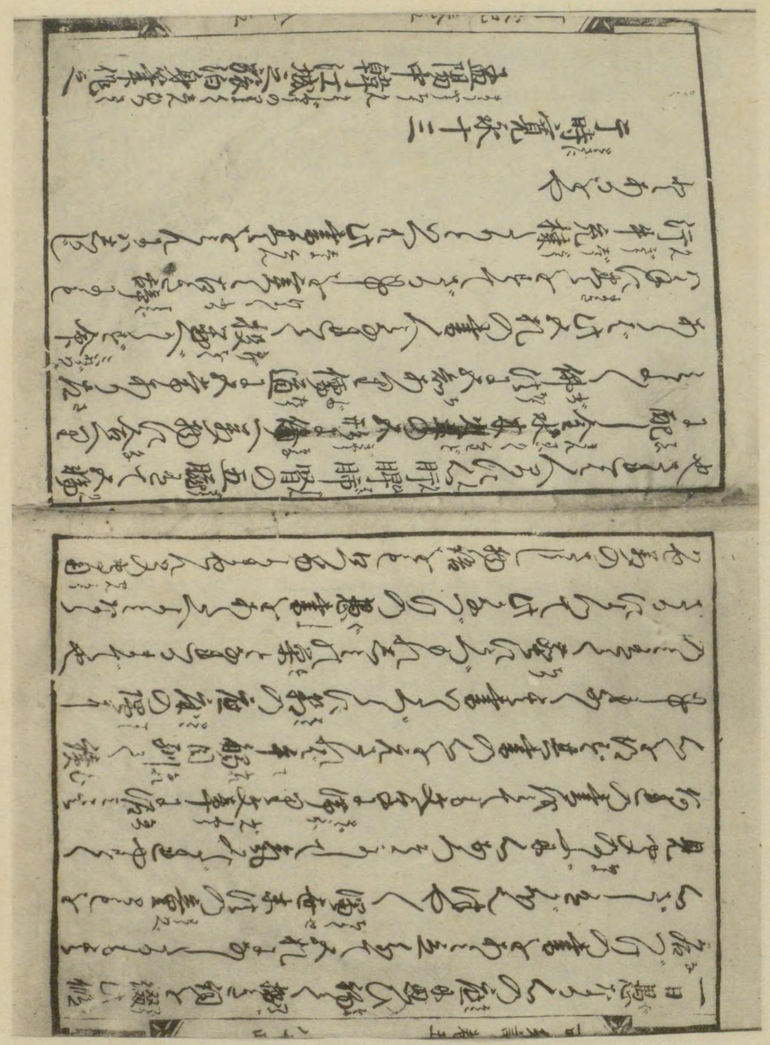


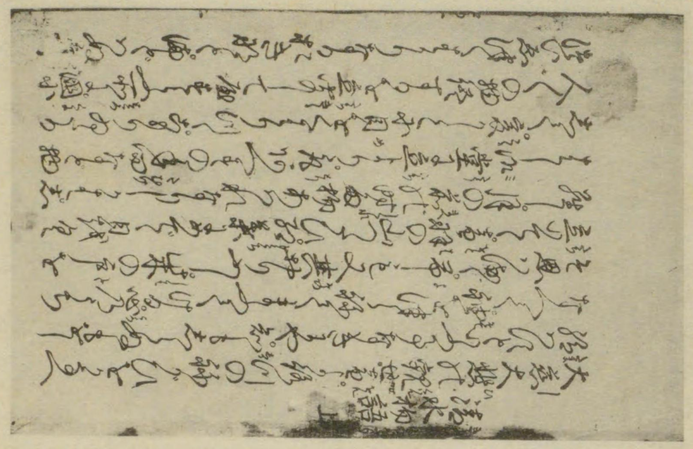
tf14 4 29
298641

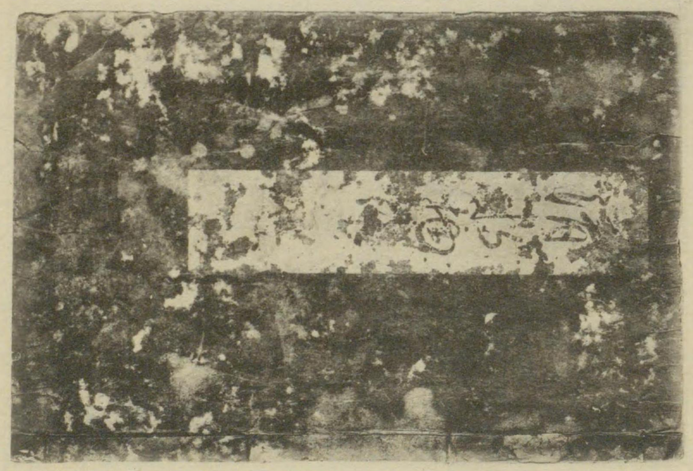


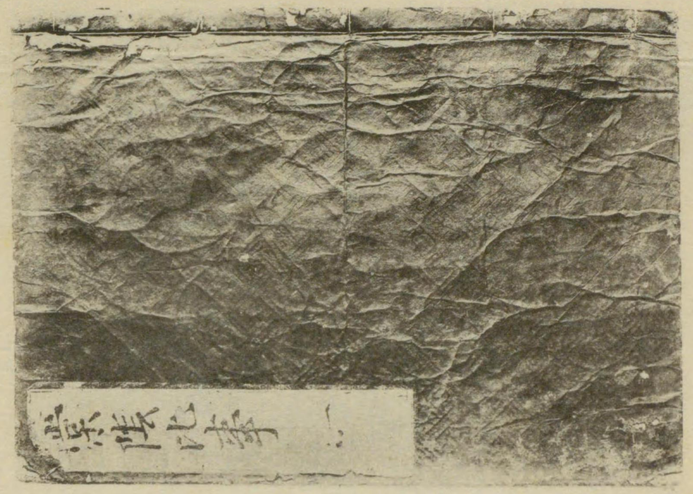
愚序

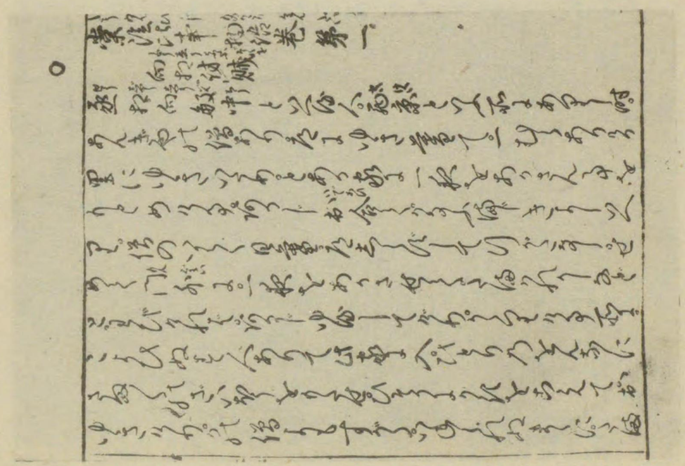


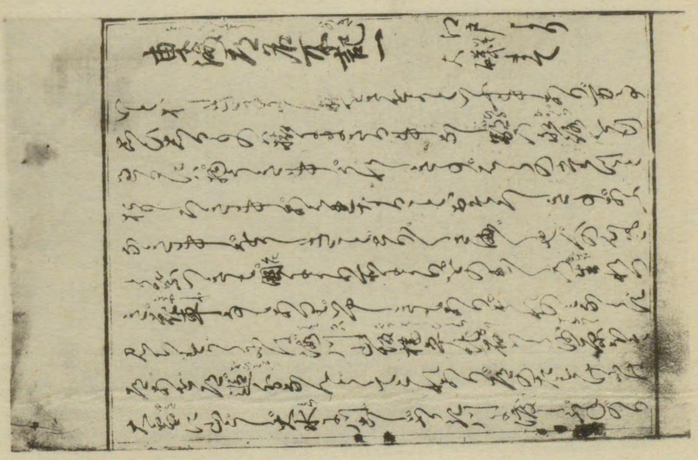






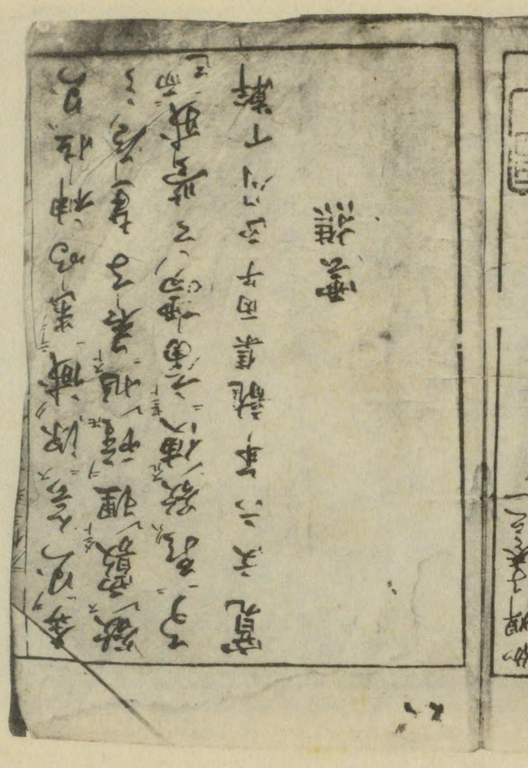


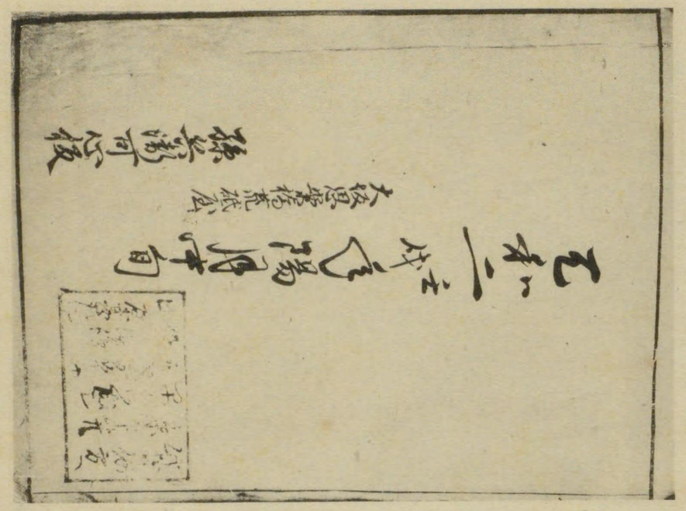


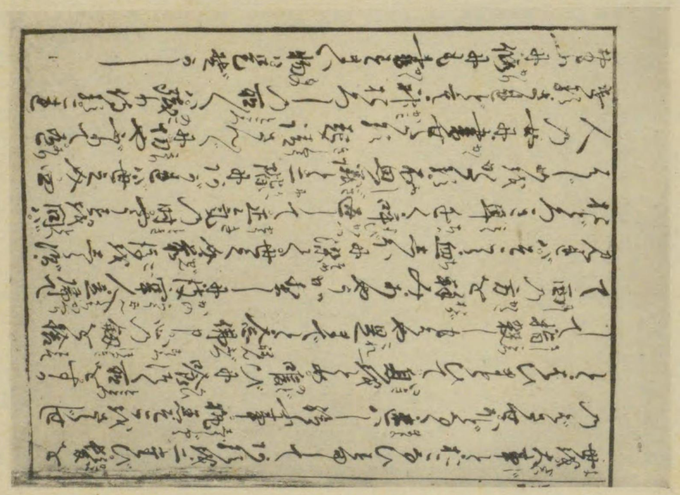


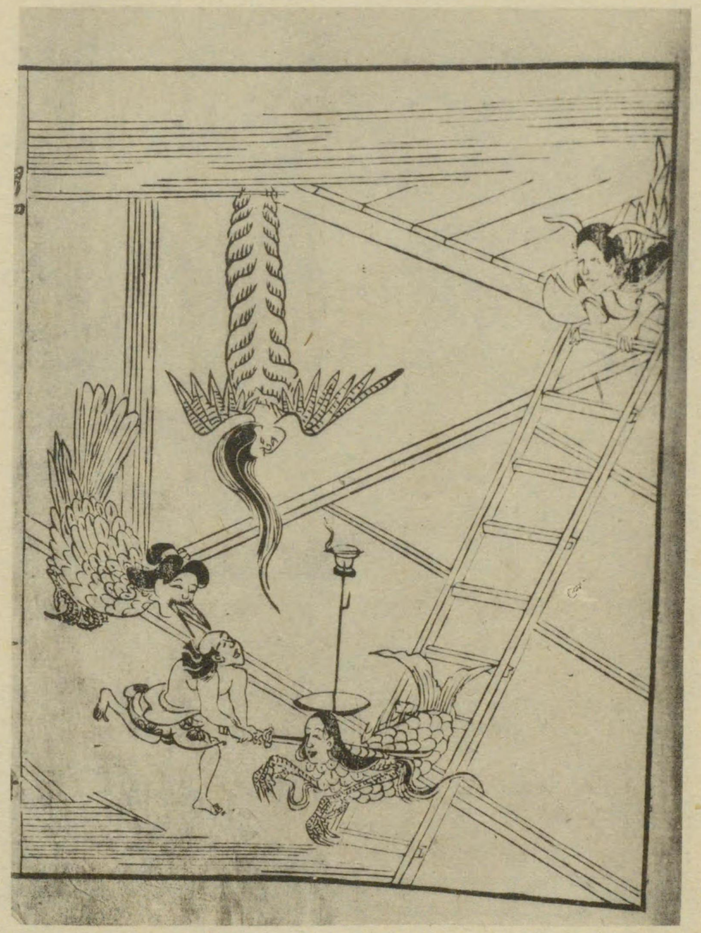
二人比丘尼

来て少時もとゞ御らぶるを。おこる時多の
住家生滅を此河に定かたし。さて再び
御らぶ鏡を冥途さやくしやうの別也。後悔と
謂ふ事にかゝりん。尼鏡も雲も皆あぐにかり。
小洞を小芒乃露に添。しらしらしきも
おほくかくまれ。ひかしき恨を東岱乃娘に
ぬ。たとされん。情小甲斐かき。幻化の形と
流して益あるが。ゆゑひの身とおもふ









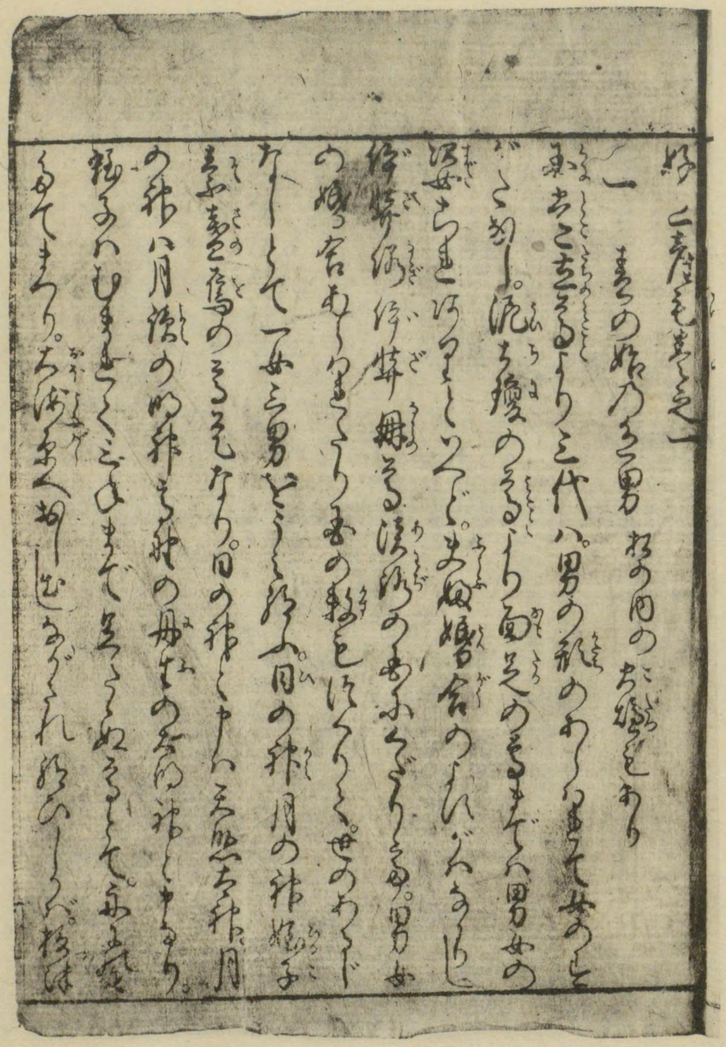
男色大鑑 第八卷終

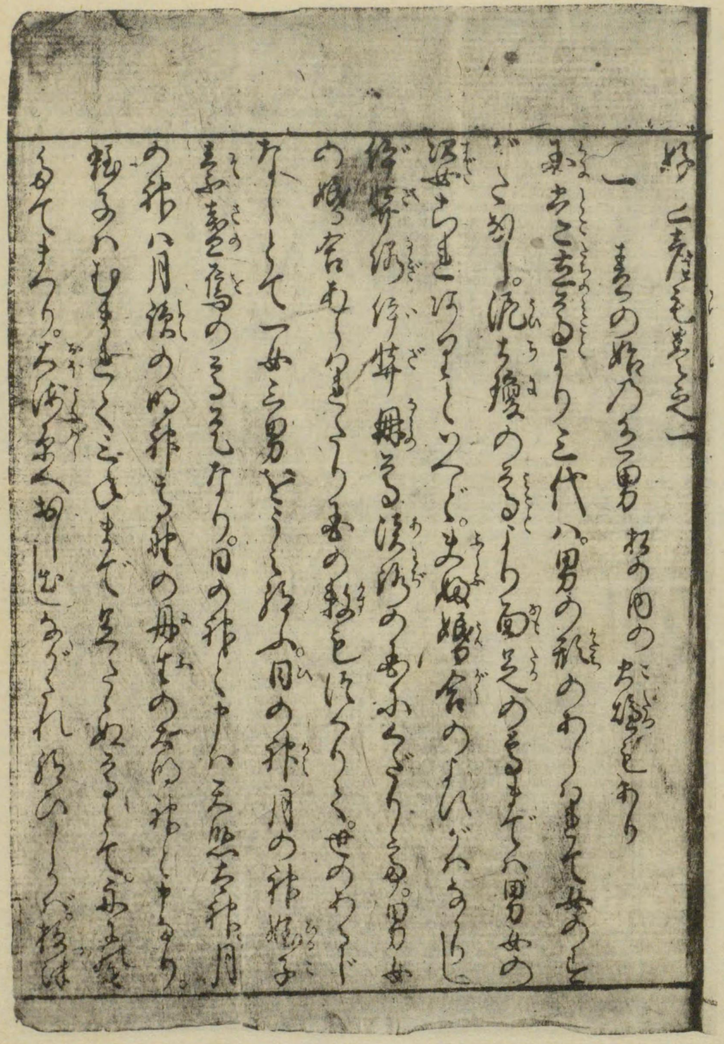
貞享四丁卯年正月吉日

大坂伏見呉服町淀屋橋筋

書林 深江屋太郎兵衛板

京二条通 山崎屋市兵衛行





女大名丹前能

初巻

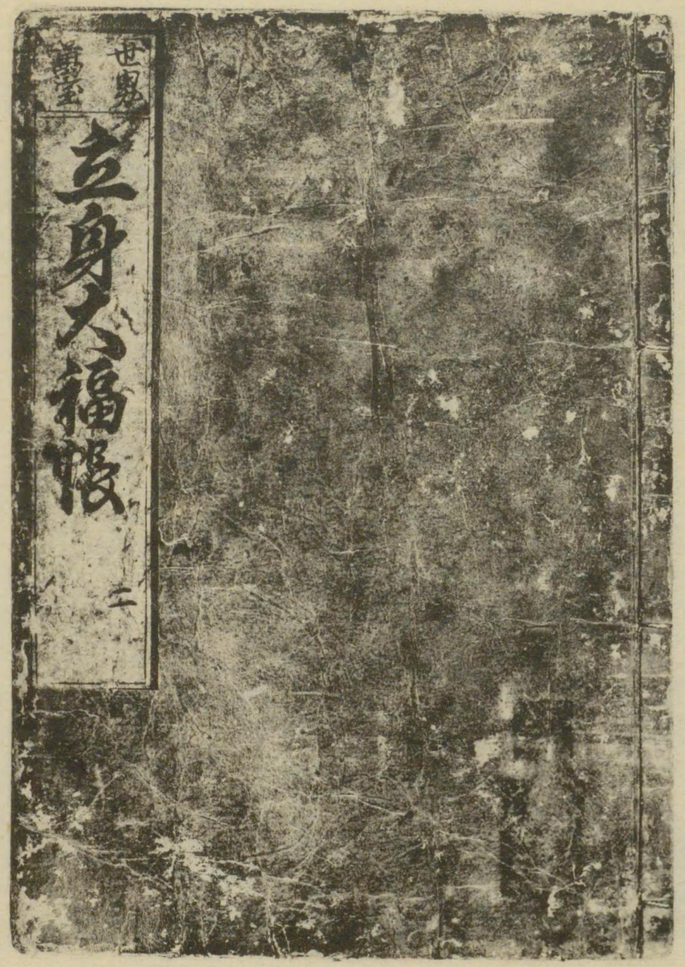
目録

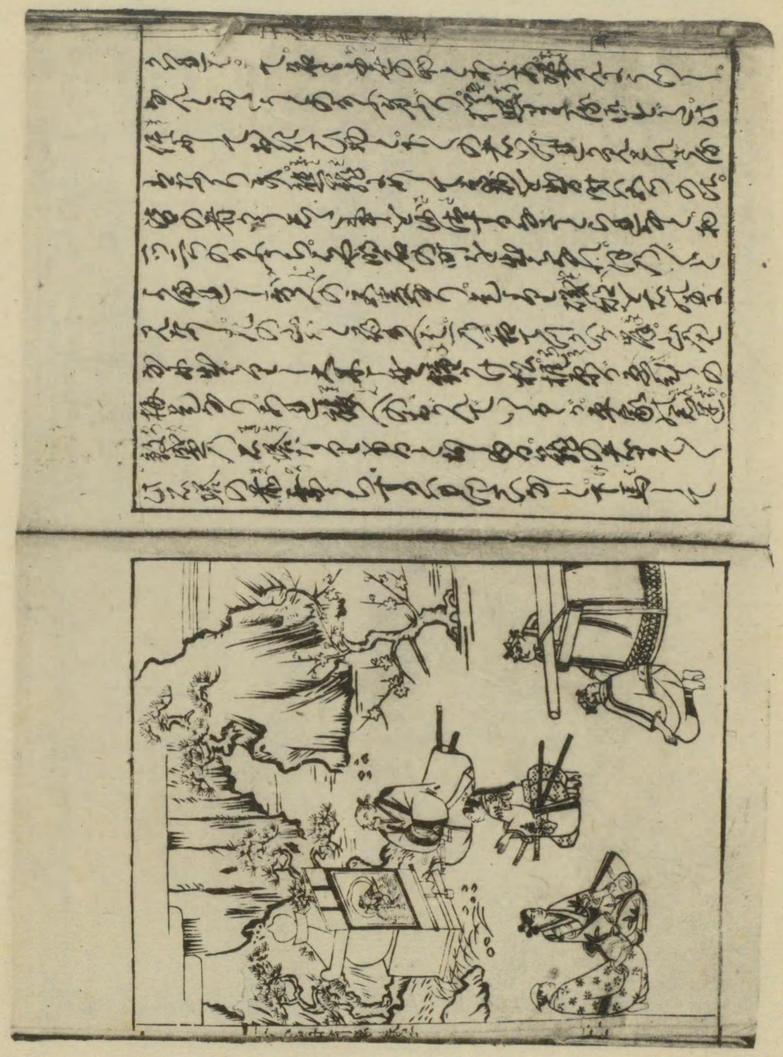
序

殿様の物好

凡例

御前様の笑顔

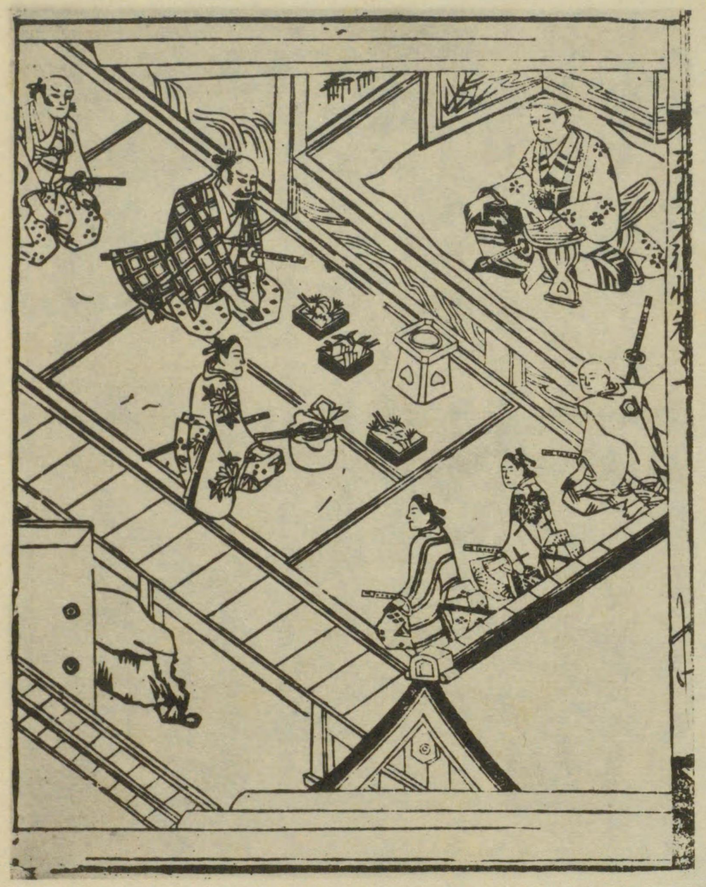

世界
立身大福帳
二

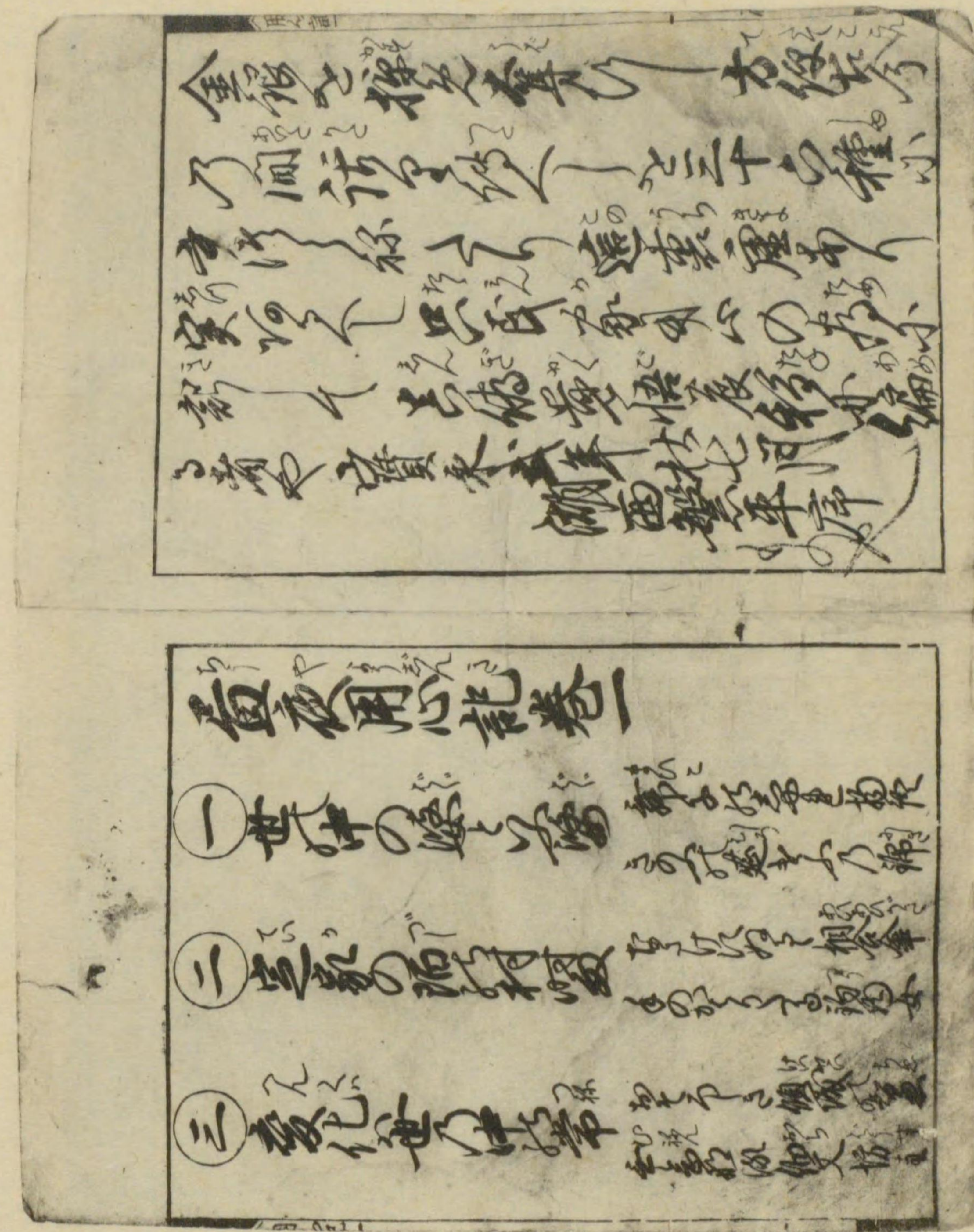


立身大福帳巻之一

○貧福ハ一心ニ有

諸侯ニ君子ハ有ニ我ニ其ニ為ニ有ニ事ニ今
学乃眼なれバ第一に渡て人乃おしへとれる事今
更ニ元ニ御ニ為ニ有ニ べし 億兆の人乃中に分限乃名
我ニ元ニ銀をたゝ家ニ我ニ乃へ当ニ有ニ をれし
て分ニ我ニ おさめんニ我ニ正しうまるにさい毎年ニ
に元ハ勢州松坂ニ居住し世界ニ功ニ我ニ立て名
を天下にあらハをし。先所人のうち川里若衆
とて異国乃長良に元ニ当ニ ひ家ニ乃楠ニ元ニ御ざ





39

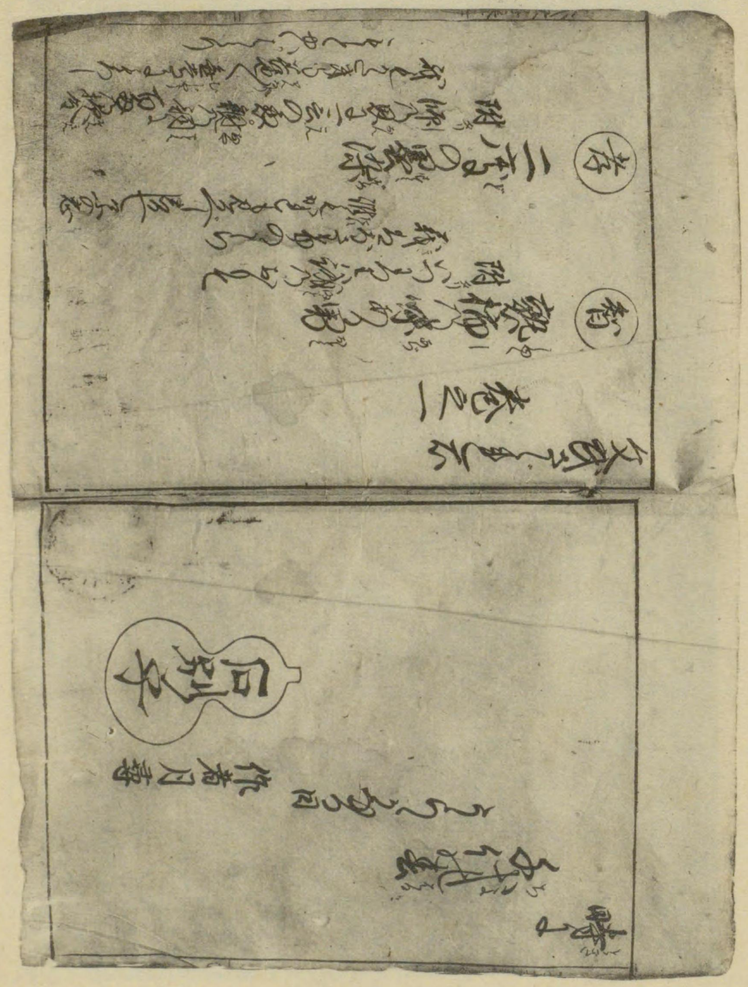
40

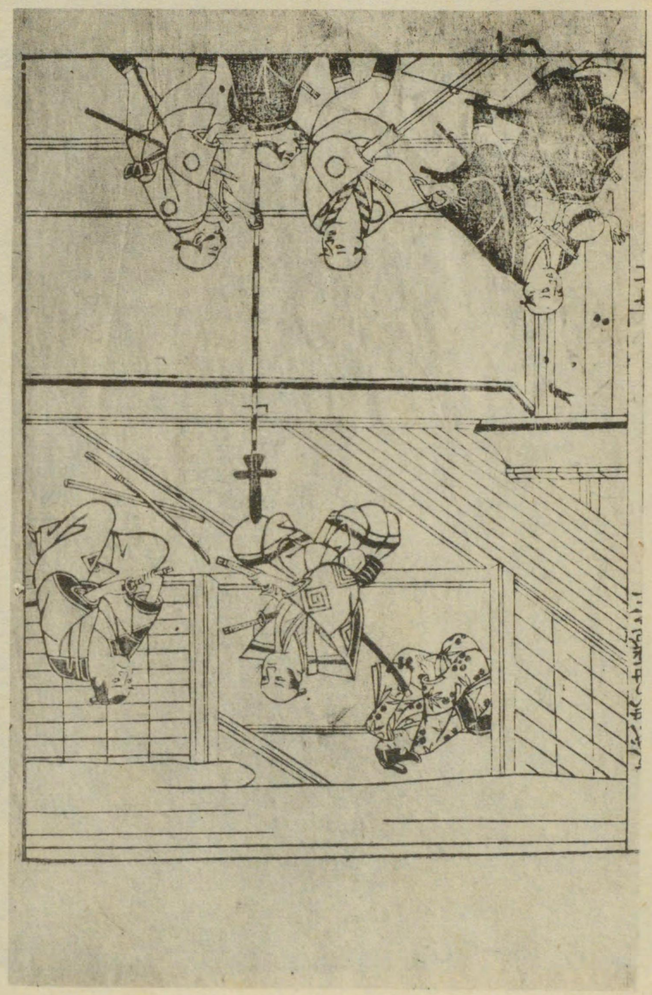
一 世の人は鏡山

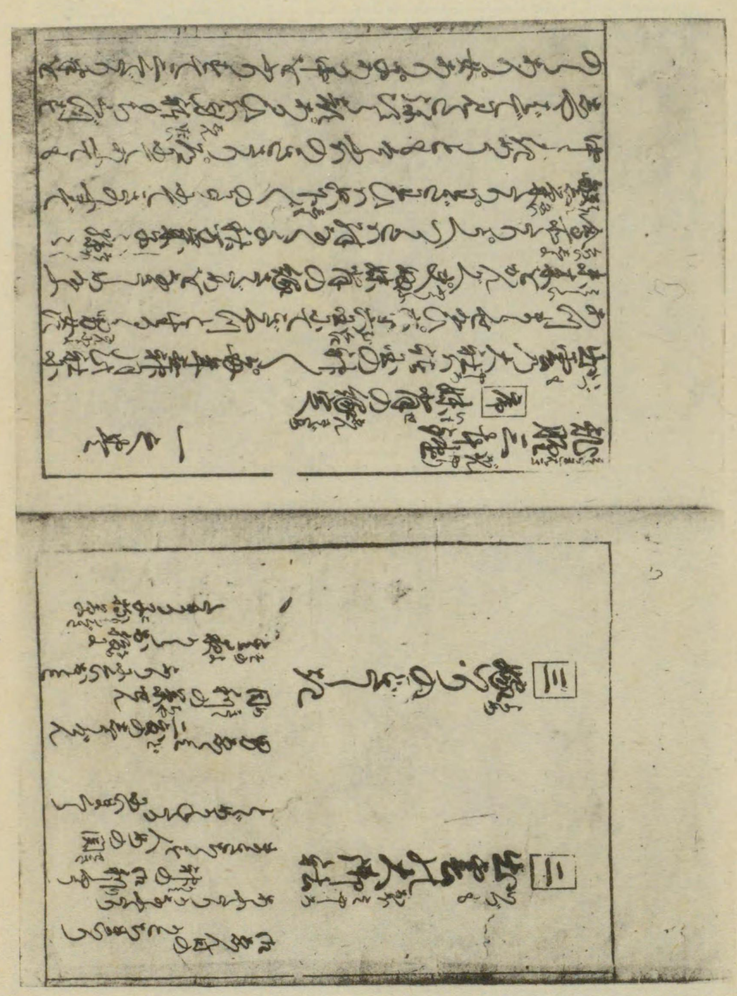
親に冥。月にさうつる日のことゝやゝ。色やそれ何のもとき
志まに。秋の回は御製に。俳庐のかゝりしひと義をとが
し。ほうち祢乃なぞずやとくろうをなぞれし。よしこの
かねが後のあとかげ。人のみてうをあらをしまかしこれは出の
巻帝。巻風うぶふうにはきびさまじ考にまくらくるみと
出て巻とよ面しせ。又反哺鳳といへるは鳥はすなわち
いされ時親がすに食と口かゝ口へくあられゆへをて
親鳥。しげかゝ食とをとめがめかとみ鳥かあさりきてあ
て。むかしのむとくくあち面しむ。さゝれば人の親は

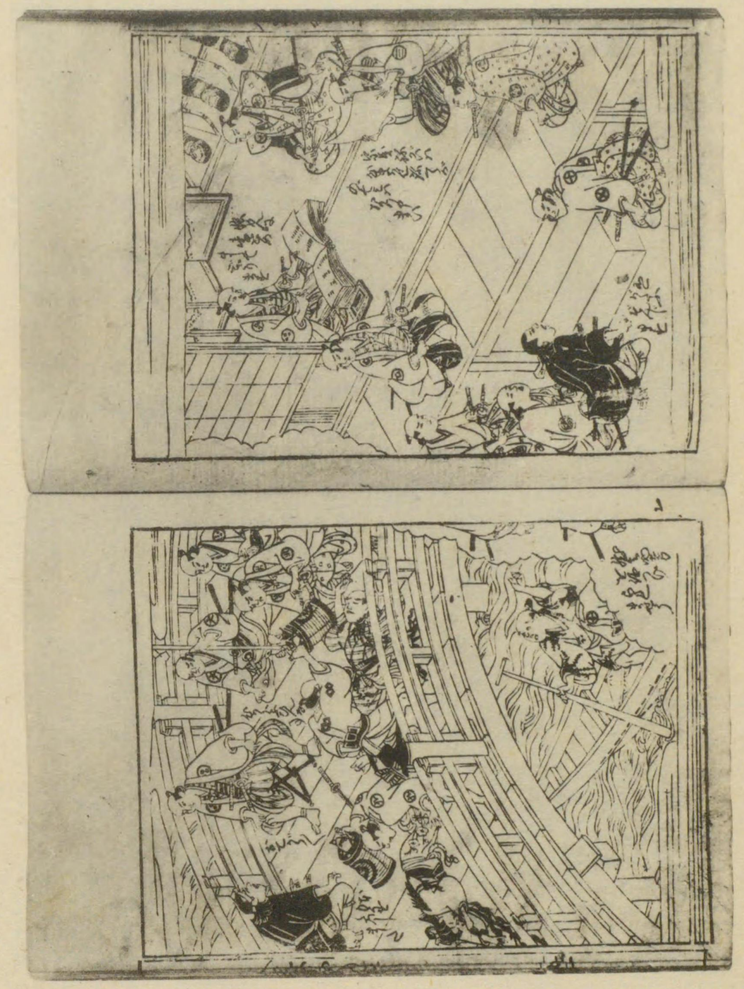
44

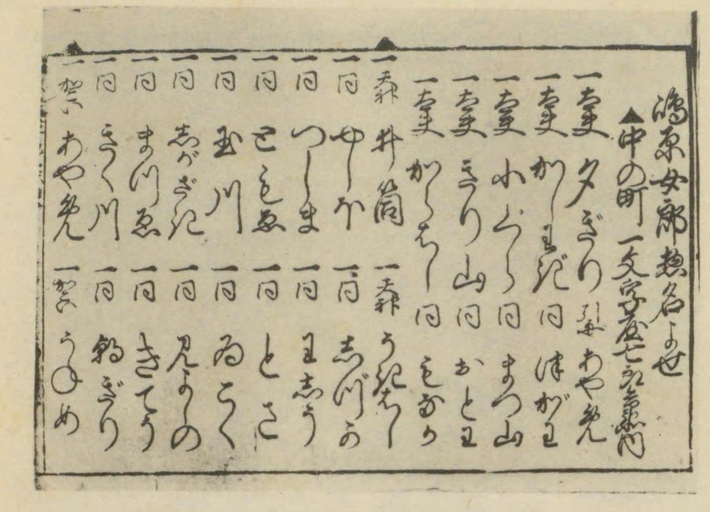
43

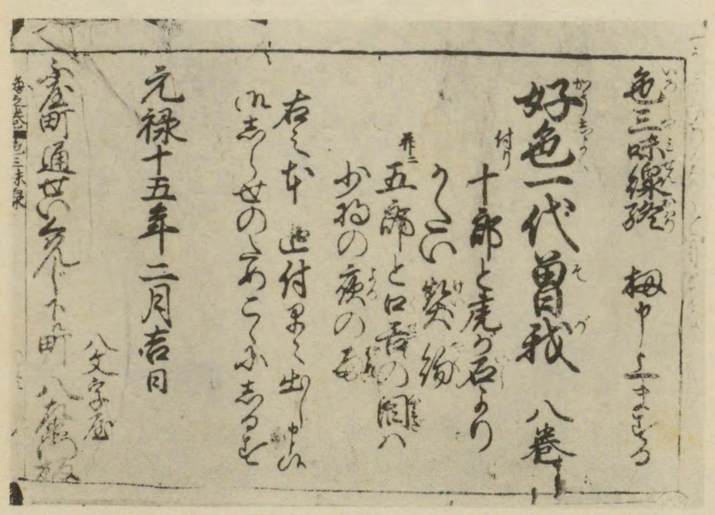


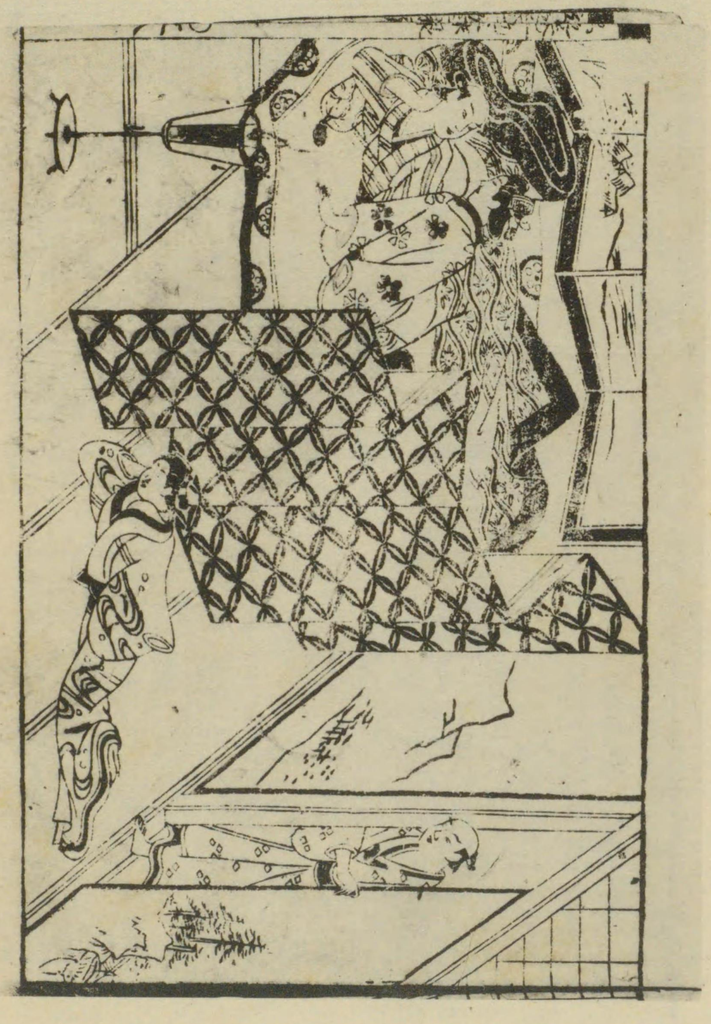


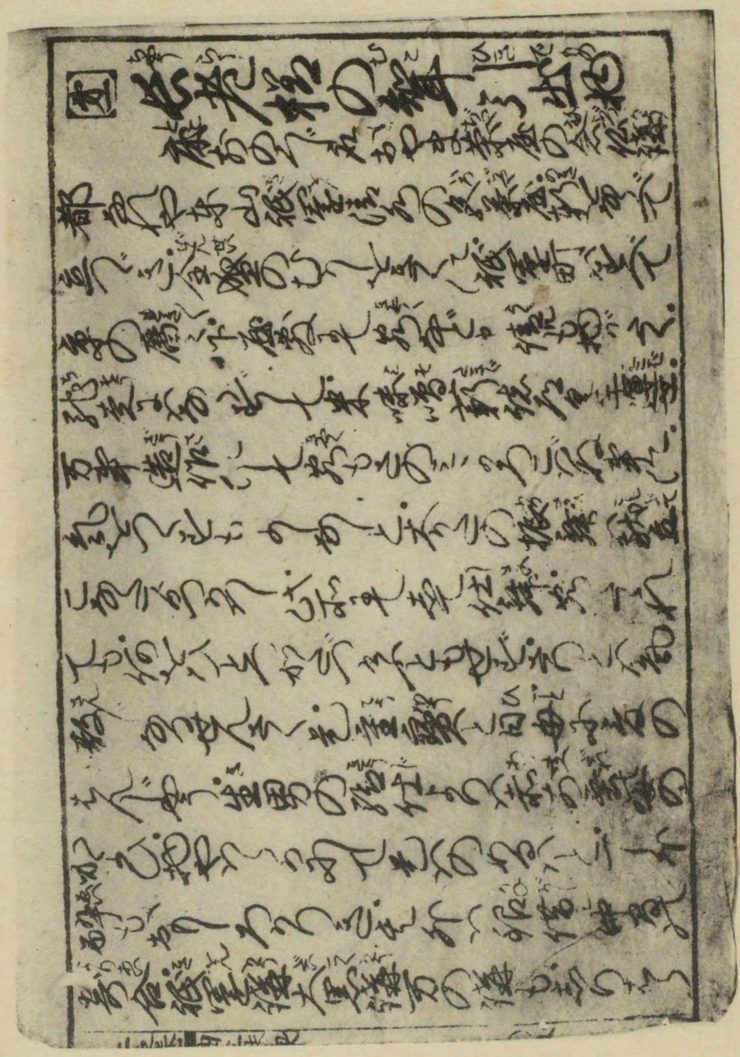


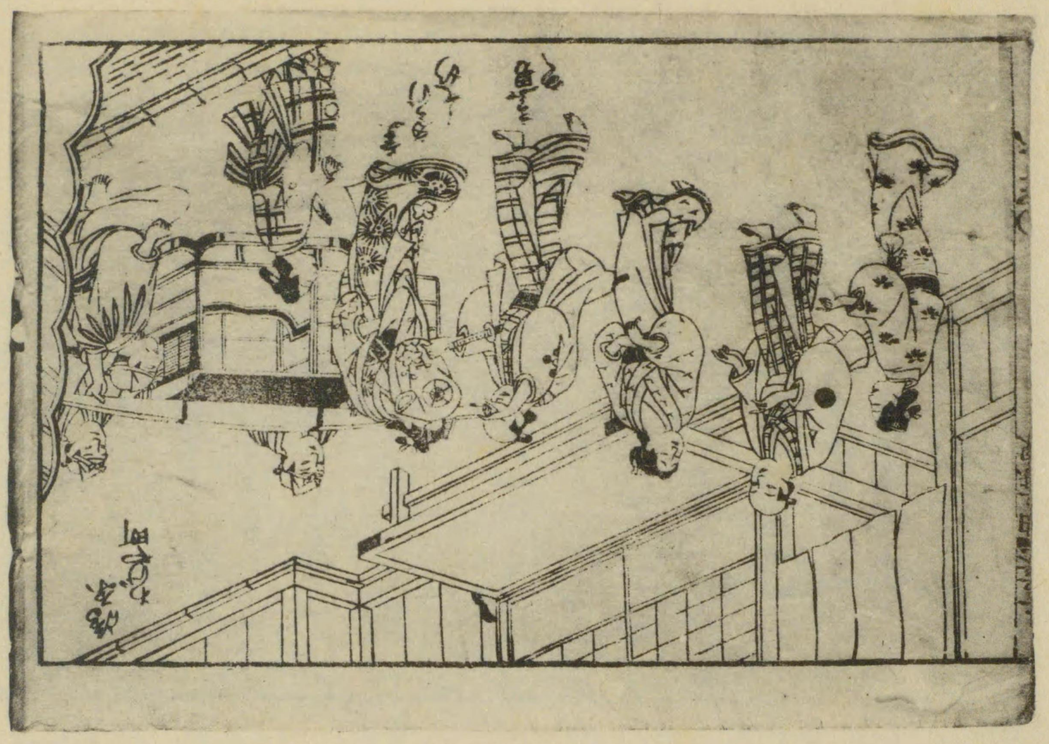


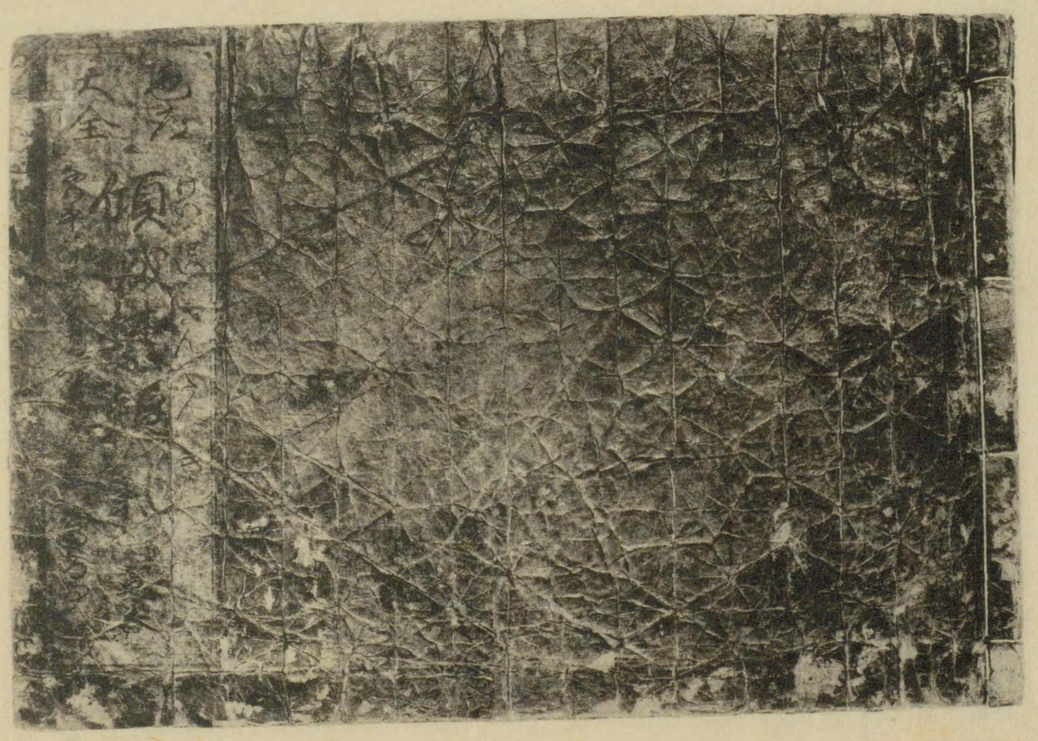


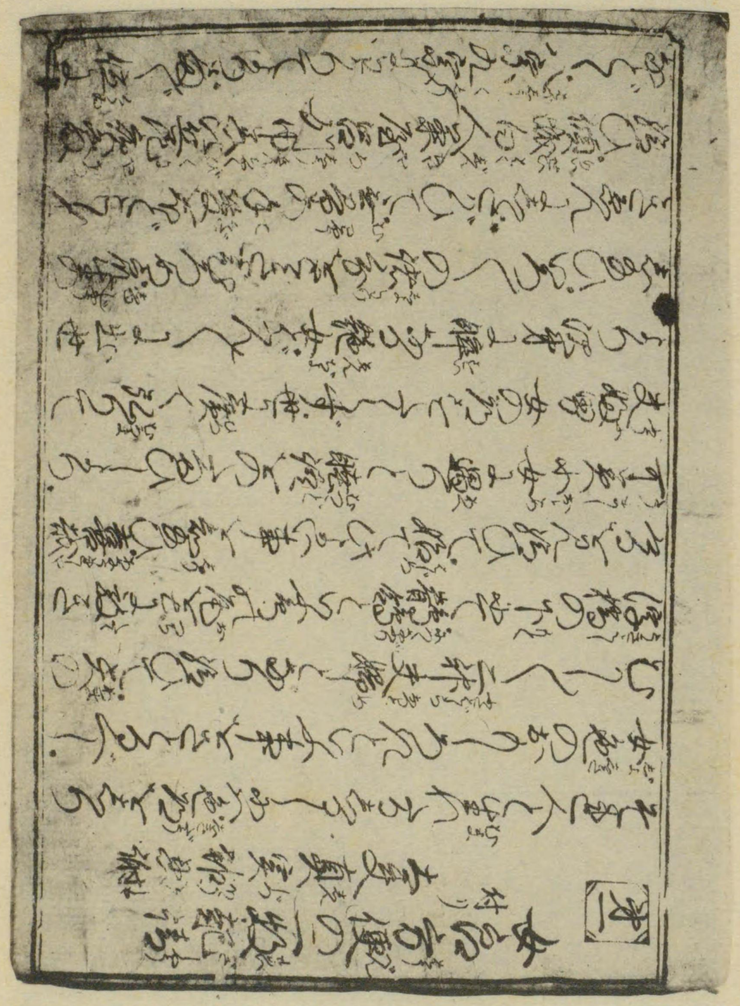


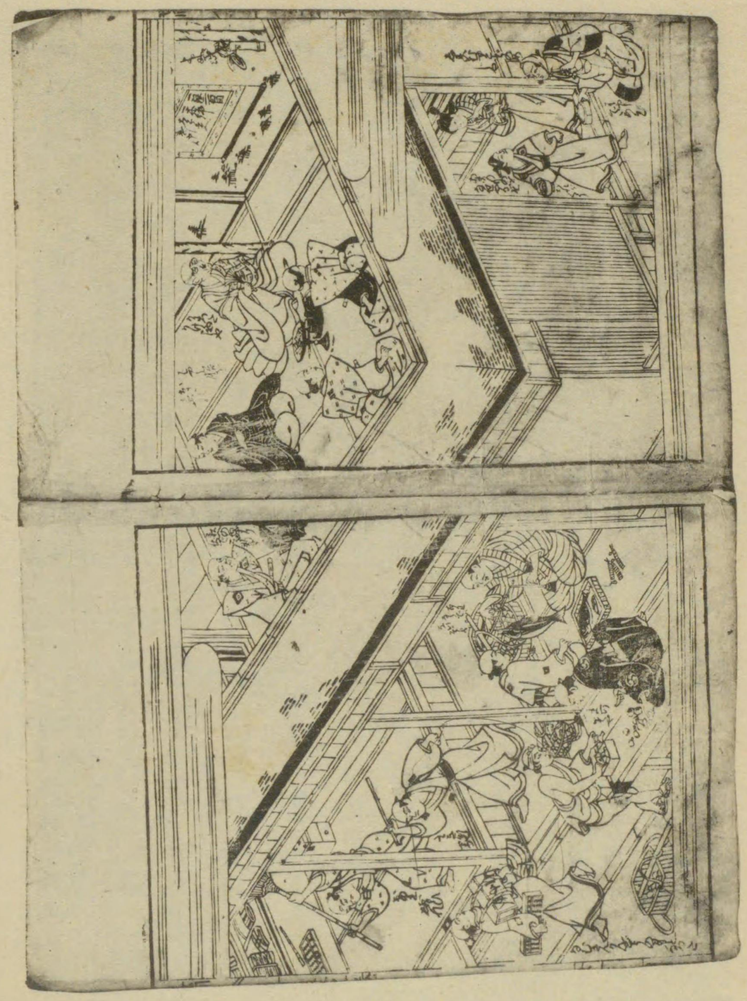


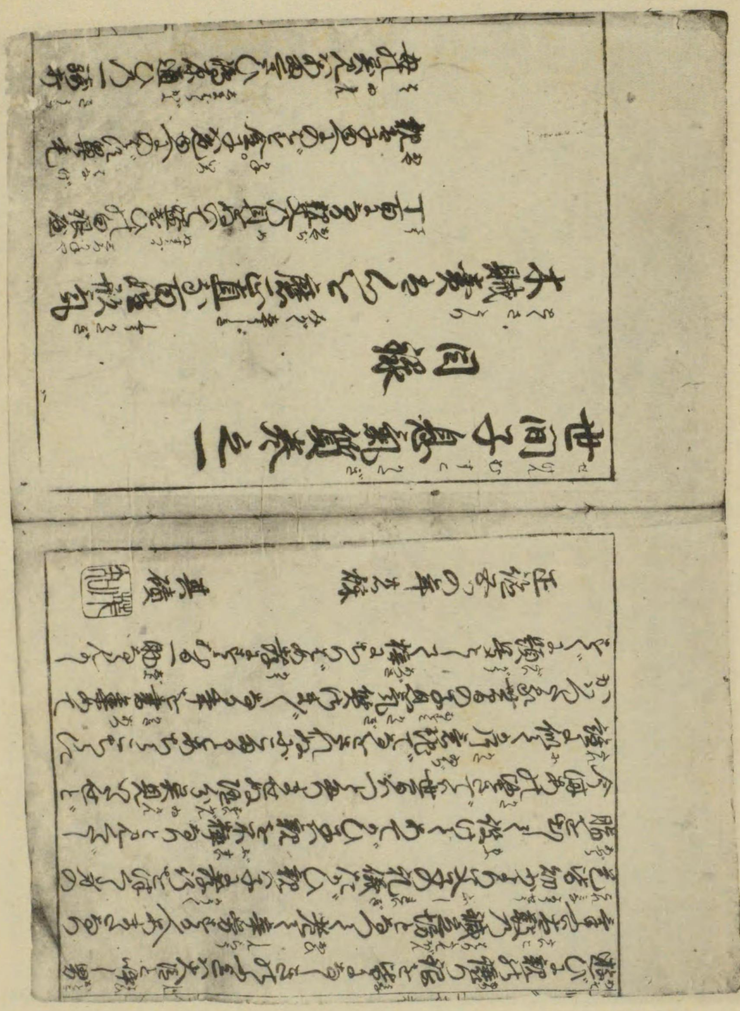






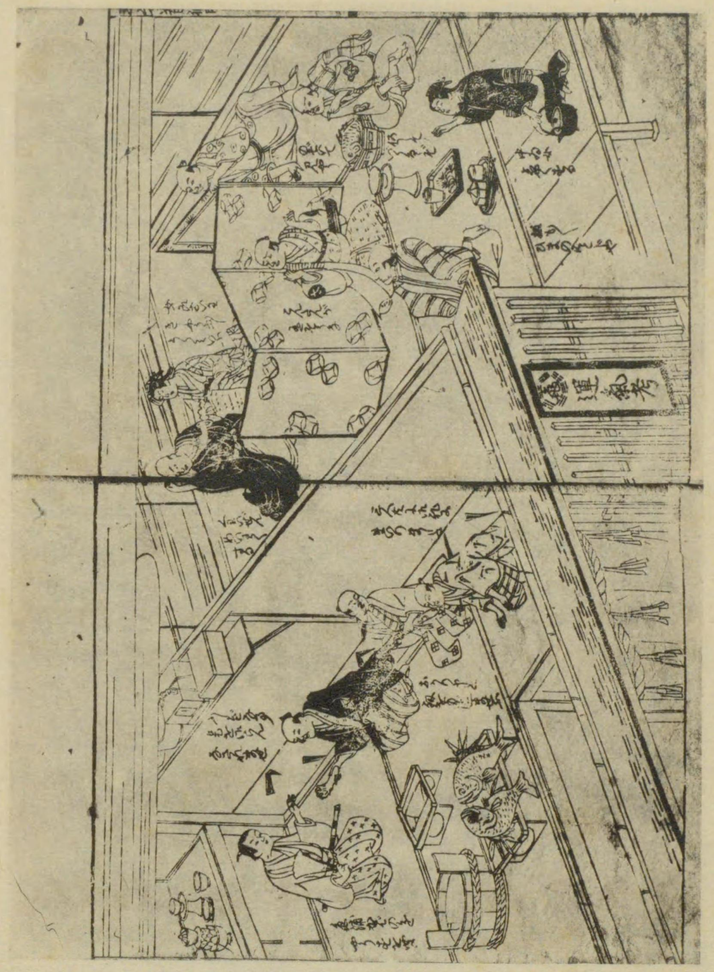


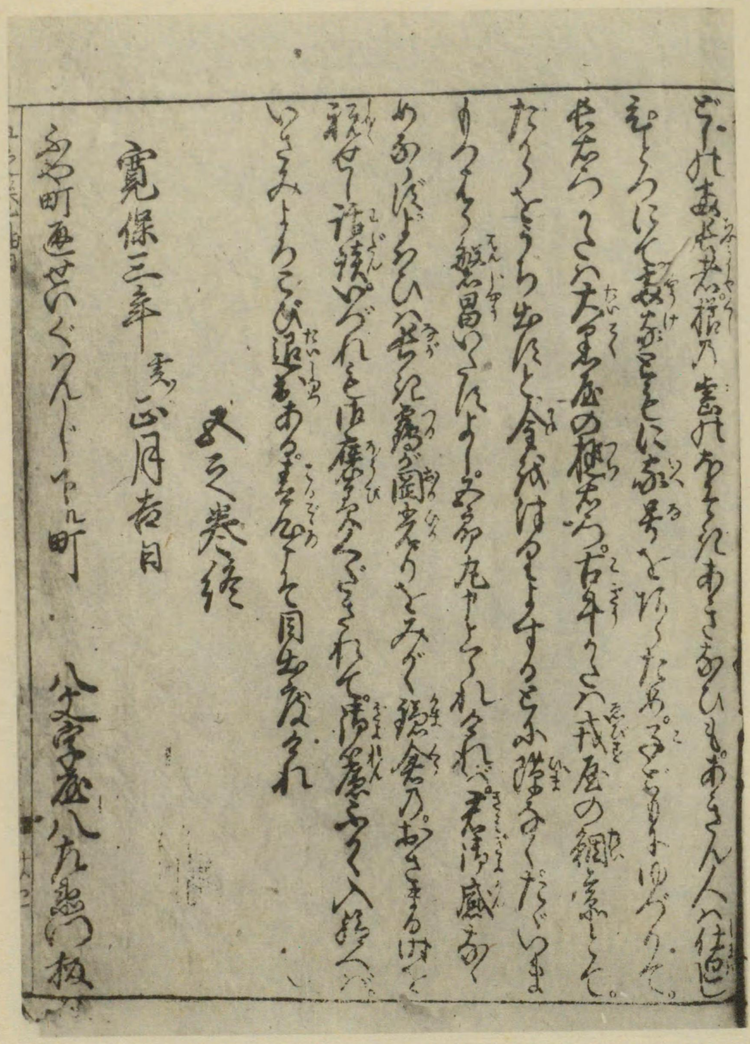




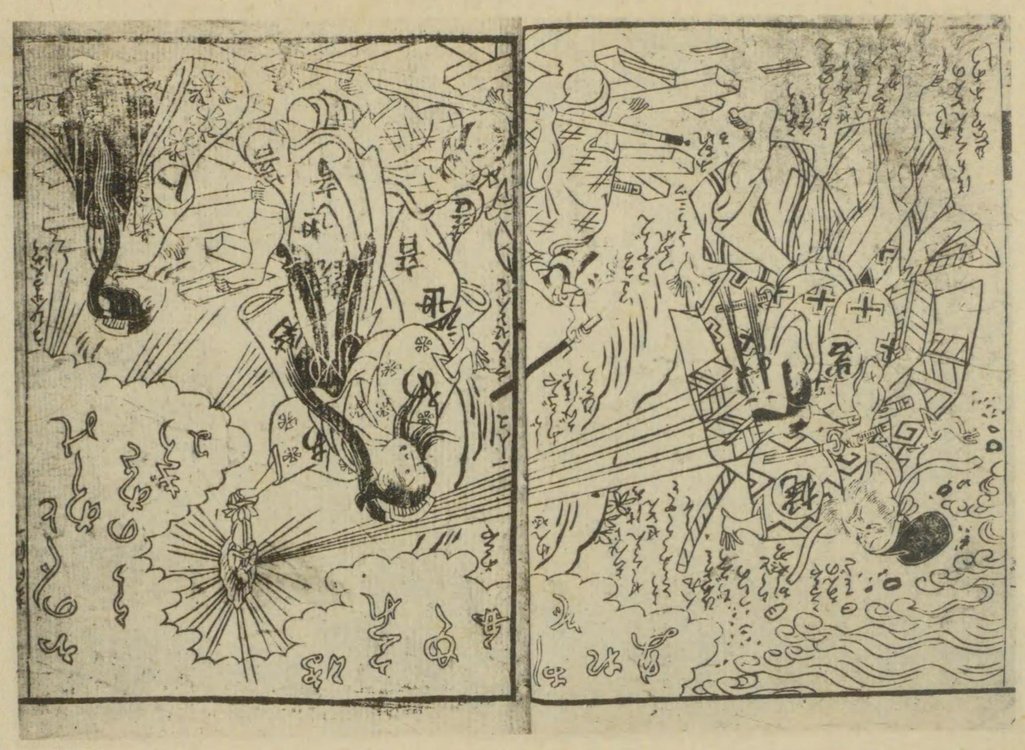
一 親ハ石部長子ハ綱に包まれて和らか育

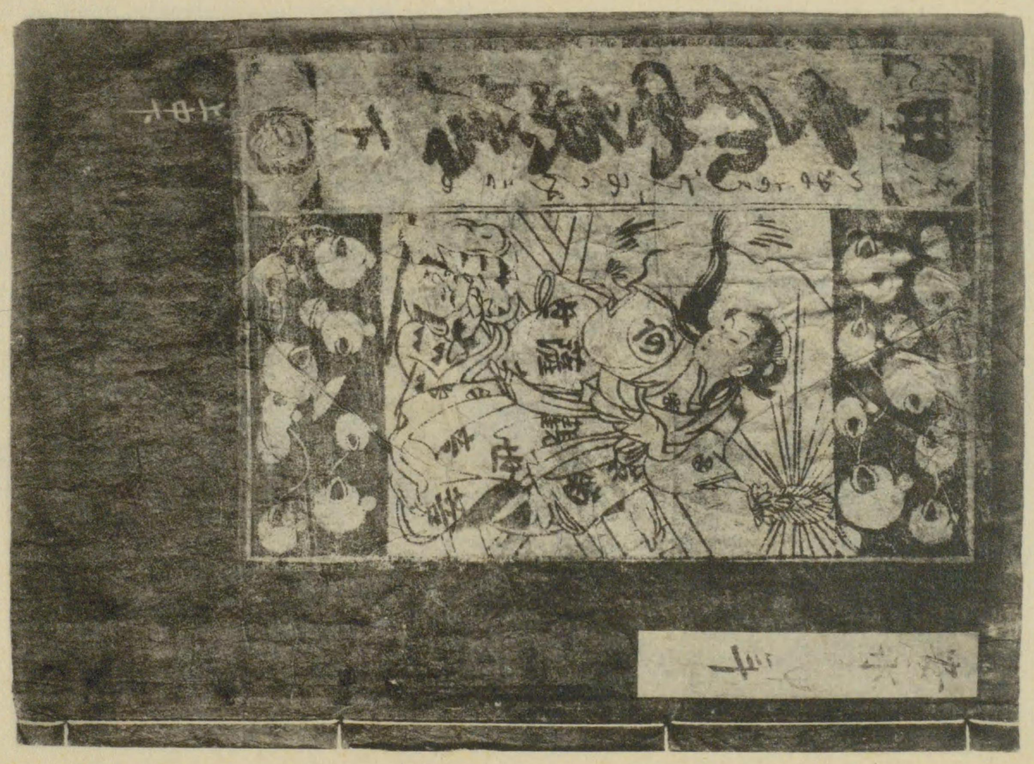
惣て都にかゝれなき。分限者の出人征も。差し出時ハ裸なれども。
それ〳〵の家業に沖ぬかく。費なるに金をちきぞ。始末を才一本
して年〻もうけ溜く。指打の世界縦にものうぬ。生れついてよい仕合
といふハ何歳ハ面くれ智恵才覚を以て指出し。其家栄る事
ぞ已されば昔より世界二代なりといひてゐるハ。必一代を亡ぶハ
わらず。先祖ハ後が身上なれども。一生辛苦を積て漸く富と
いへども。子孫に至りていつとなく家事風流に如何。艶女また
ひとれ。金銀あらはまりせて諸出。傾城ぐるひに賊寇を誘ひやし
失ふて。おとゝ家を潰す人。古今めづらしからぬるなり。惣て町人ハ
つゝの稼なけれバ。久しく富者をたもらぬ。親のもうけ溜家れし。

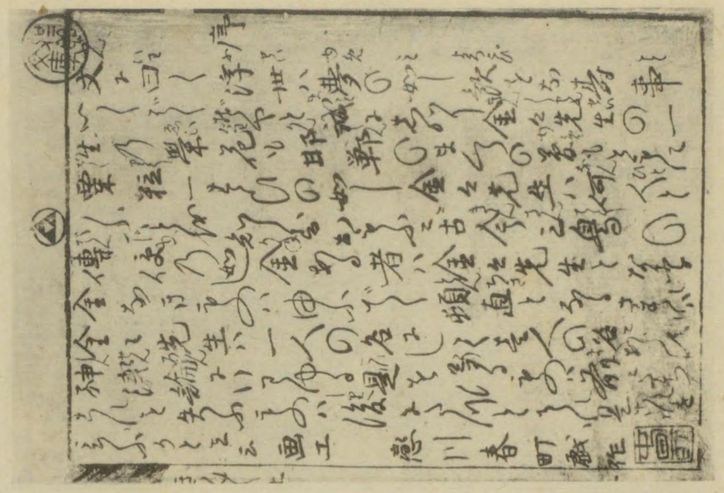


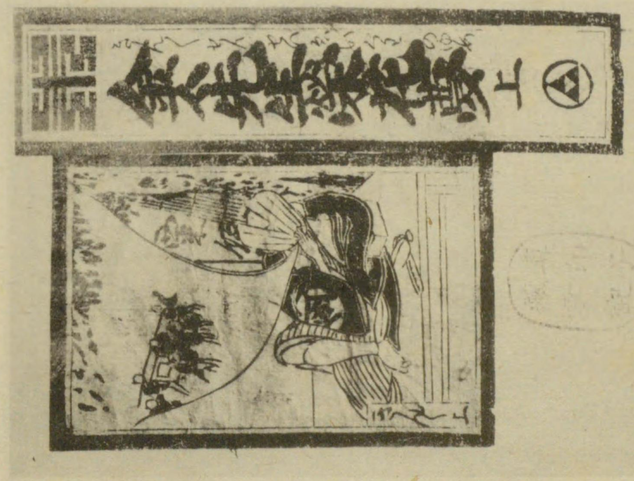


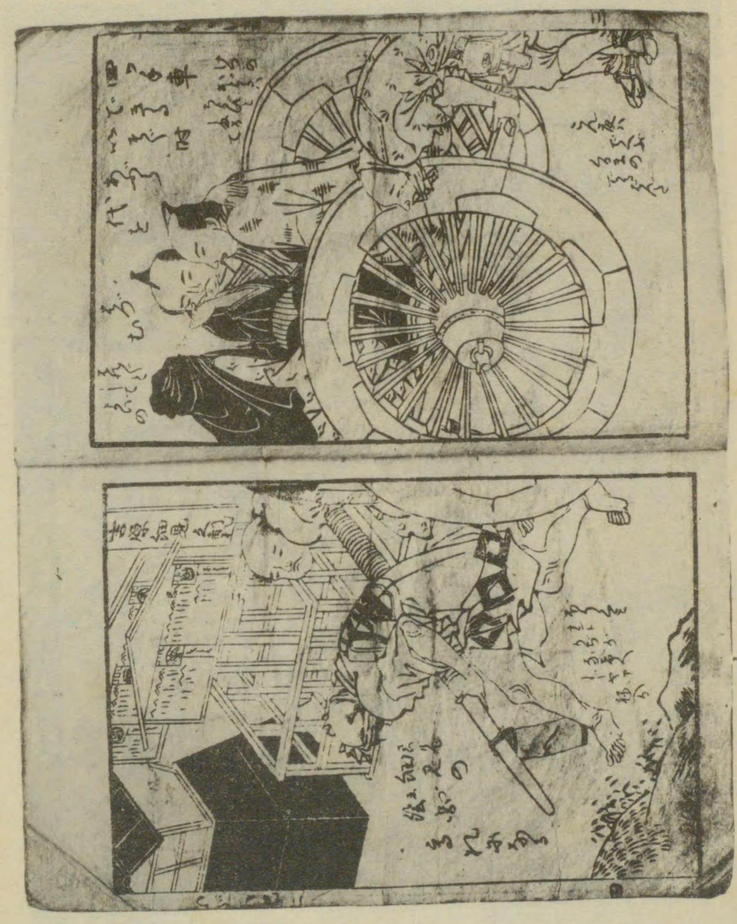
寛保三亥 三月吉日

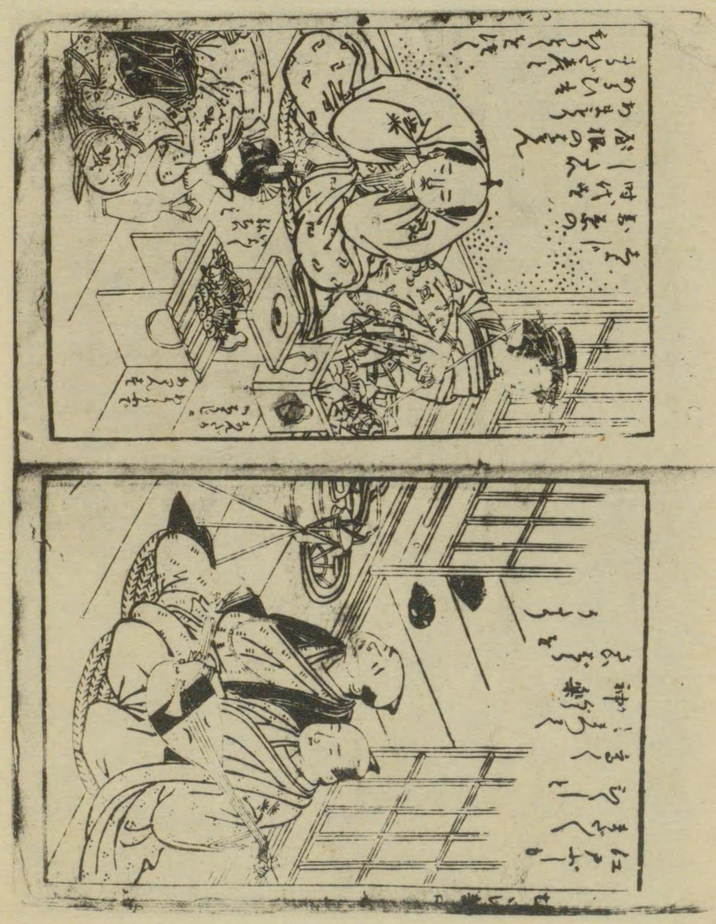




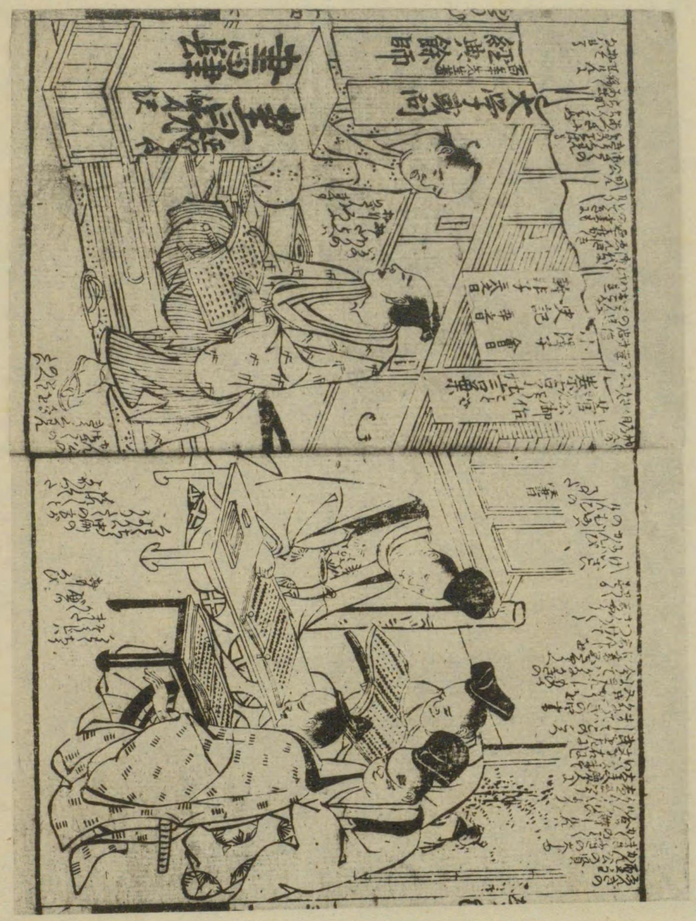




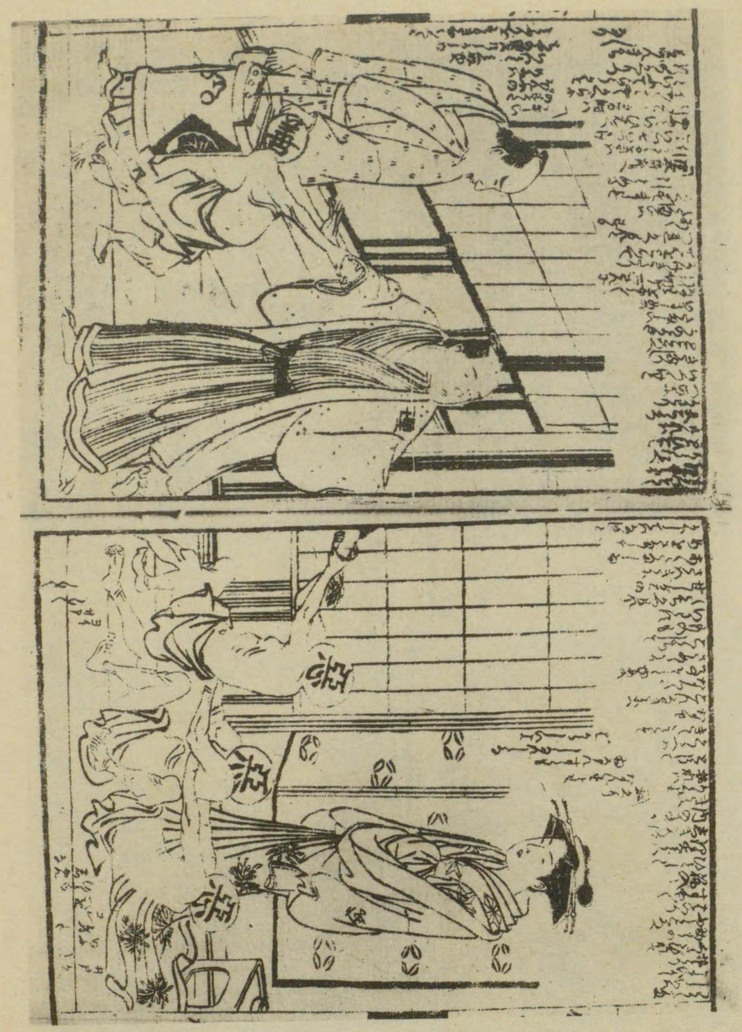




ア
寛政
恋川春町作
北尾政美画
鸚鵡返文武二道中

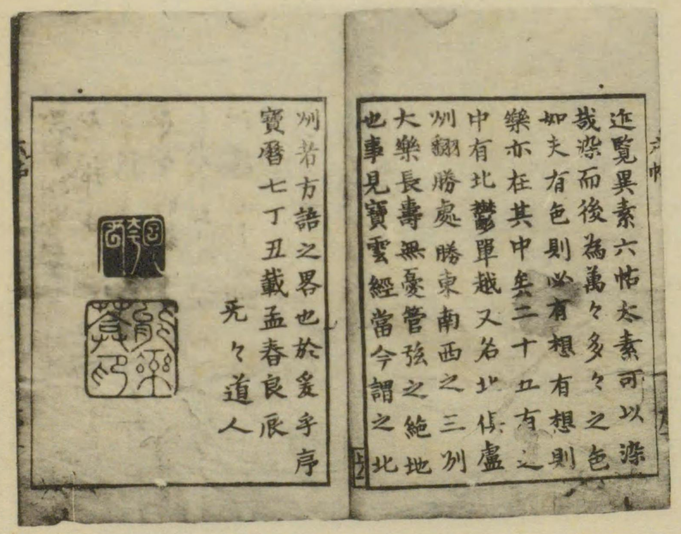


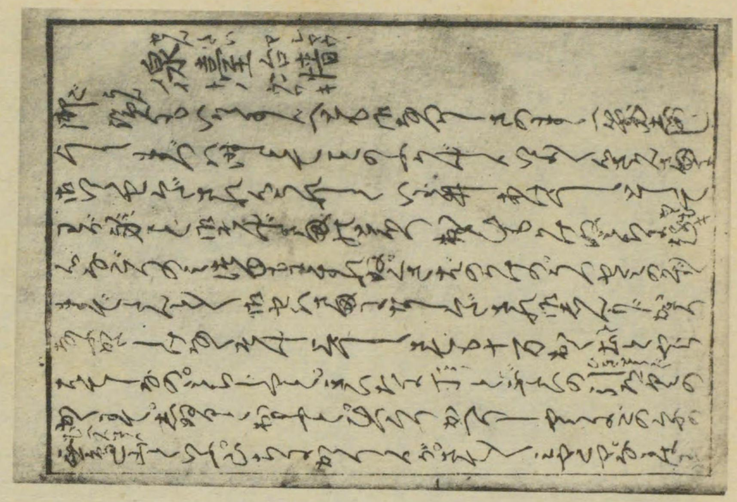
完成二
心学早深艸
上中下



泉臺冶惜序

松江子氏中村号玄兵衛妓優兒也頻年
輝美名於長安日々富姿色月々長歌舞
其上劇場也巧笑辟易花美目惱殺人鼻
以足穿石女之腸靨以堪盛老僧之涎夫
始而入場者憎憎不厭擲爺弘賈之身臺

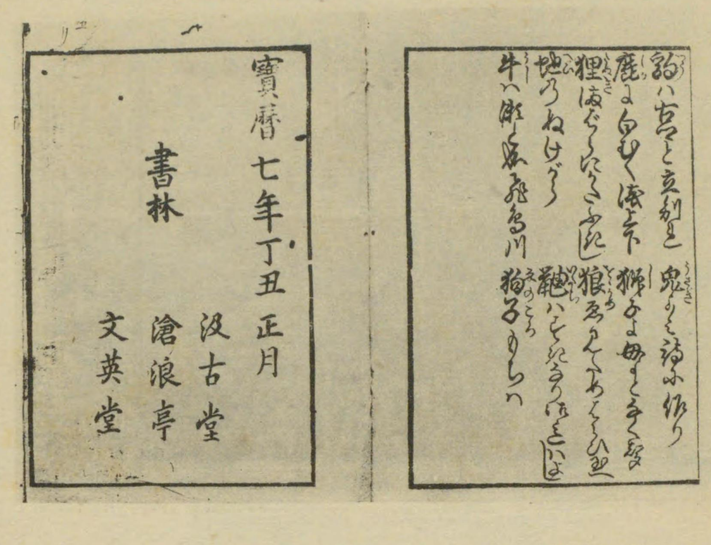


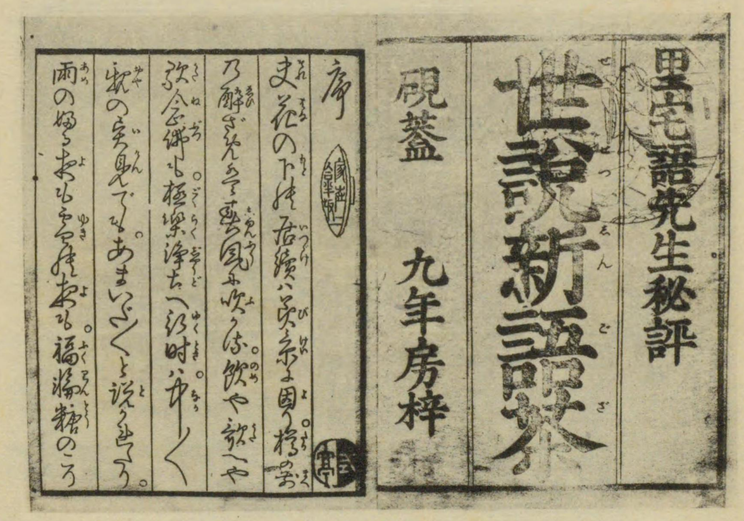


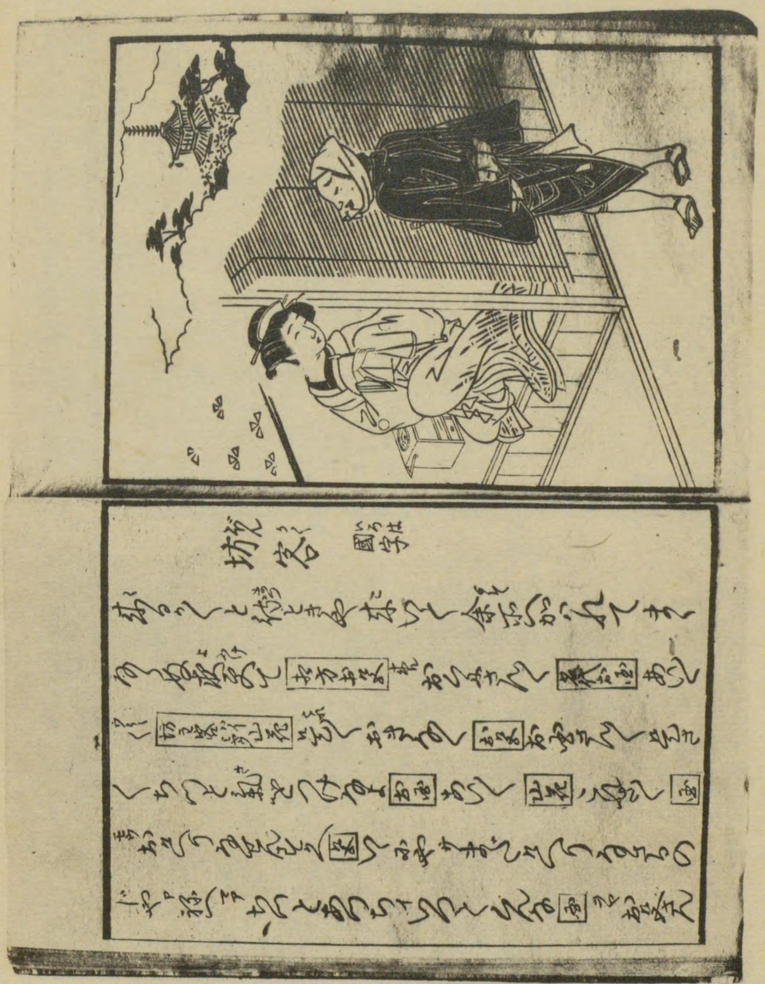
過目則奪精蕩魂其香一觸
鼻則飛心斷腸加旃霜露不凋
風雨不摧取之無禁用之不盡
春秋晝夜莫時不芳菲奚爲與
艸木花同榮枯哉艸木花猶且
賞之況於此花乎北州之遊嗚
呼樂夫因以序

田舍老人多田爺謹書

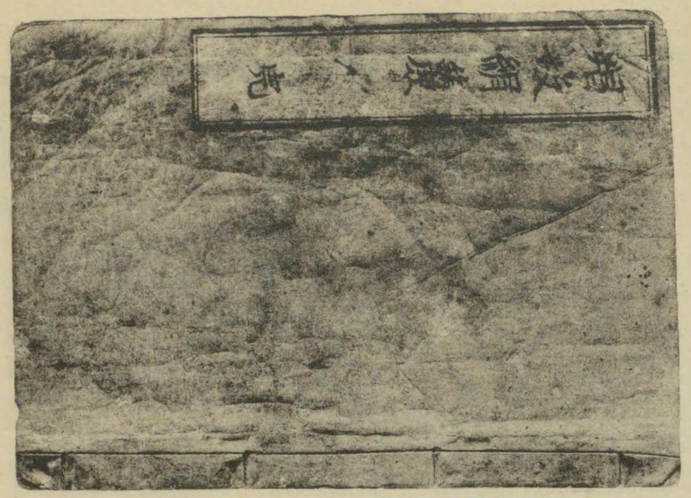
二冠者一曰太郎一曰二郎頃
人雖得十乘之爵侍從不止過
曳長袴而携開扇獨揚言曰寡
八幡大名顯戴烏帽身著素袍

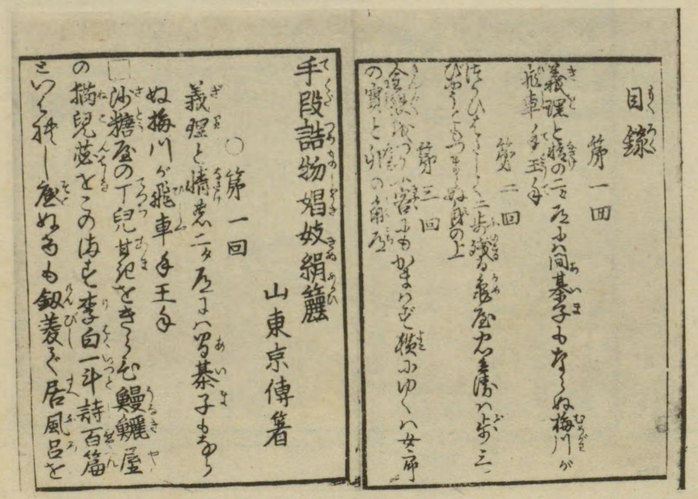

寶暦七年丁丑正月
書林
汲古堂
滄浪亭
文英堂


里宅語先生秘評
世說新語
硯蓋
九年房梓



京傳著
仕懸文庫
大礒廓中尭景
鎌倉遊子傳記
蔦唐丸梓
不許半時
先刻御迎





目錄

第一回
義理と情愛の二ツ乃ハ間基子もなるゝぬ梅川が飛車手王子
第二回
[illegible]
第三回
[illegible]

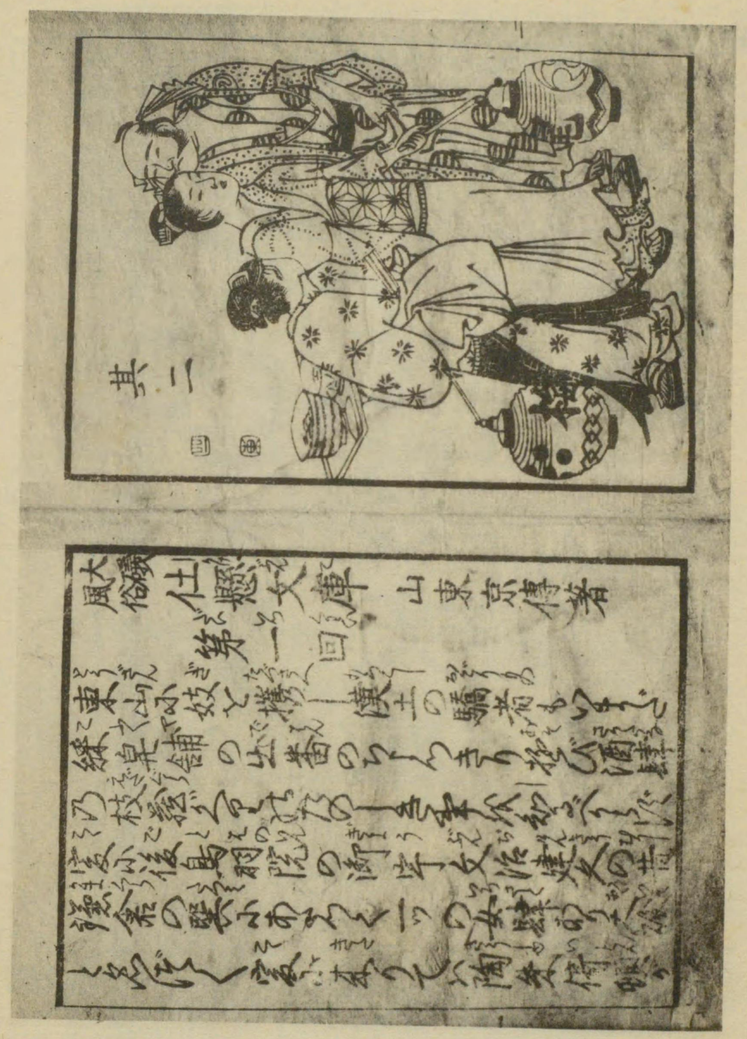
手段詰物娼妓絹籬

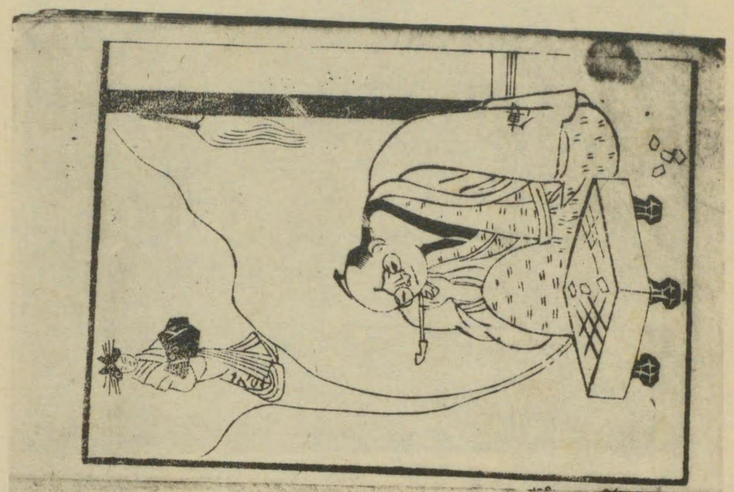
山東京傳著

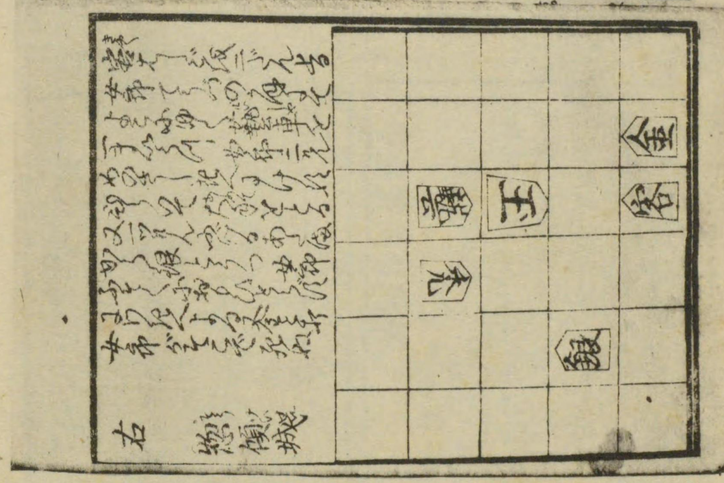
○第一回

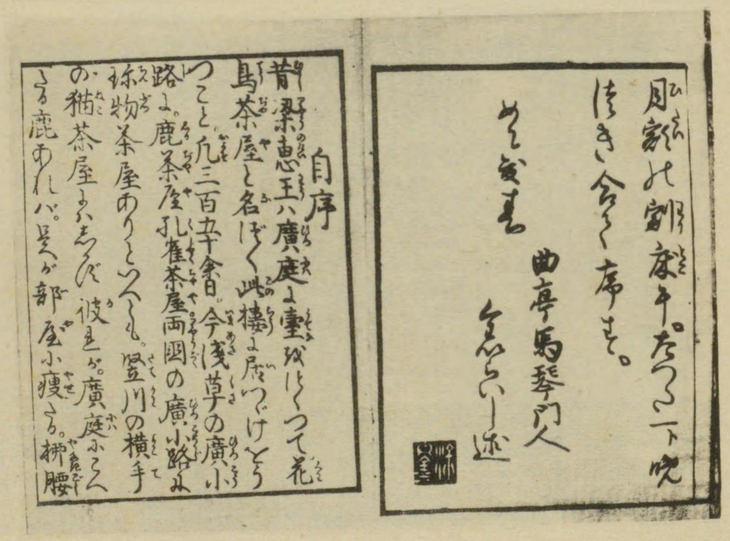
義理と情愛二ツ乃ハ間基子もなるゝぬ梅川が飛車手王子

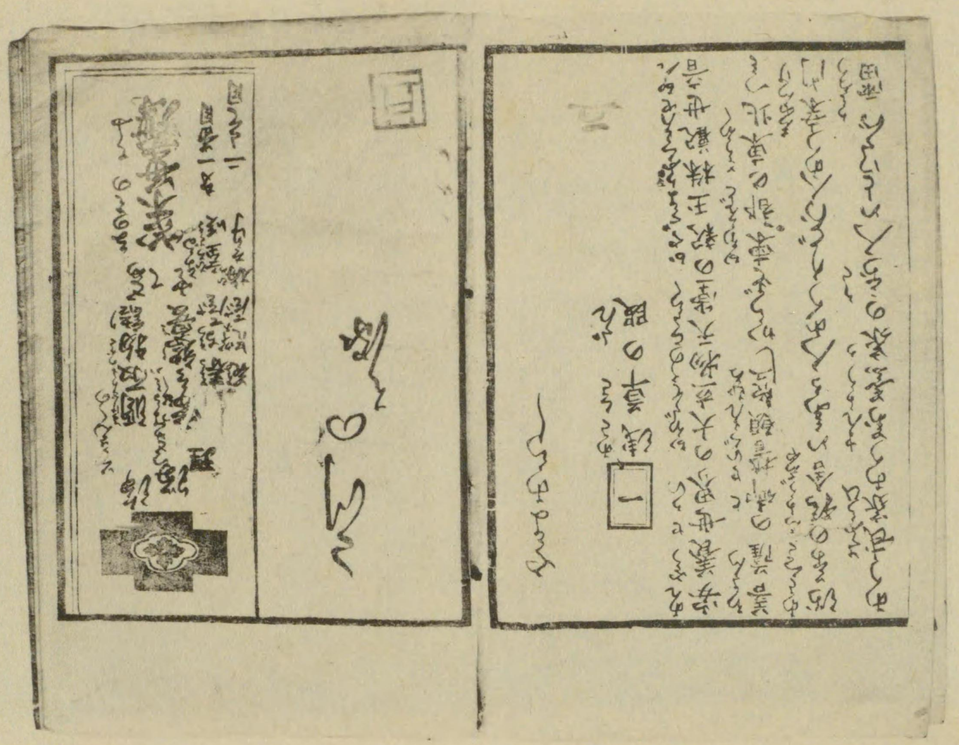
□沙糖屋の丁兒甘紀をきゝて鰻鱺屋の摘兒蕊をこの海を李白一斗詩百篇といふ秤し屋ぬるも釵菱ぐ居風呂を

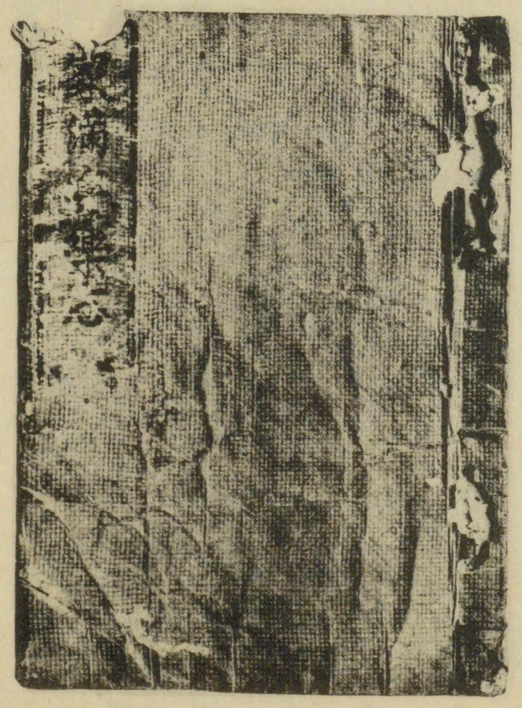


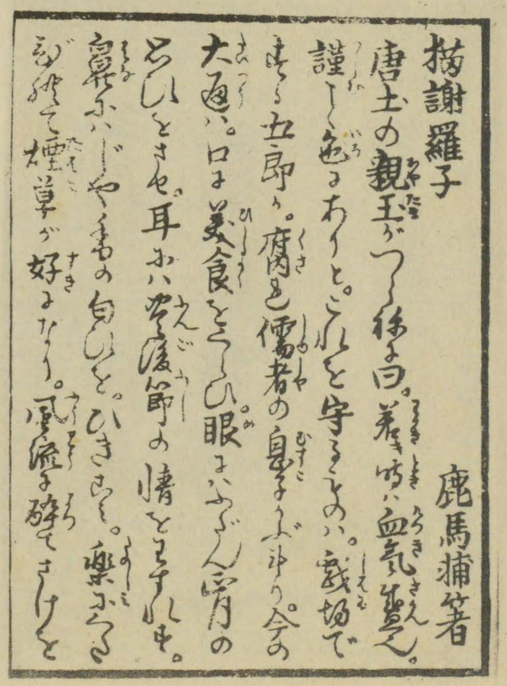


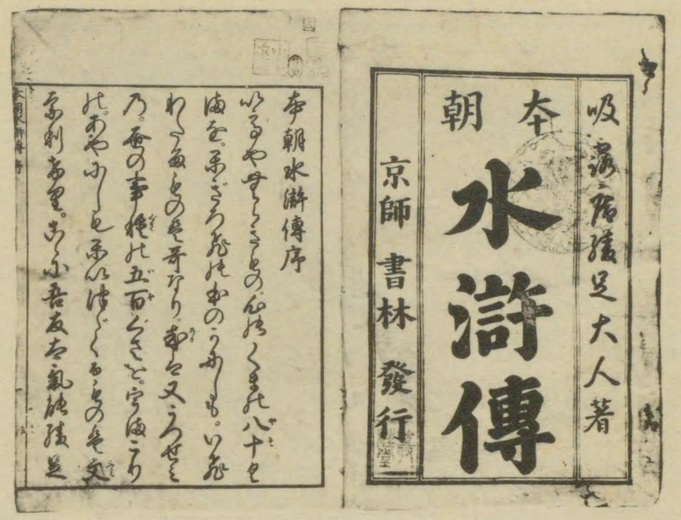




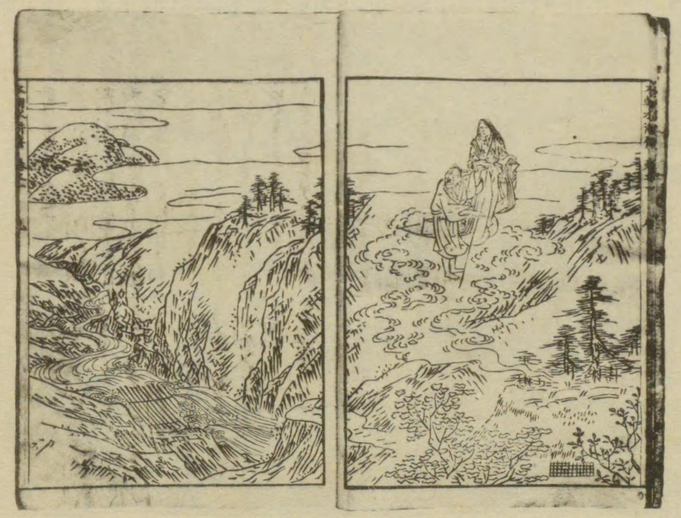


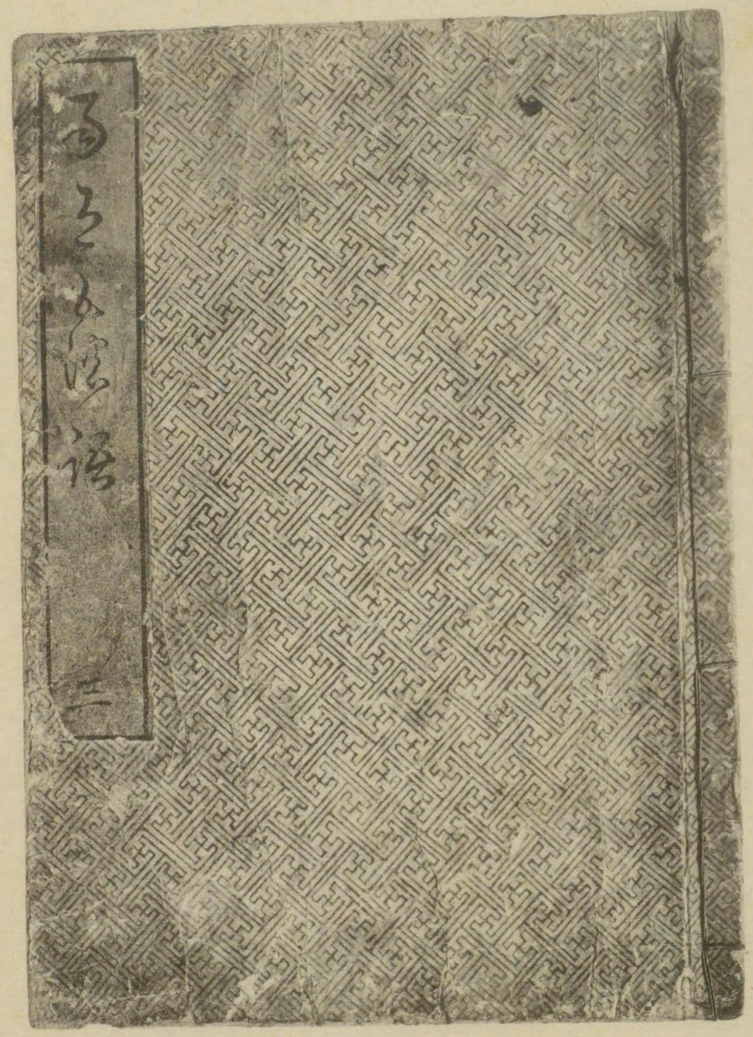


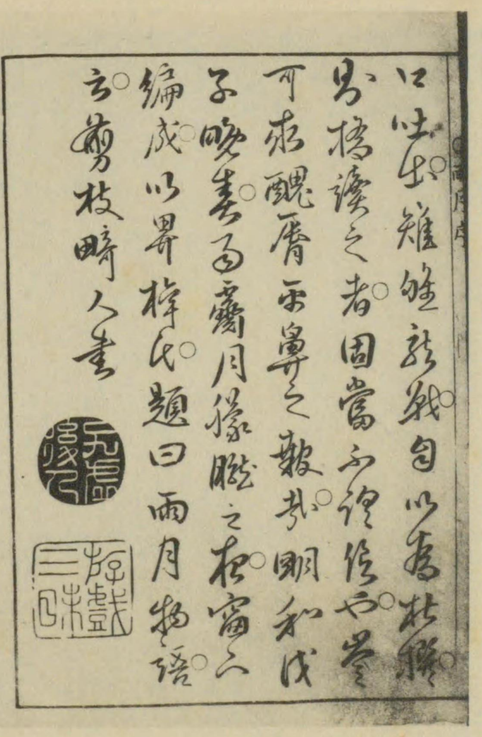




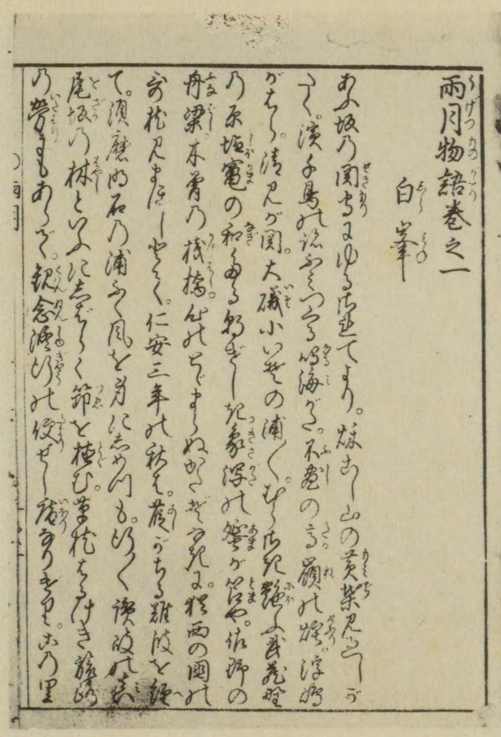
奉朝水滸傳序







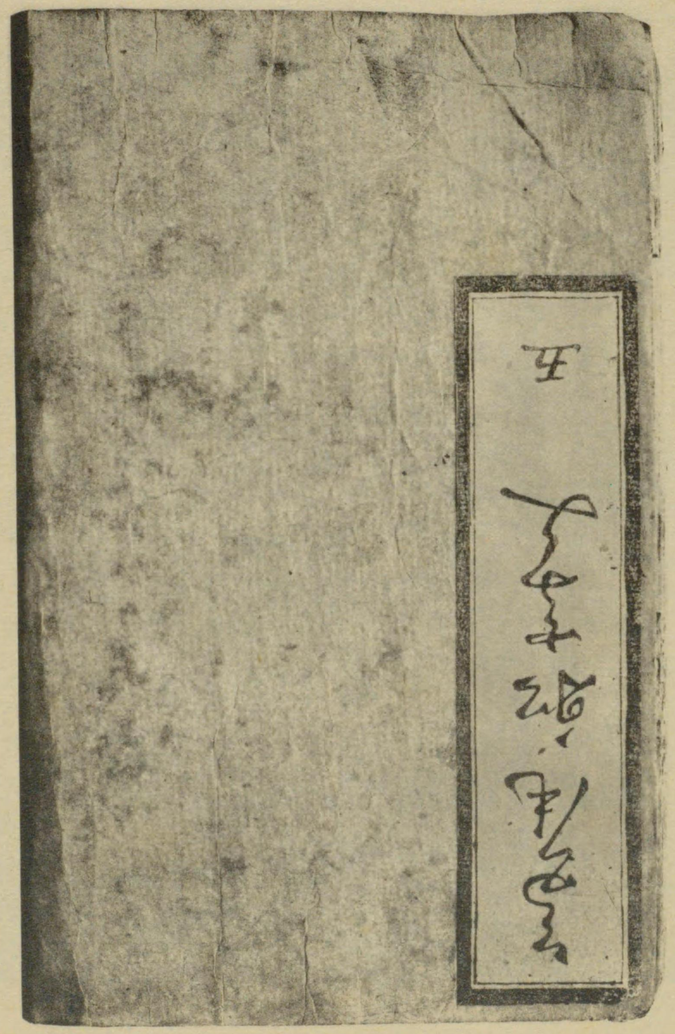
以吐出。雖然就我自以為杜撰。
只稱讚之者。固當不復信也。豈
可求醜厝而鼻之數哉。明和戊
子晩春。為霽月豫聯之相。富之
編成。以畀梓氏。題曰雨月物語
云。剪枝畸人書

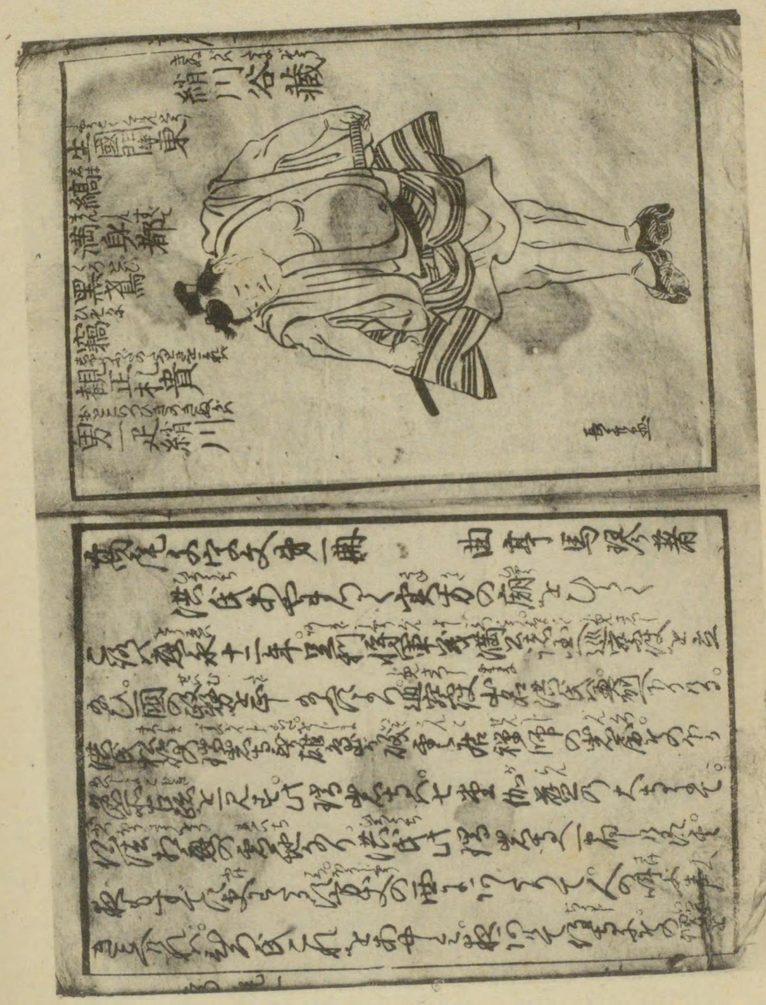


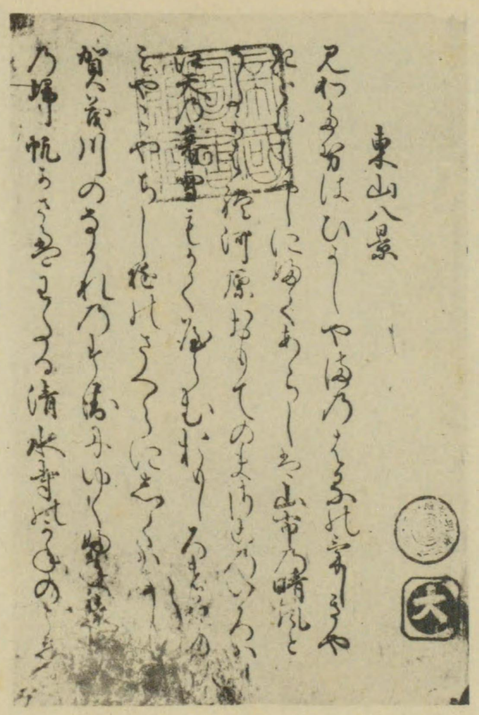
雨月物語卷之一

白峯

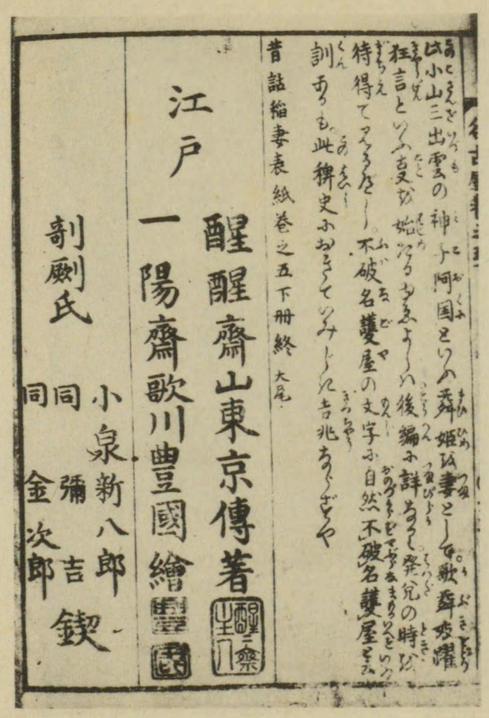
あふ坂の関ちまゆる所也てより。煉あし山の黄葉見ふしが
ふく。演手馬の法ふきつゝる鳴海ぞ。不覚の高嶺の煙。浮物
がたし。清見が関。大磯小いせの浦ぐ。むらしの鶴ふ武蔵野
の原。塩竈の和くゆる釣ぎし。紀象深の蟹が笞や。佐野の
舟梁。木曽の桟橋。仏のたゞまゝぬかさぎ。宮見ま。猶西の国の
方花見まほしやさく。仁安三年の秋も。蔵がちる雑波を縫
て。須磨の石の浦ふく風を身に志めつも。ひゝく演波の表
尾坂の林といふに志ばらく節を植ひ。掌花たるけき旅路
の勞まもあらず。観念源の仏せし所なりきと。此の里







東山八景



江戸

醒醒齋山東京傳著

一陽齋歌川豊國繪

剞劂氏

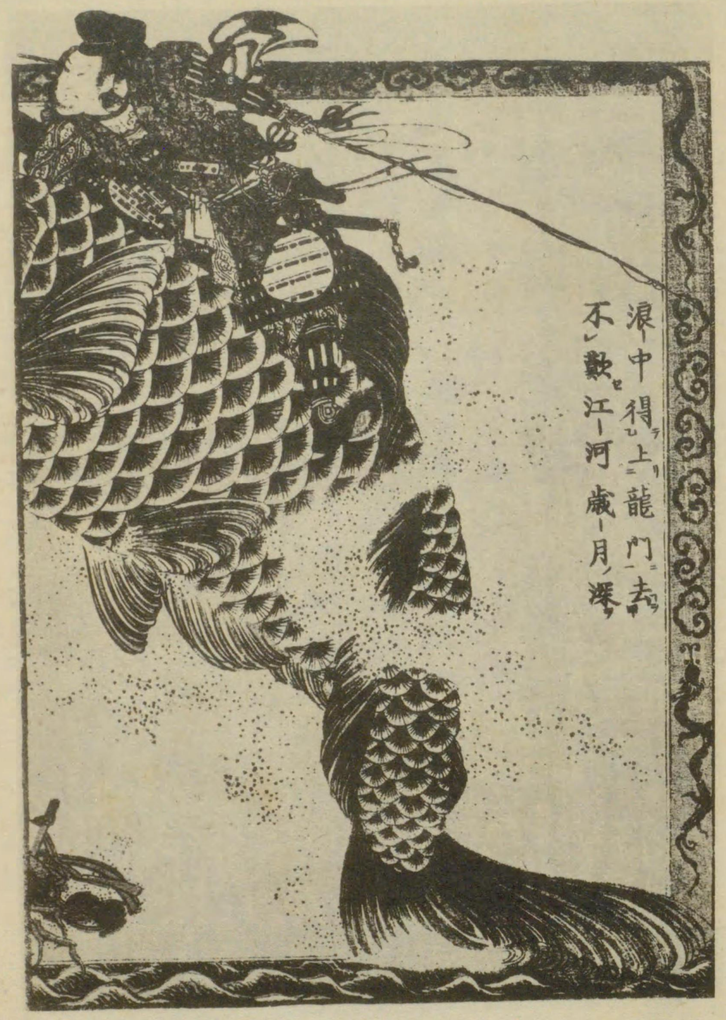
小泉新八郎

同 彌吉

同 金次郎

鍥

里見八犬傳
第二輯
巻二


浪中得上龍門去
不歎江河歳月深

南總里見八犬傳第八輯巻之一

東都　曲亭主人編次

第七十四回　牛を奸して悖順答因鉄を辞ふ

初を卸して磯九殘雪告る隆

再記犬田小文吾悖順の那能種ゆる異牛の突を奪ふ勢に猶ほ當るべきの侍りて些も

騎に氣色ゆ冴りて灰ゆ左右のゆゑ角を楚と捕駐す然ども性ぬ怒牛の奮激

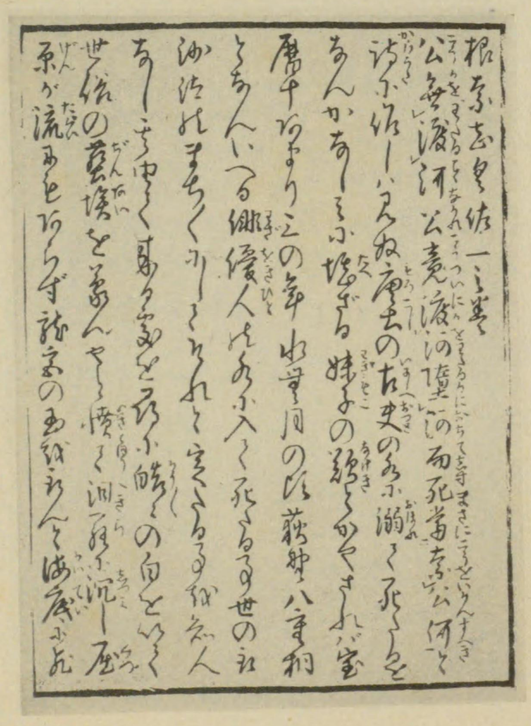
四蹄を壊る踏入まで推倒さんと角へ寄ふ小文吾も亦一身の力を極めて一歩だも退

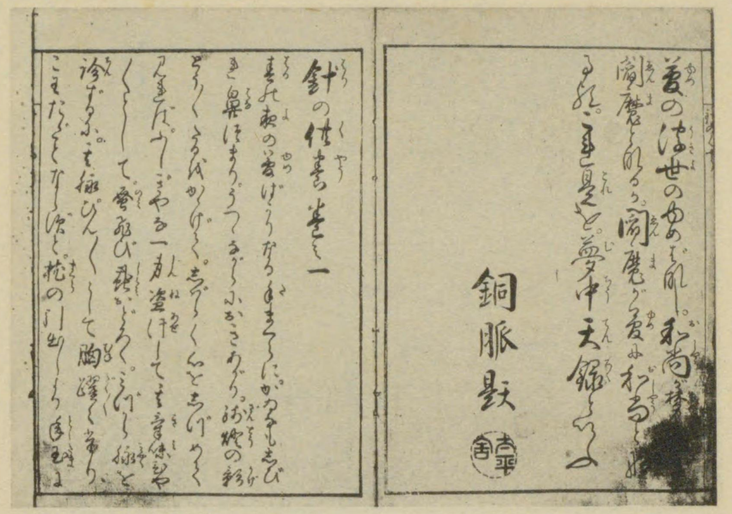
うとて千歳の石の地中より見れ出て立ち如く又烏獲が奔牛の尾を接留めず徒やと覚

えて勢漢の儀まで奴婢有の壯視ぬけれ初は酷、蒐敵に代て辟易さて牛は

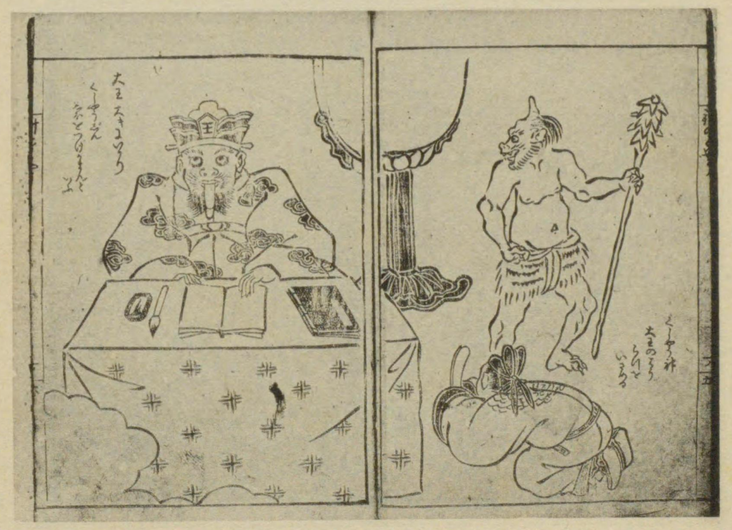
仍ち亦是鋒の為体を着て再腹を浮て被ふことなるよ抗尾を空ゆ衆皆

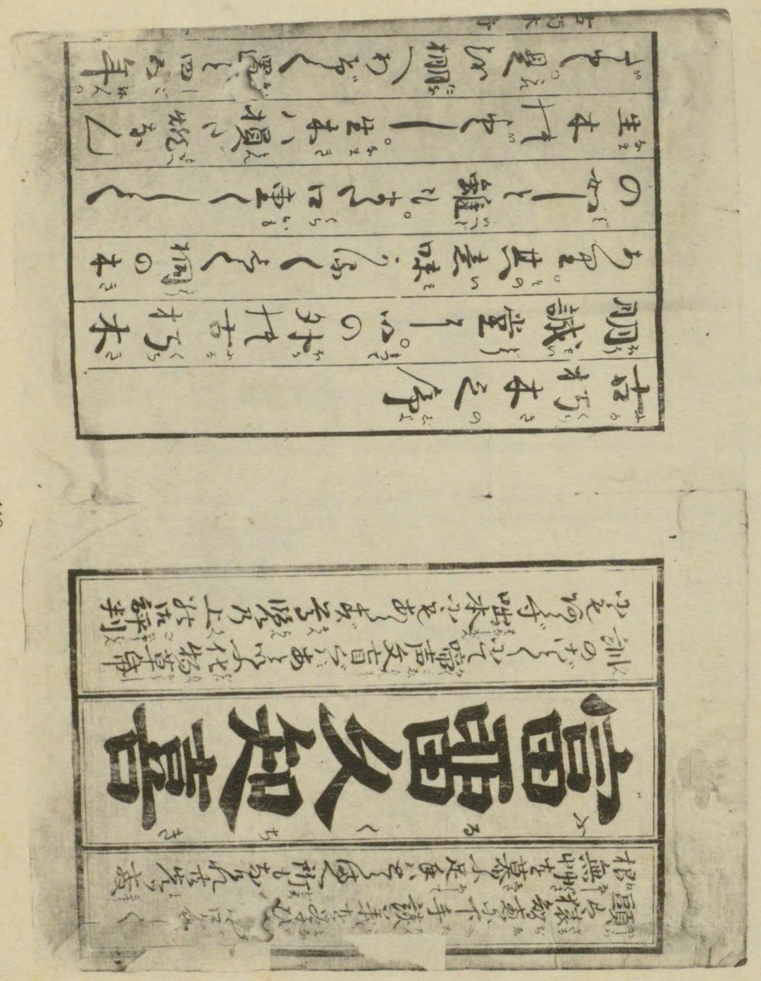
四下に聚ゆ怕れて近くに投ぎ沒を呆れて齊一目成ゆるべき然程ゆ小文吾の

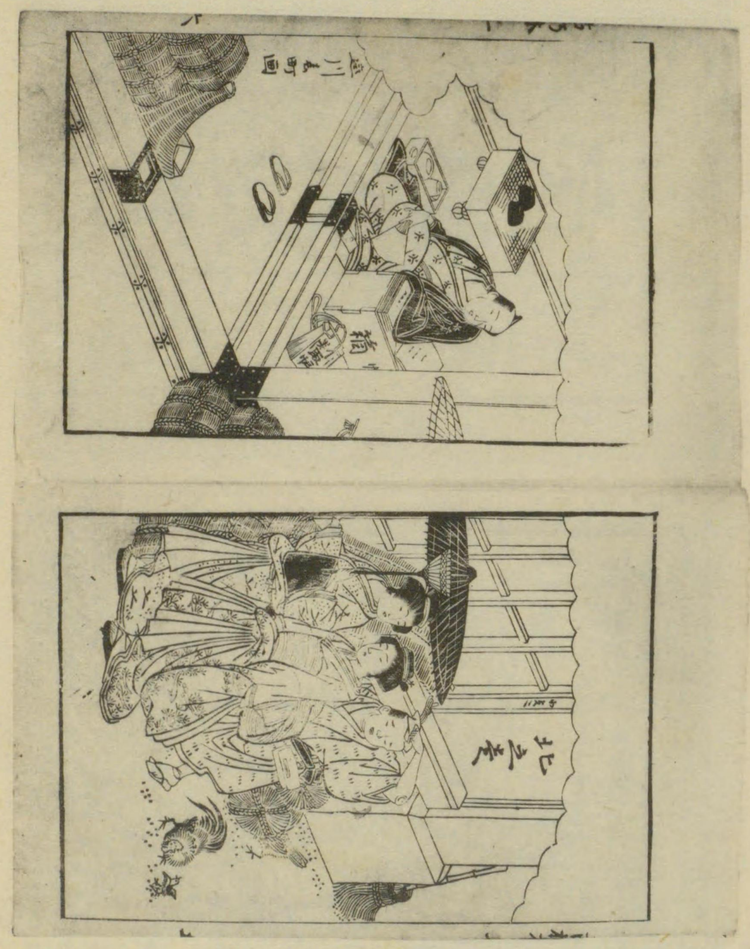


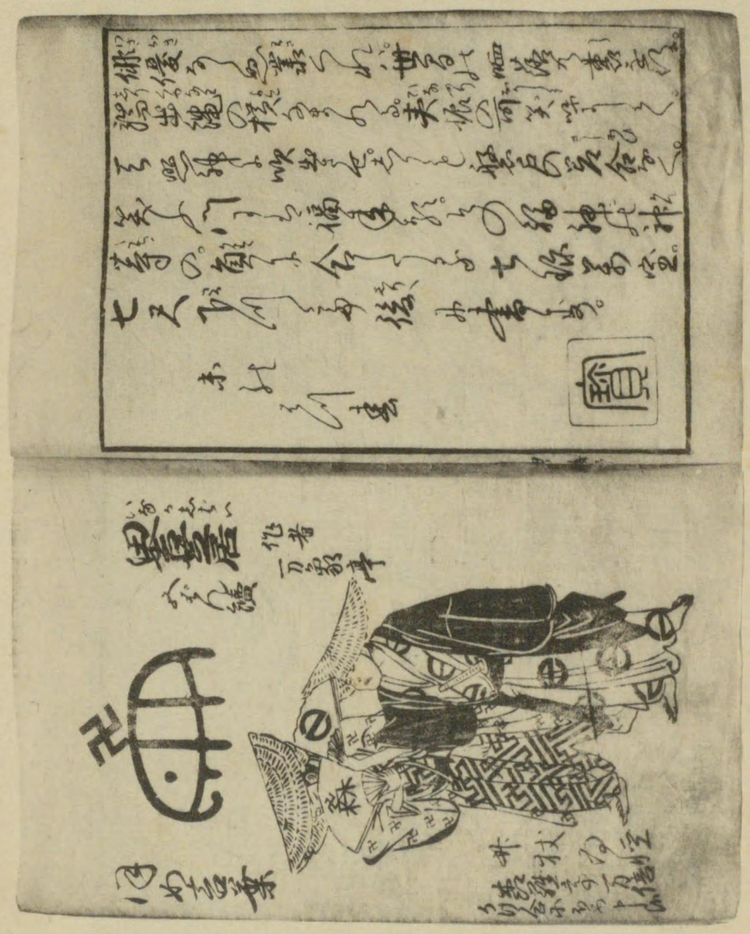


銅脈鼓

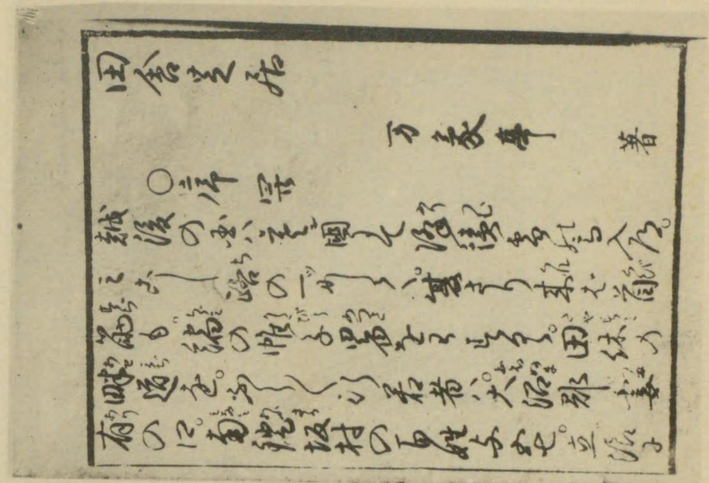








田舍是居



万象亭　著

○序　冥

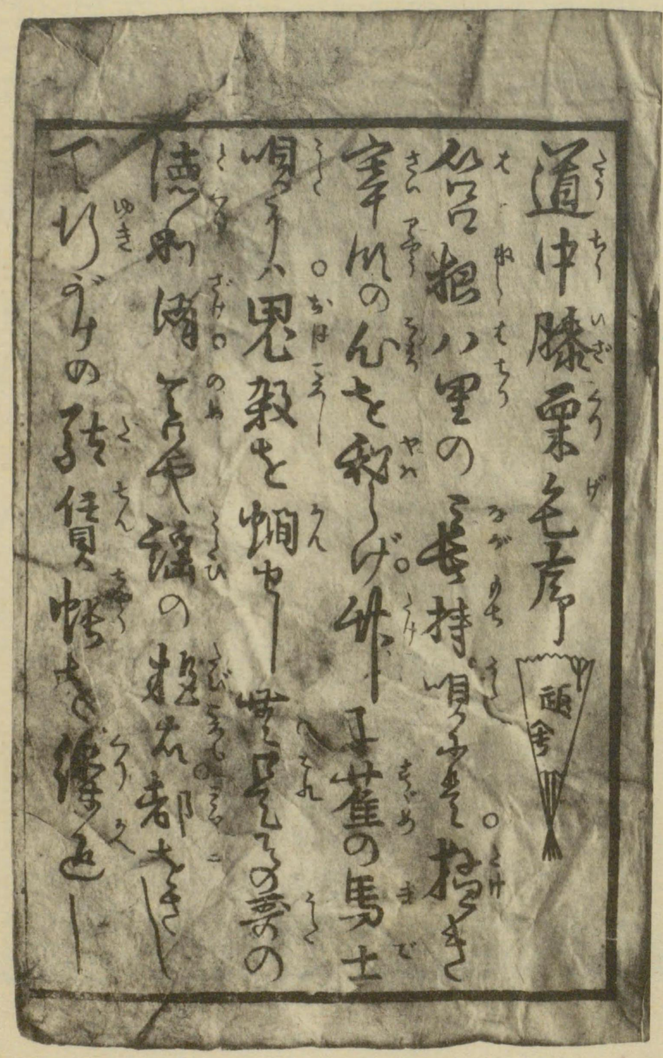
越後の国ハ至ニ国ニて海濱ニ多ク入乃。
ミおし路の一ツ也ハ。其さり来ル首
箭も。端の帳子。罵をもてしる。田休の
畔道を。ふしくゝ若者ハ。大沼郡妻
有の口。南魏坂村の百姓与也。立浪子

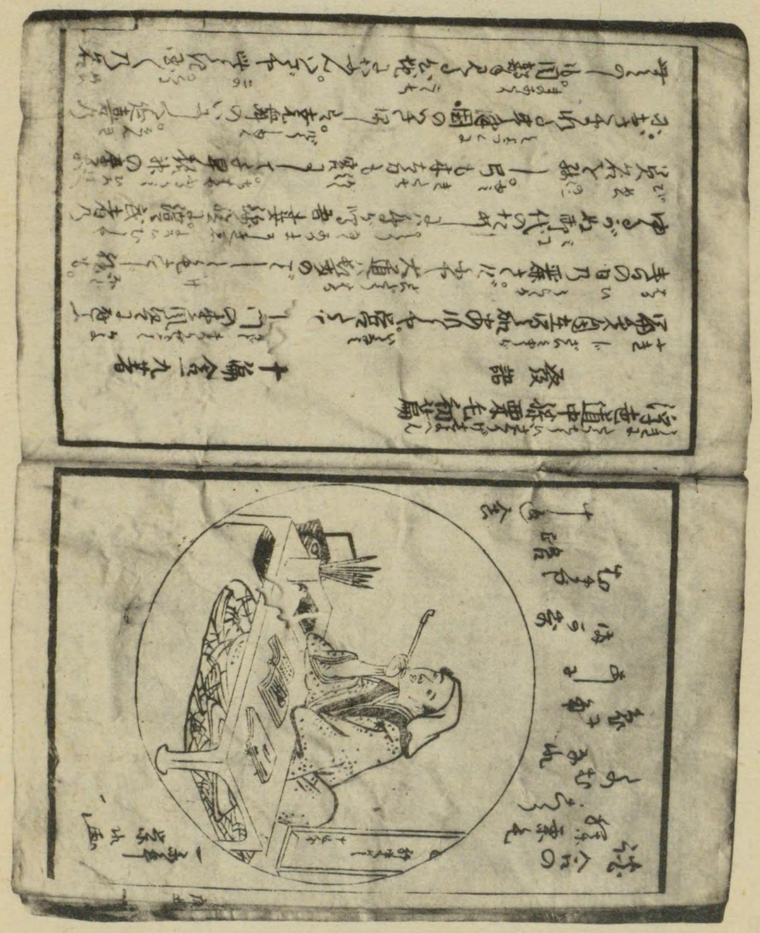
右之本以作者書捨之原本令校合
一過畢師如大象弟子如猿松採不足三
本筆毛補其脱漏云爾

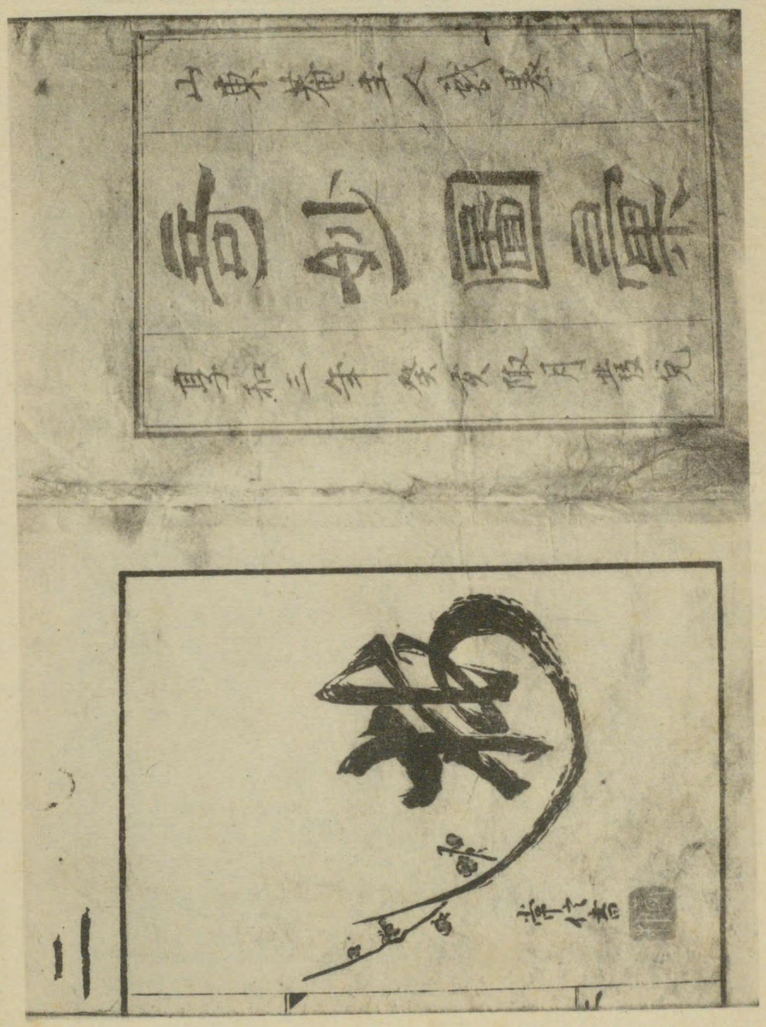
門人　千差萬別
天竺老人

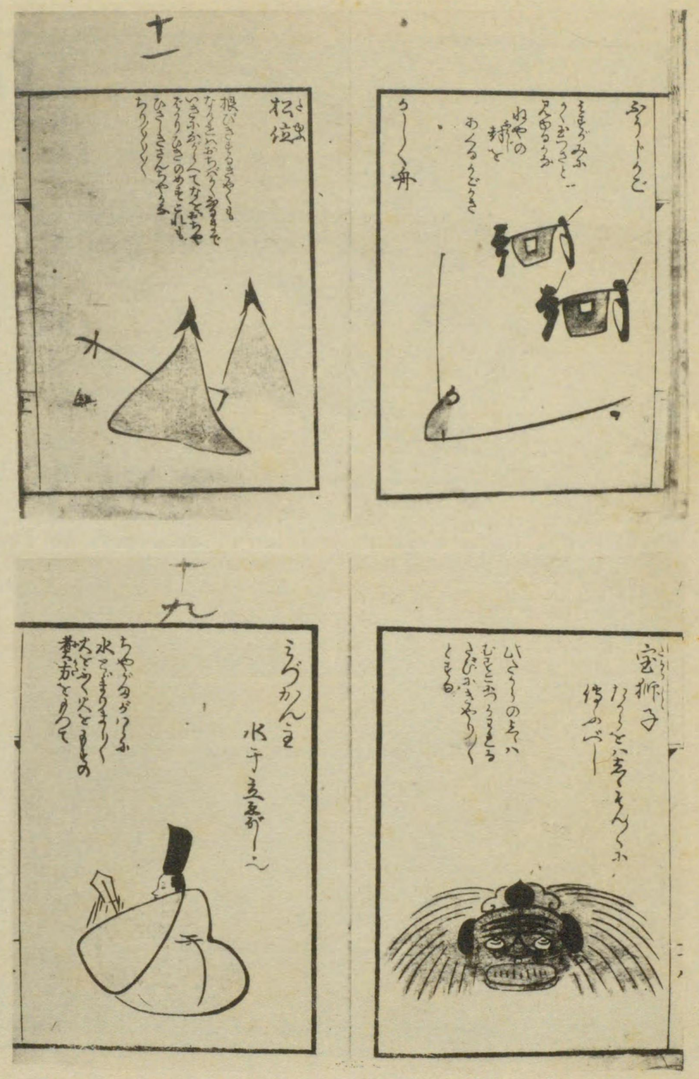
享和元年辛酉七月吉日

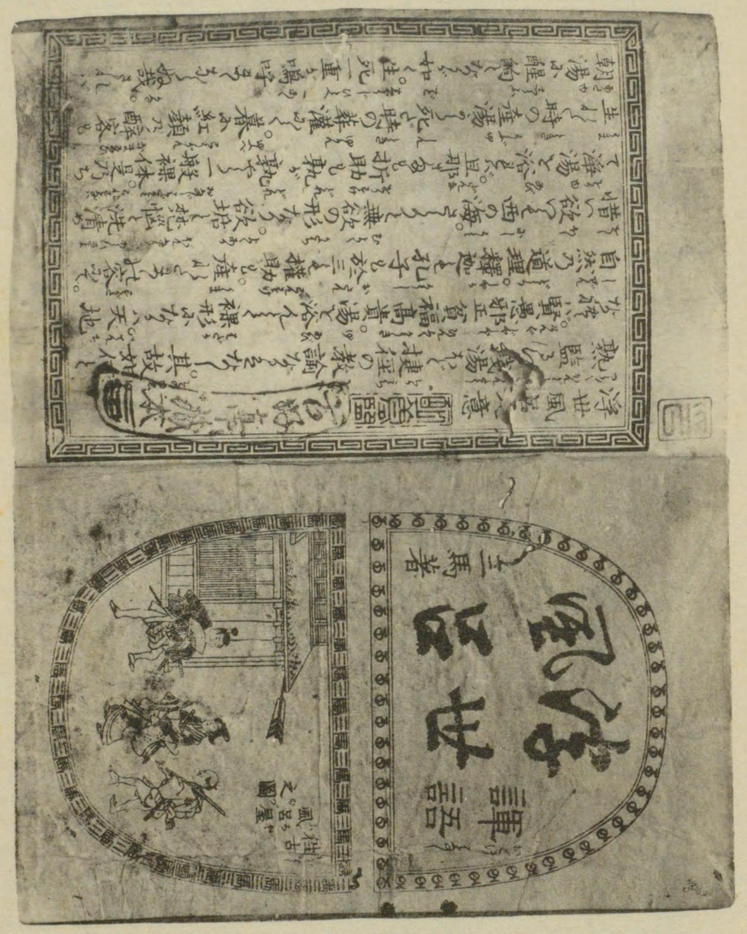
書林　浪華　凌雲堂　壽
東都　千鶴堂　梓

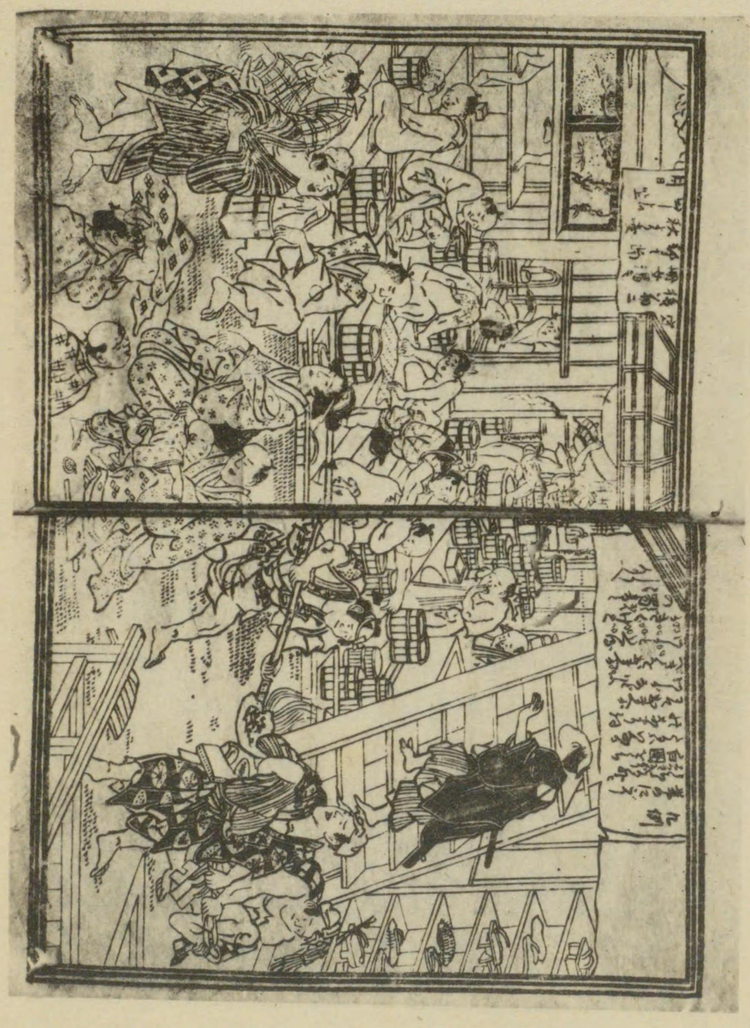


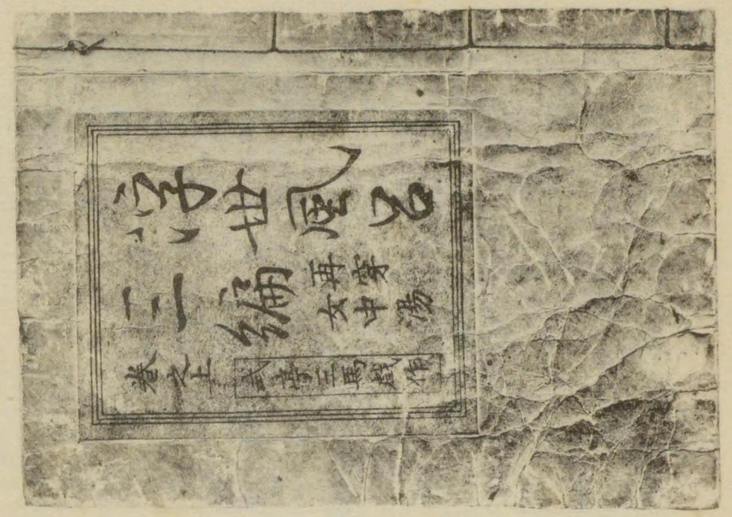


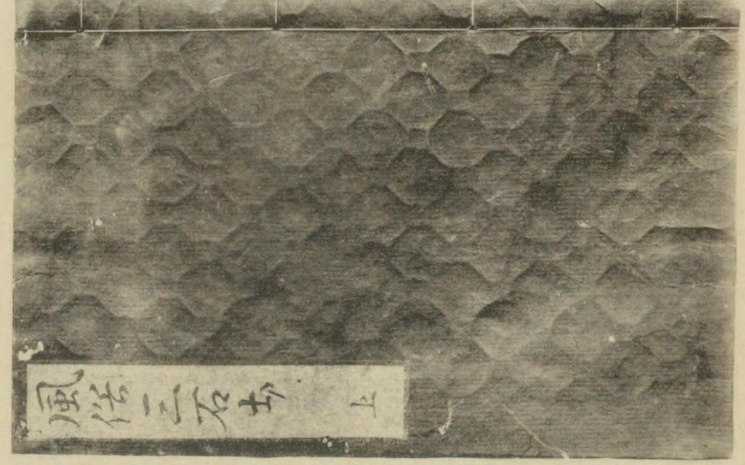






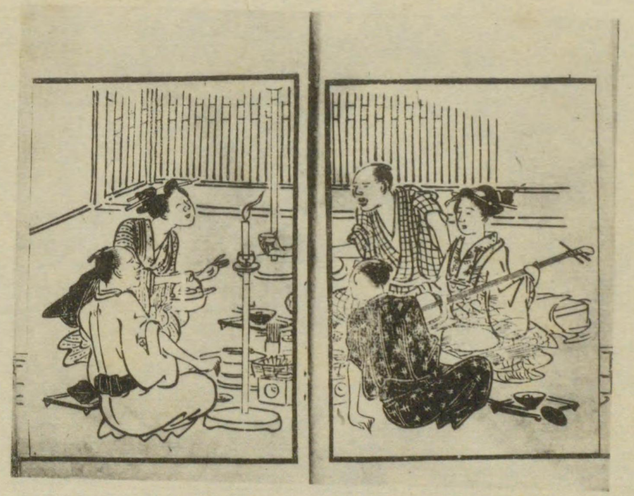


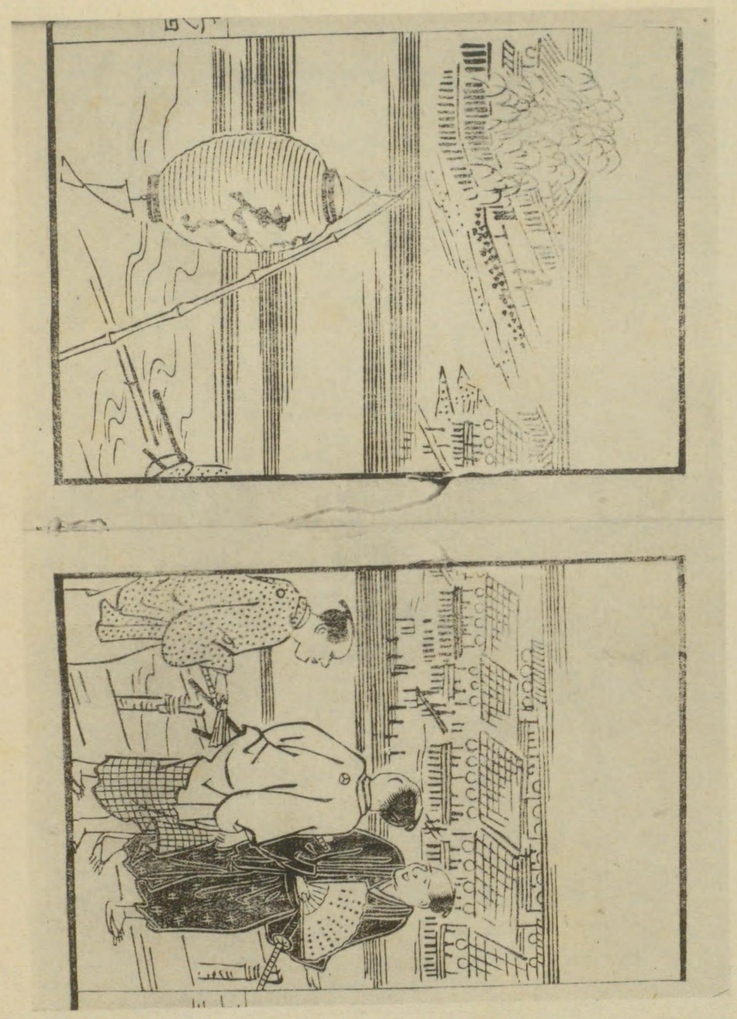


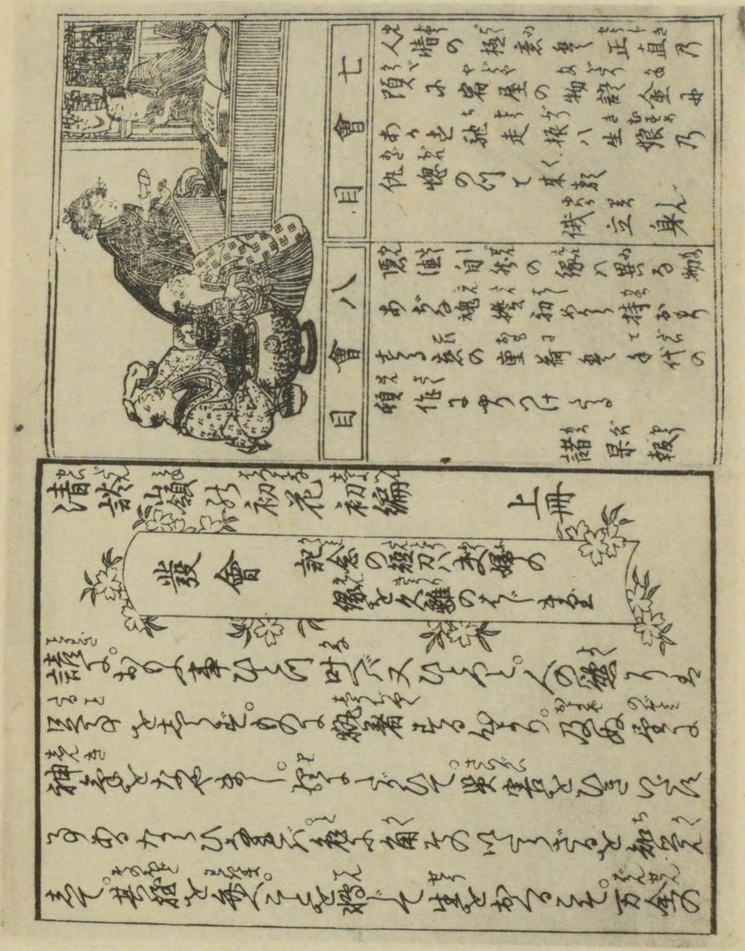


無量屁而又有無量中落屁猶
可握中落不可悟感歎之餘以
夢踏屁之數言爲小序云
天保十二年辛丑之春
安穴道人撰

風俗三石士巻之上
太平舘胴脉先生遺稿
夏の月夜れ頂いさしなり。闇の夜蛍とび
うひ。雨なんどの降さへいとおしとぶいつを
月夜に米の飯ひとりおいあまるかじ
頂戴しける。大壁修理権屬ゑ神口の
一トうまへ大路次の行あるり。惣こしまれ







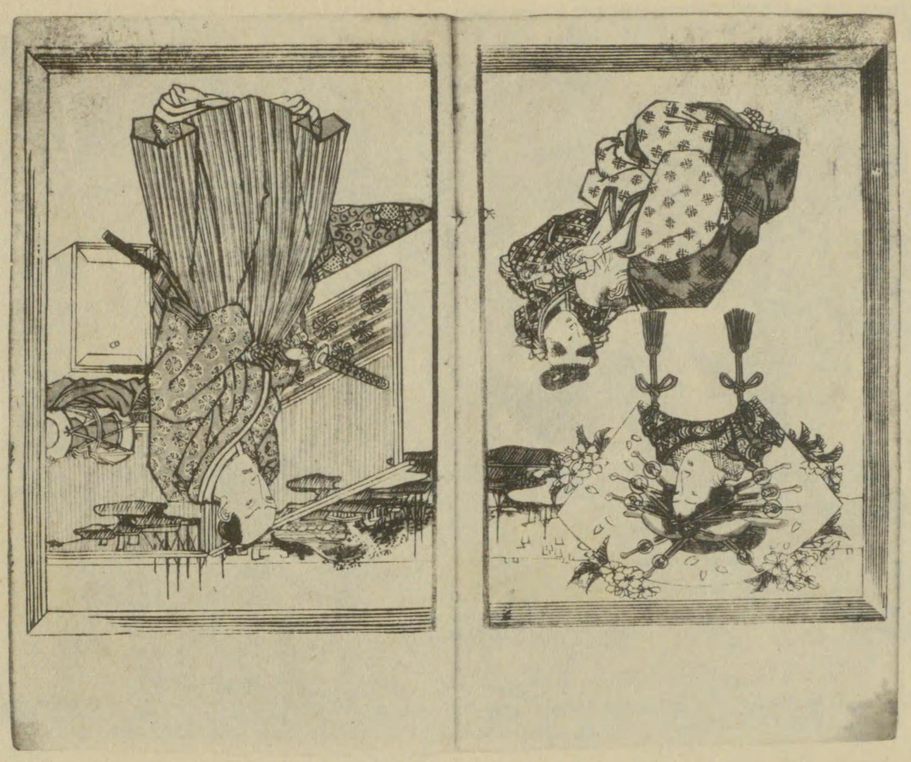
清談峯初花

作者十返舍一九

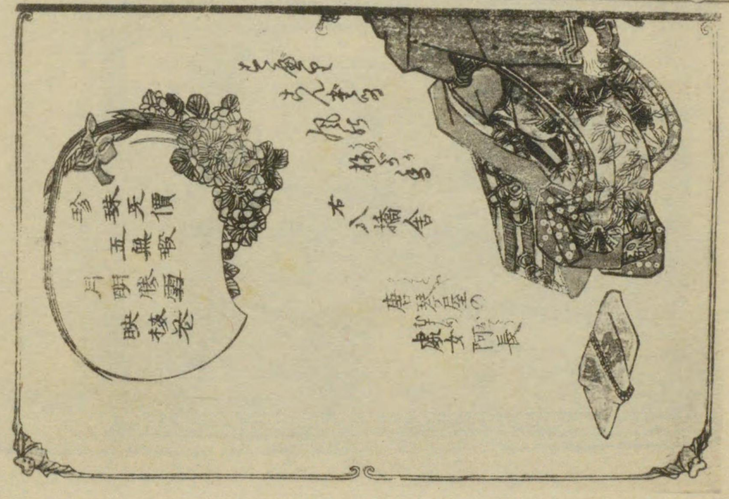
板元鶴屋金助

巻

國文學 W 61



小三金部
假名文章娘節用前編上巻
江戸
曲山人補綴
ふつさん

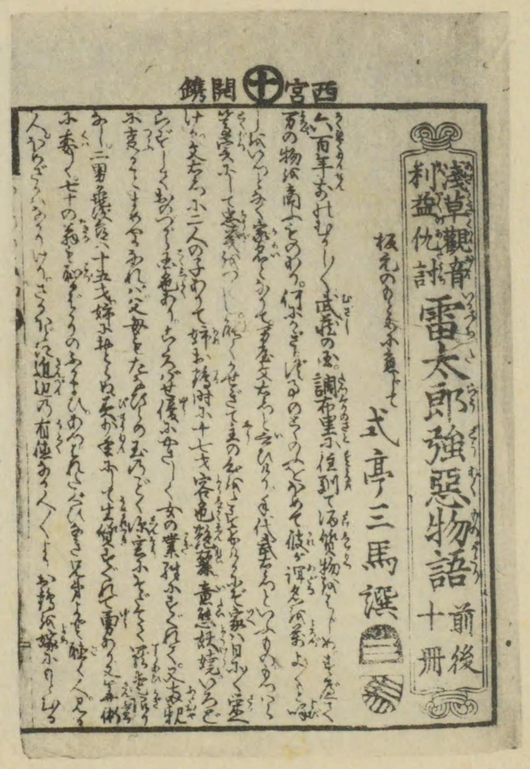


140

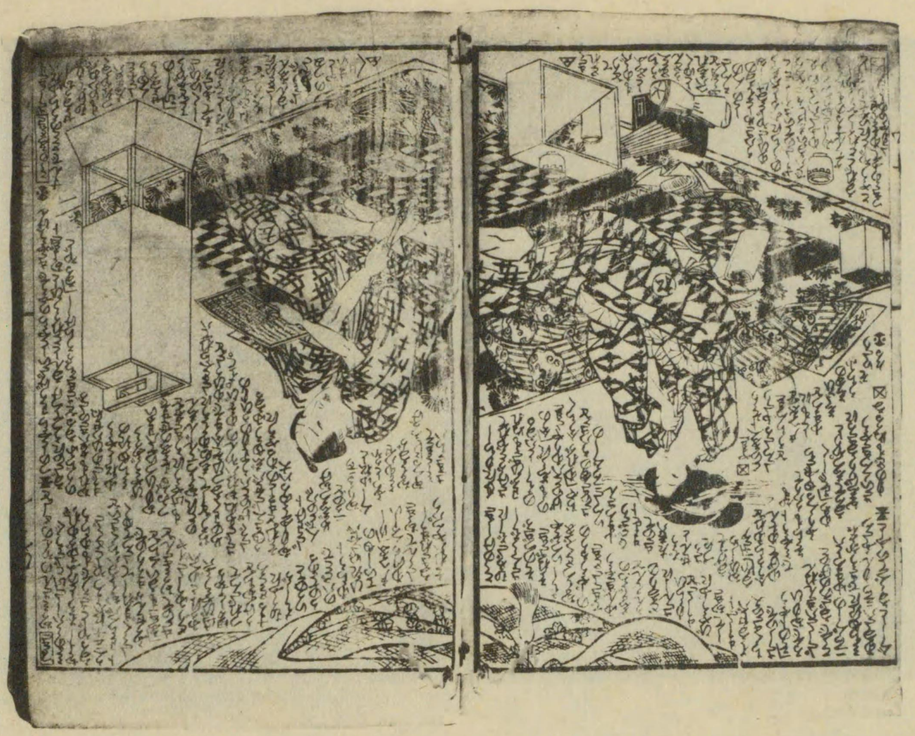
141

142

143


西宮開鐫
淺草觀音
利益仇討
雷太郎強惡物語
前後十冊
式亭三馬撰

三馬作



ACCOUNT
OF
A JAPANESE ROMANCE.

明治己巳歲初冬

浮世形六扇屏

松園藏版

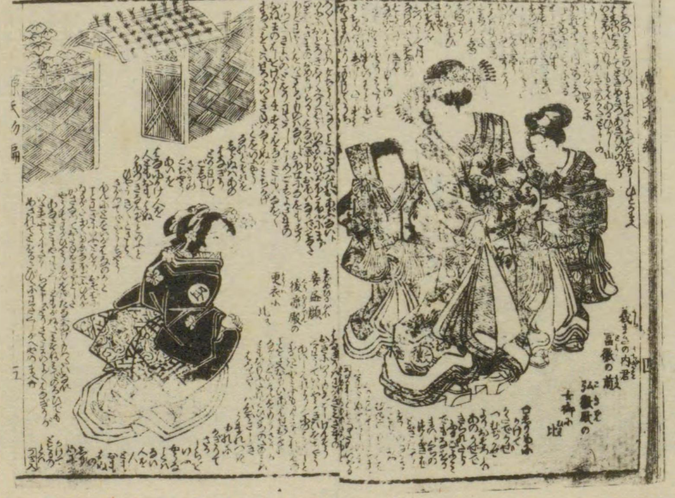
鏡東藏書

ACCOUNT
OF
A JAPANESE ROMANCE.

PART FIRST.

Tamoniara Kadzuyosi, governor of the district of Kuanto,* whose palace was situated in Kamakura, had a numerous band of retainers, and was a powerful nobleman. He was fond of hunting, and had country-seats at various places, for the purpose of putting up at them when on his excursions after game.

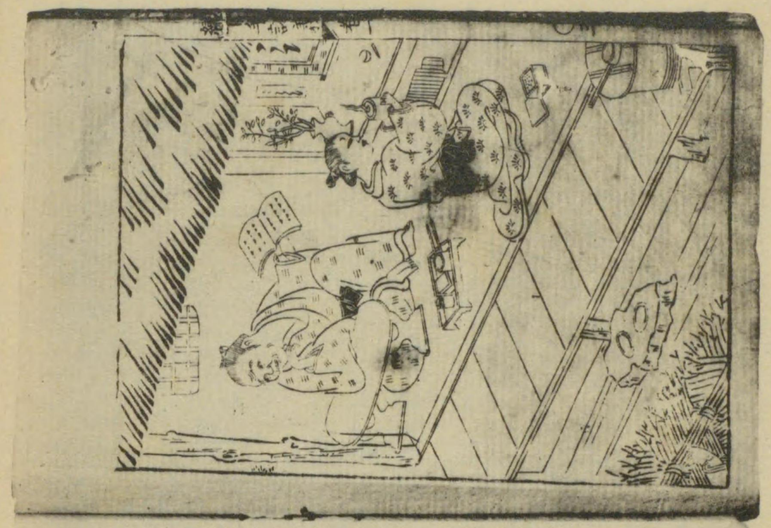
* Comprising eight provinces lying about yedo.

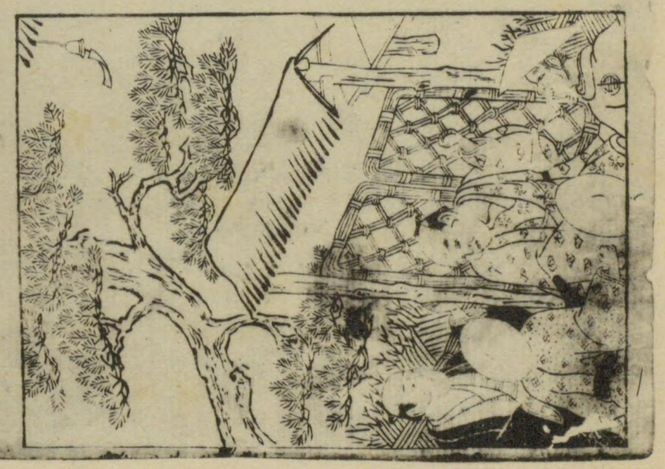


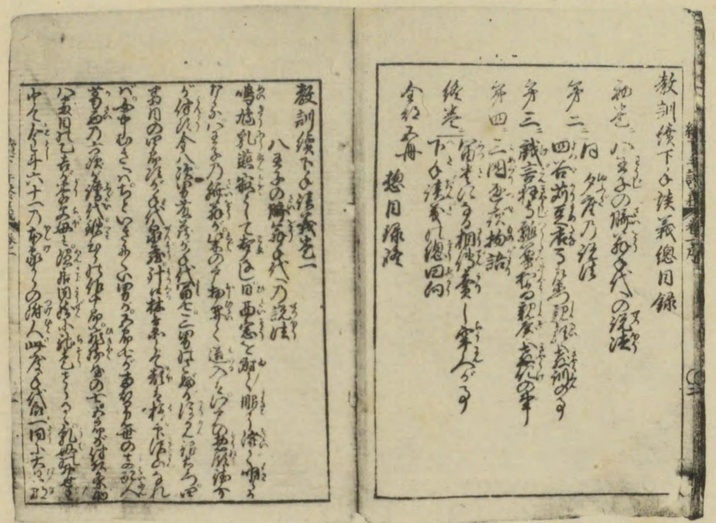
歌川豊國画
柳亭種彦作
愛染明王
勝鬘院
江戸彫工
江川留吉
筆者
藍庭音米

圖文學
W
213

後紫田舎源氏第十二編序







教訓續下ノ手法義總目錄

初卷 八王子の隣家ノ代ノ説法

第二 四谷新豆腐ヲ薦理ル義訓のす

第三 戯言狂ヲ雜事ヲ親戚ニ教ル事

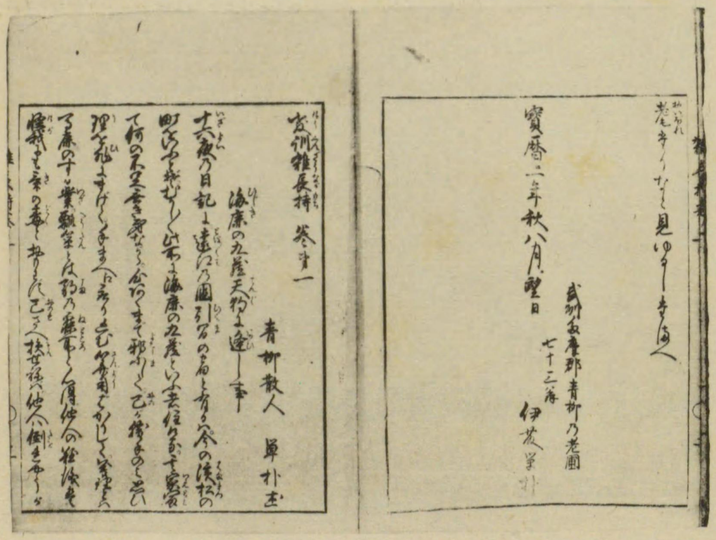
第四 三國通商物語

後卷 留守にする相續賣し家人がす

下ノ手法義ノ總目錄

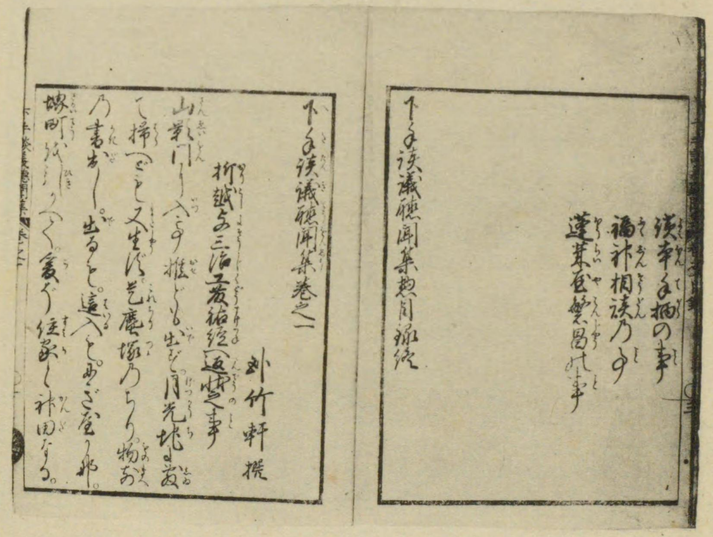
全部五冊

總目錄終



擧白集 七

圖文館
M
132



擧白集巻第一

春哥

[illegible]

[illegible]

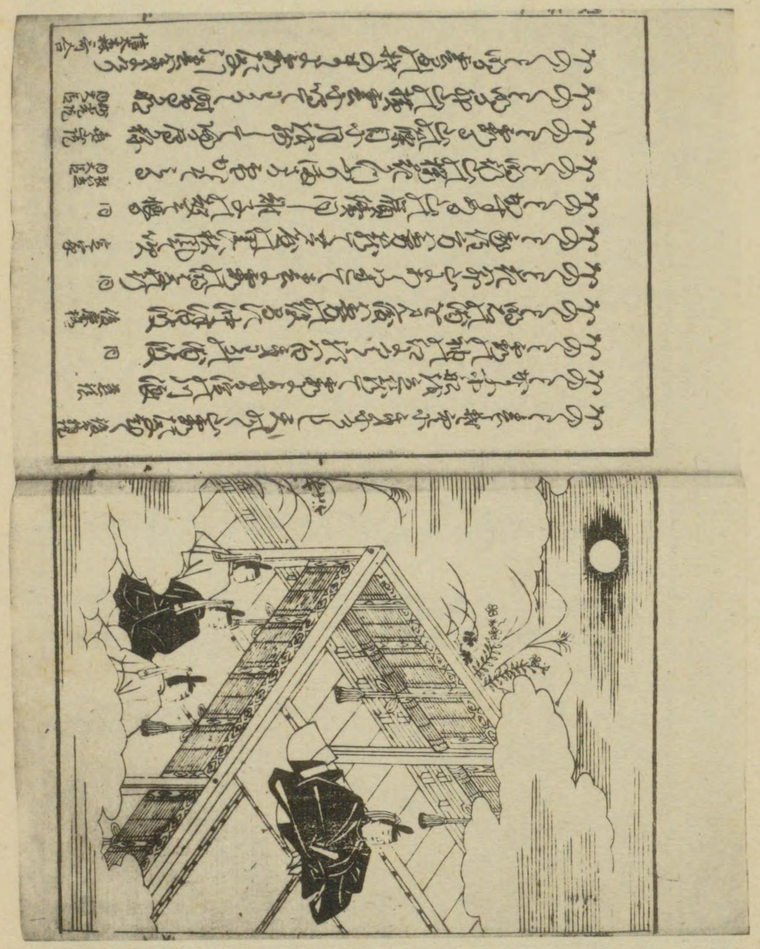
[illegible]

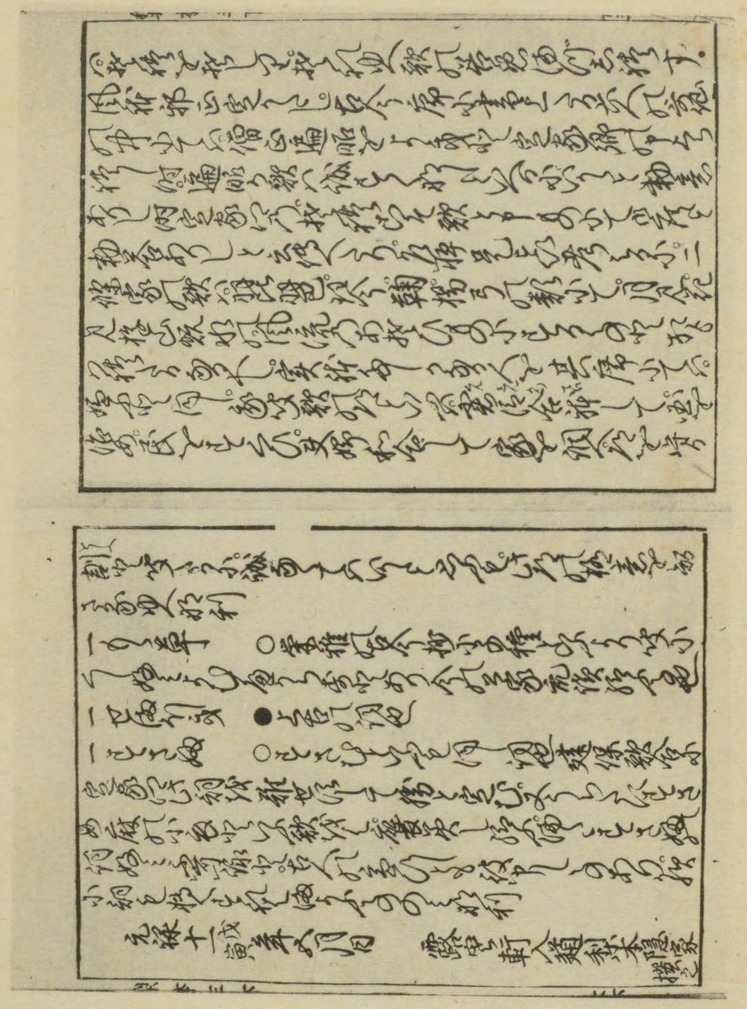
[illegible]

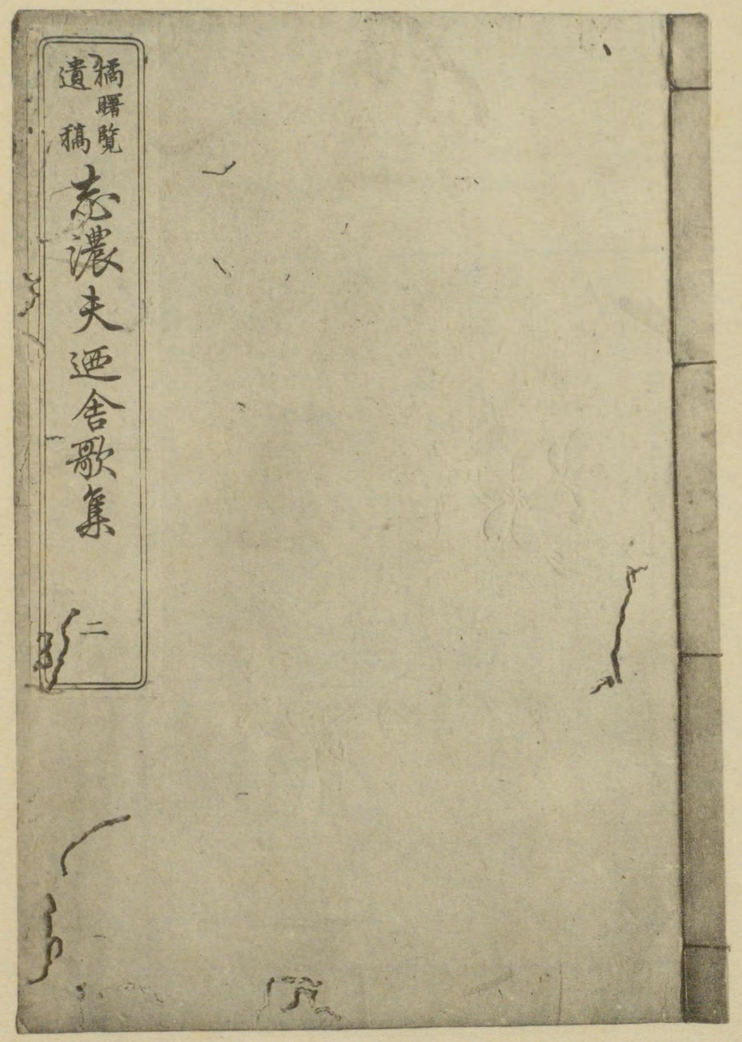
[illegible]

[illegible]

寛永十二年[illegible]






橘曙覽遺稿
志濃夫迺舍歌集
二

松籟艸　第一藁

阿須波山ますけるよろ

あるしはと人もし問ハ軒の松あしたいひて歙こゝしてよ

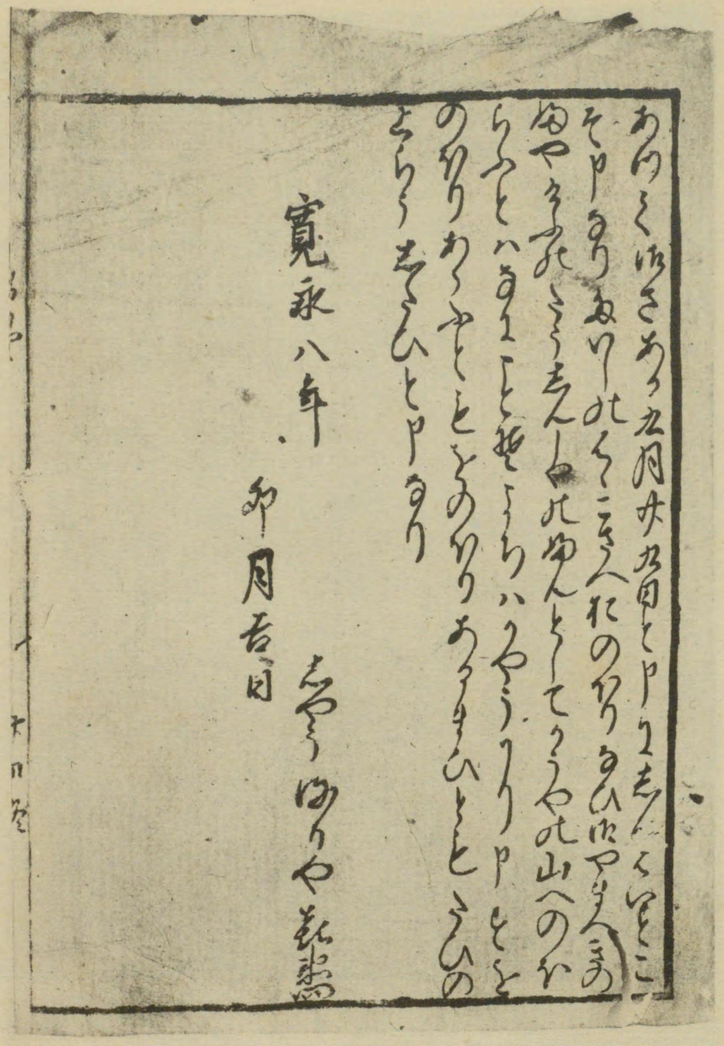
龜のよう人しけく來ニけるにこひて

顏をはくとうちニ染て山ふゝみこえさに來ゐる人ろうるさ

朝きらめろついてゐ

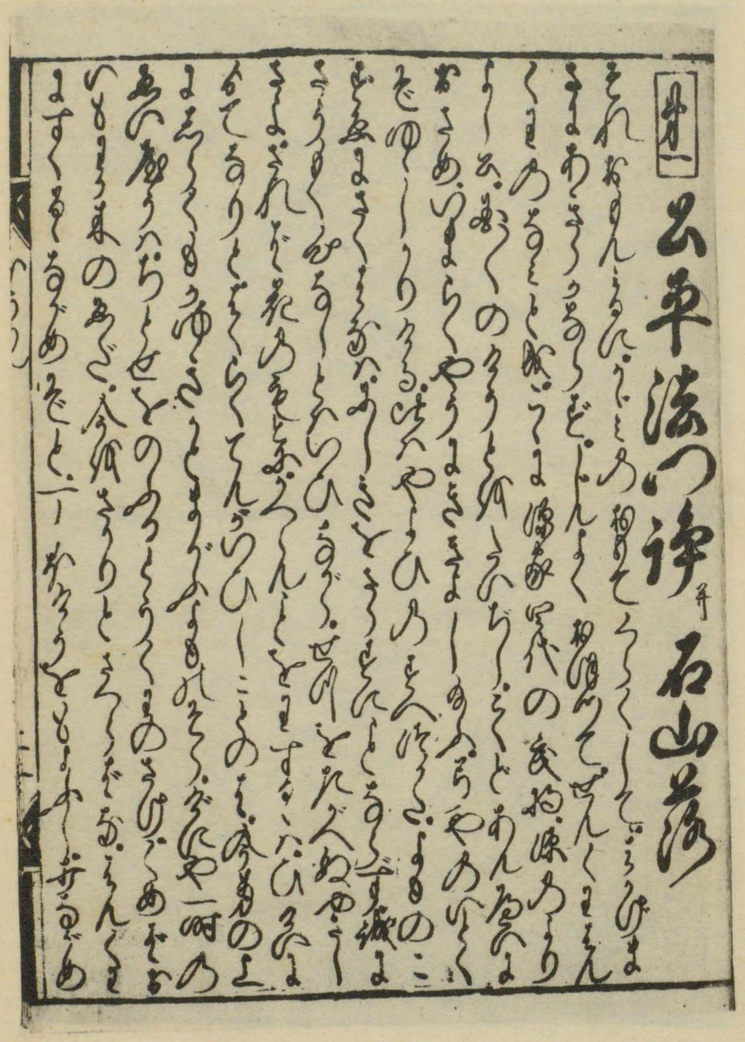
このれとせて拾ふもう終し世の中ハ塵ハましらぬ庭の松葉

志濃夫廼舍翁小像

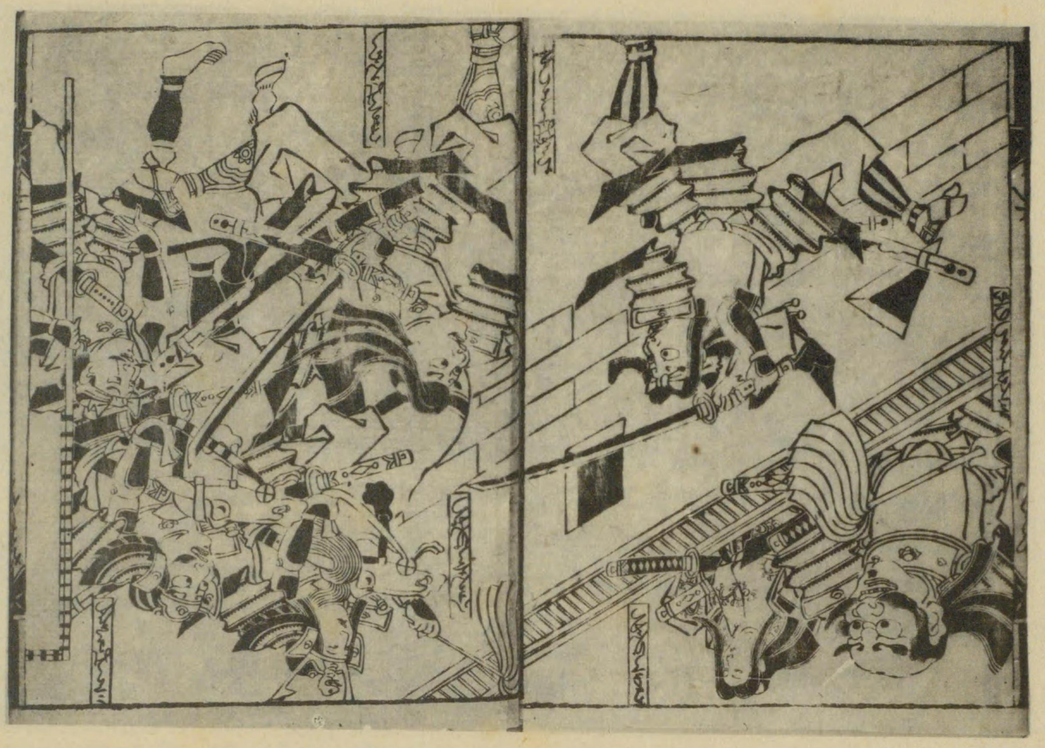


寛永八年
卯月吉日

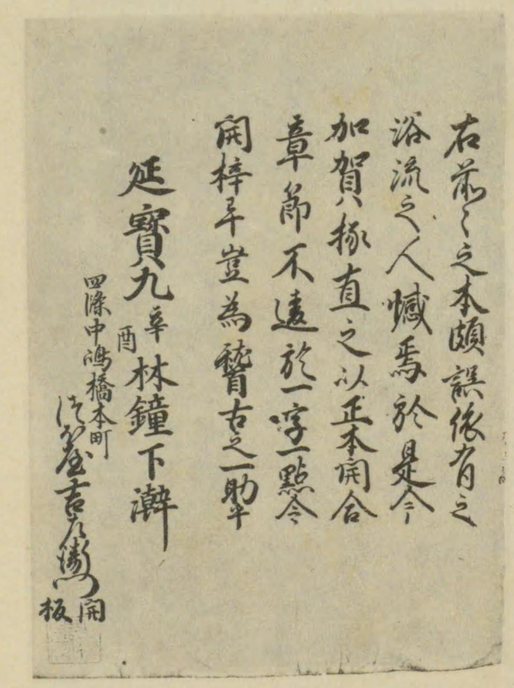
170

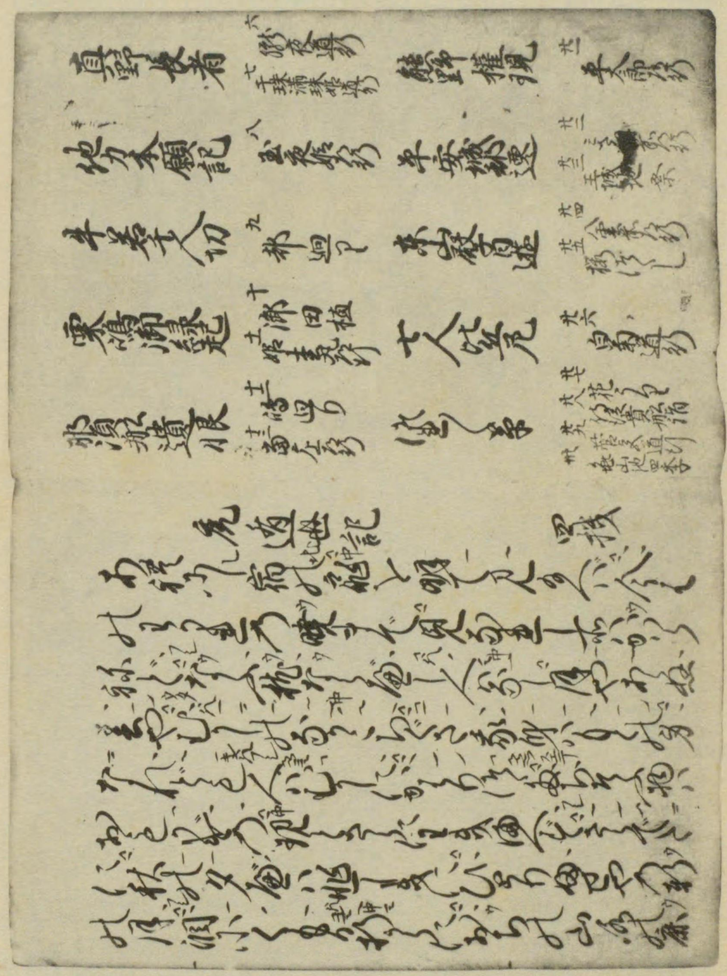


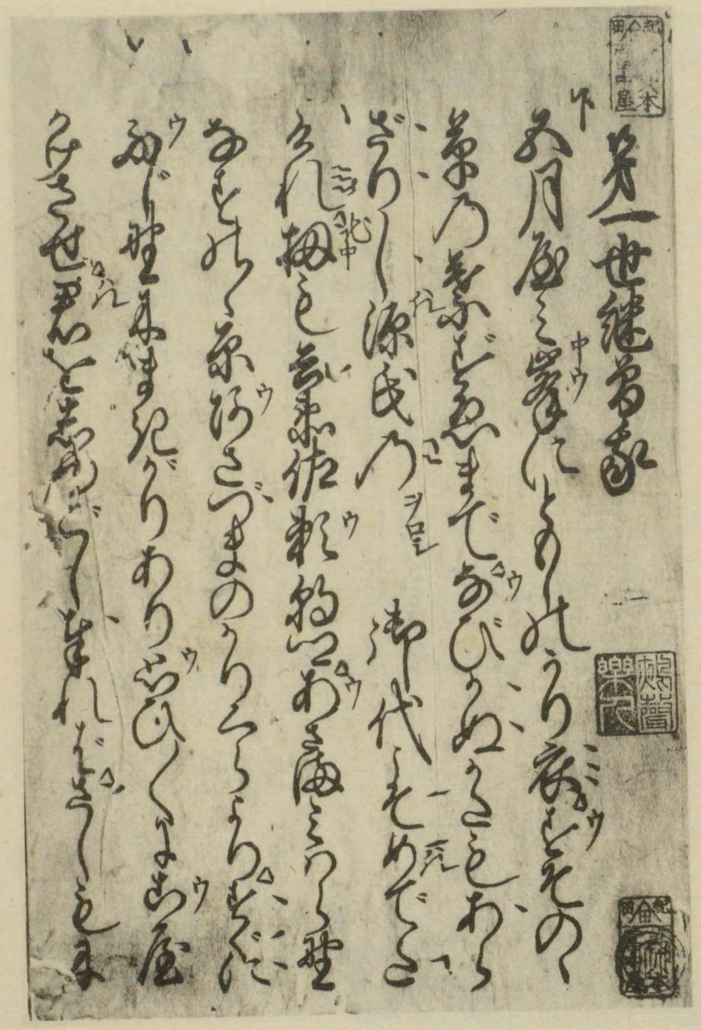
171

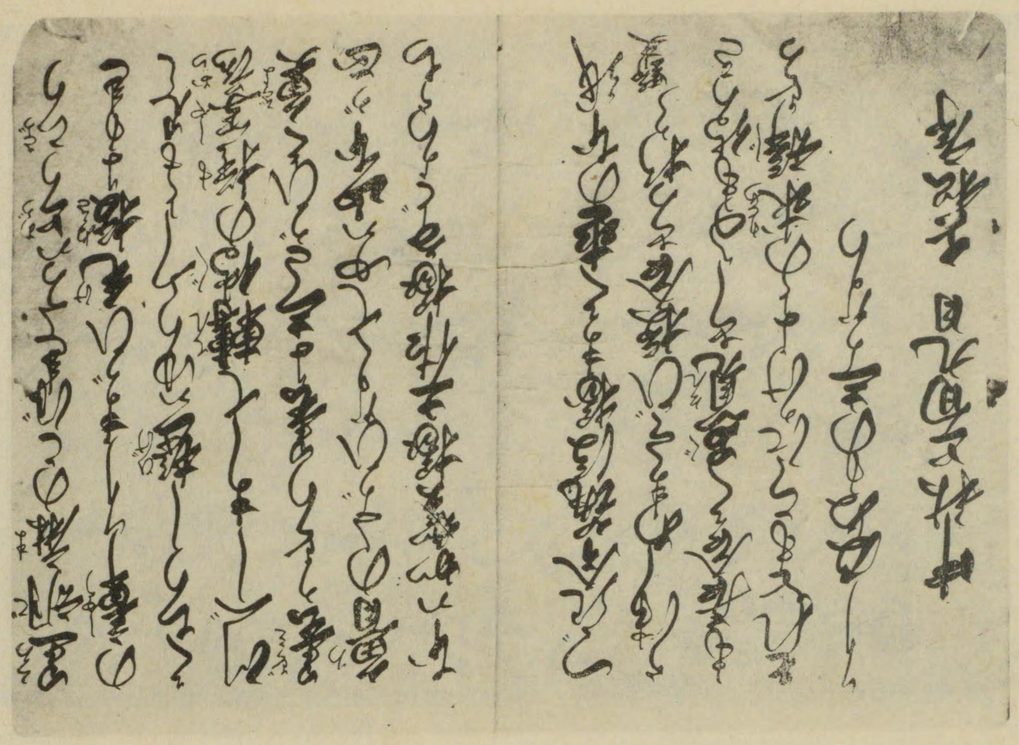


大竹集
加賀掾
直記付

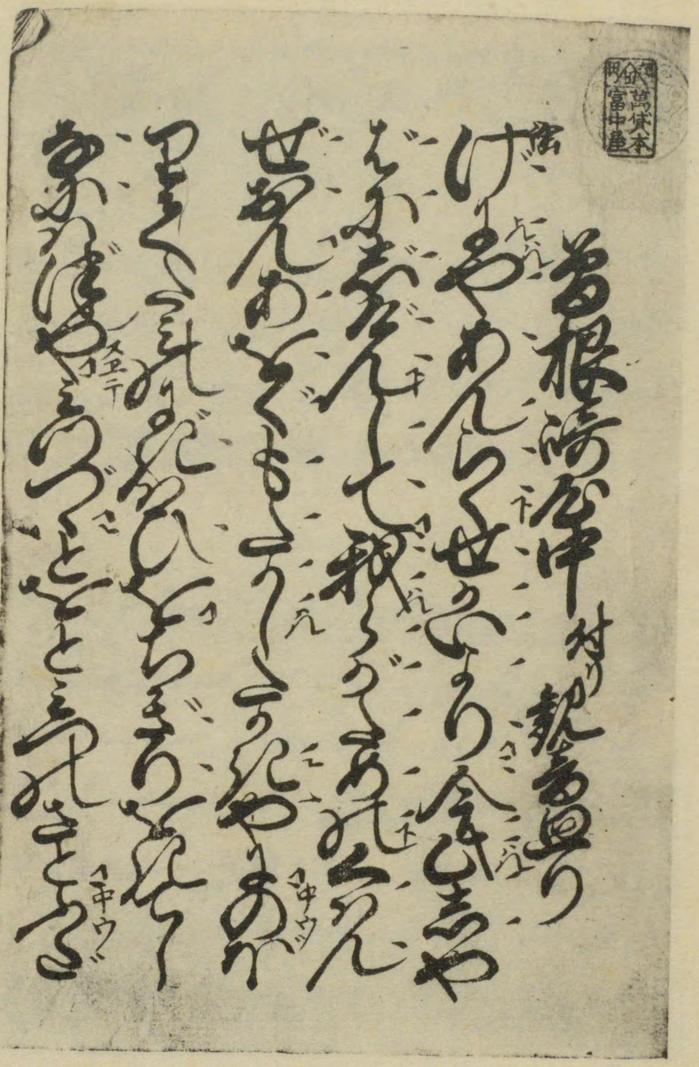

右前々之本頗誤依有之
浴流之人憾焉於是今
加賀掾直之以正本開合
章節不遠於一字一點令
開梓平豈為贅古之一助乎
延寶九辛酉林鐘下澣
四條中鴻橋本町
開板



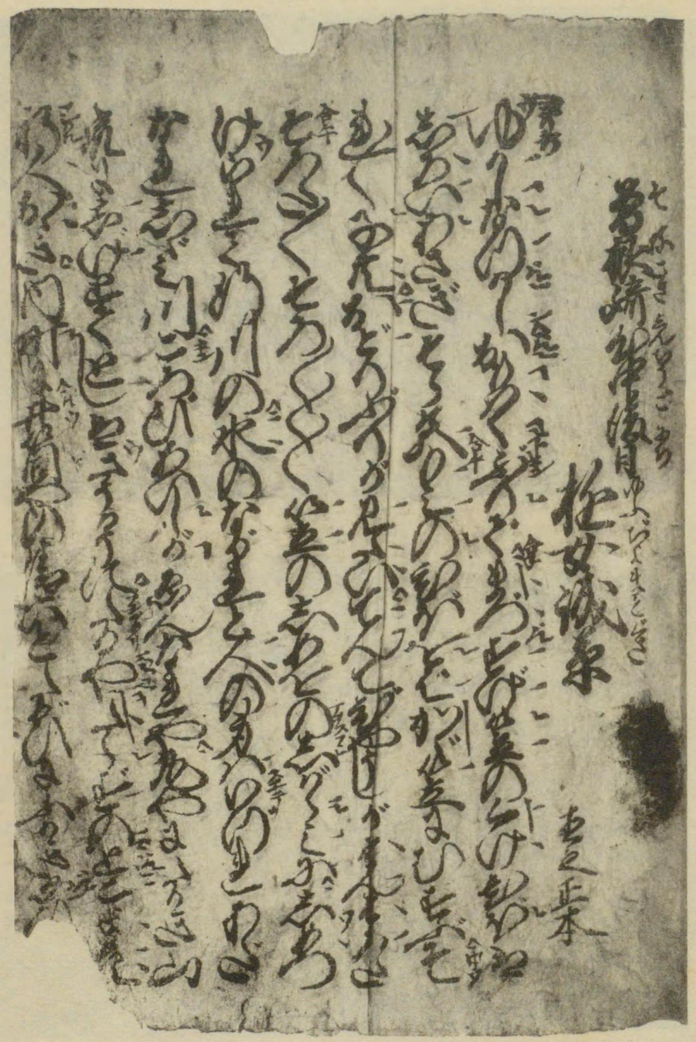




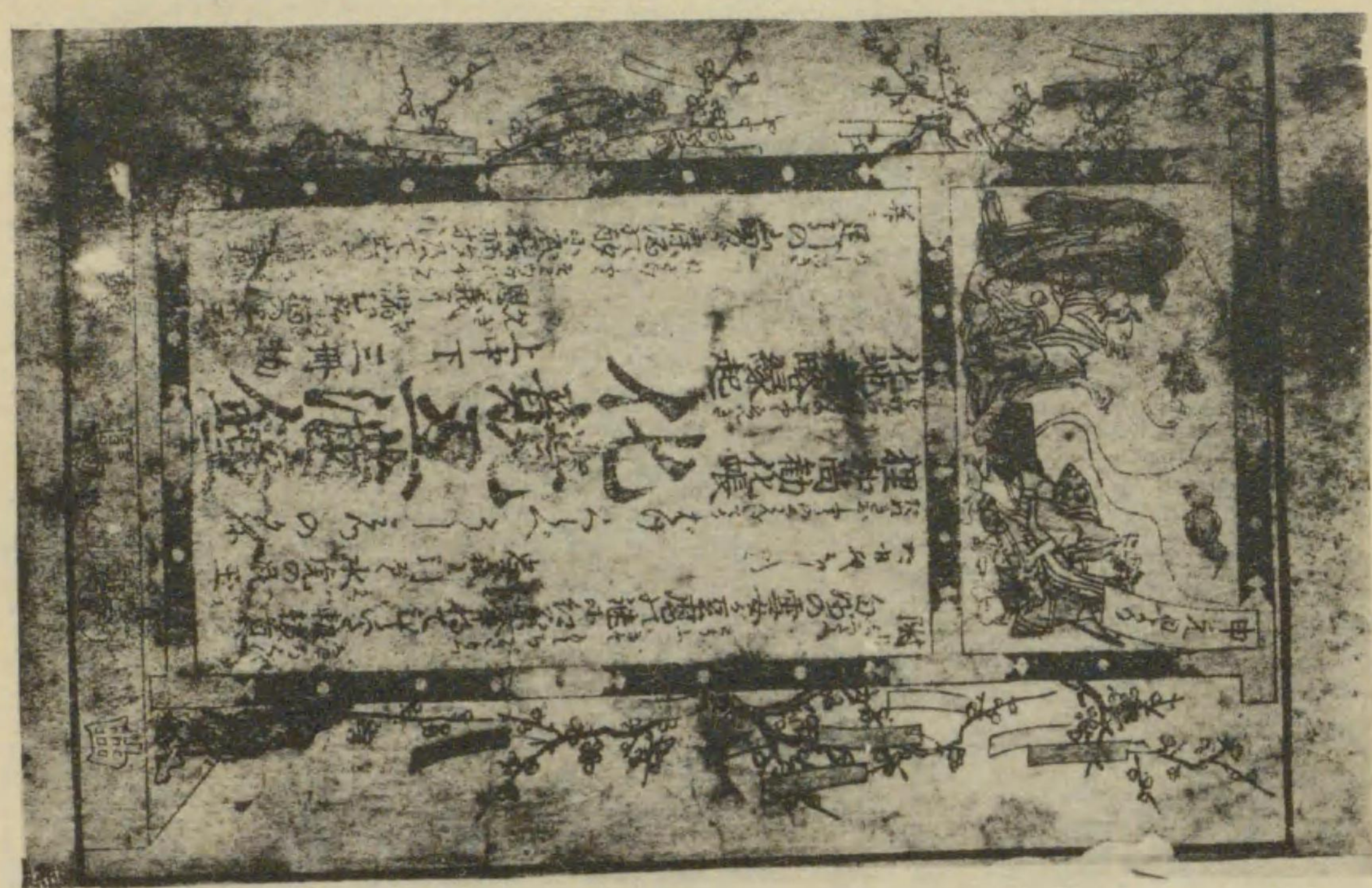
天和三癸亥 案九月吉日
右此本者依小子之懇望附秘蜜
音節自遂校合令開版者也
加賀掾
竹本義我
二條通寺町西入町
山本九兵衛刊



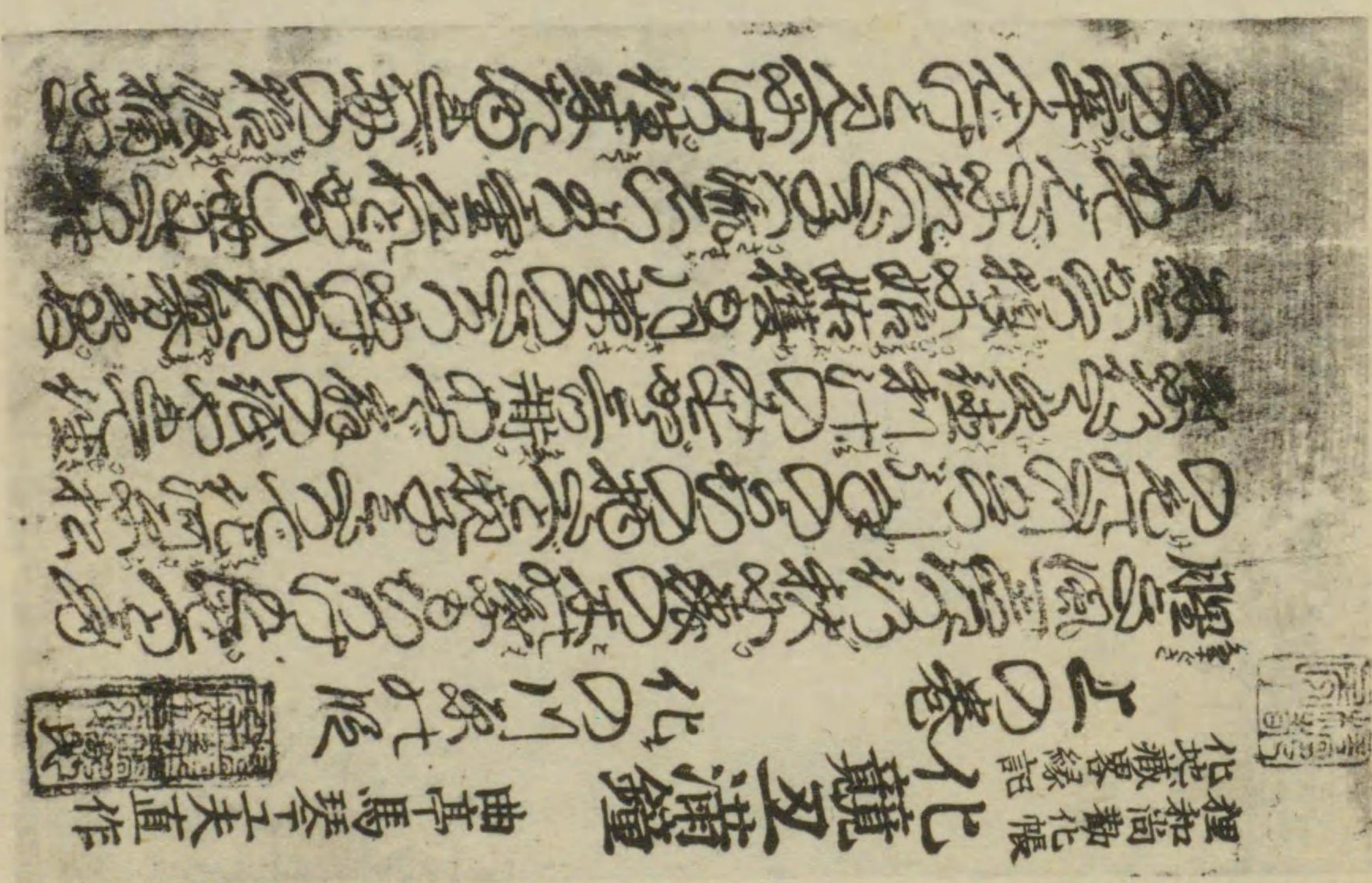
179



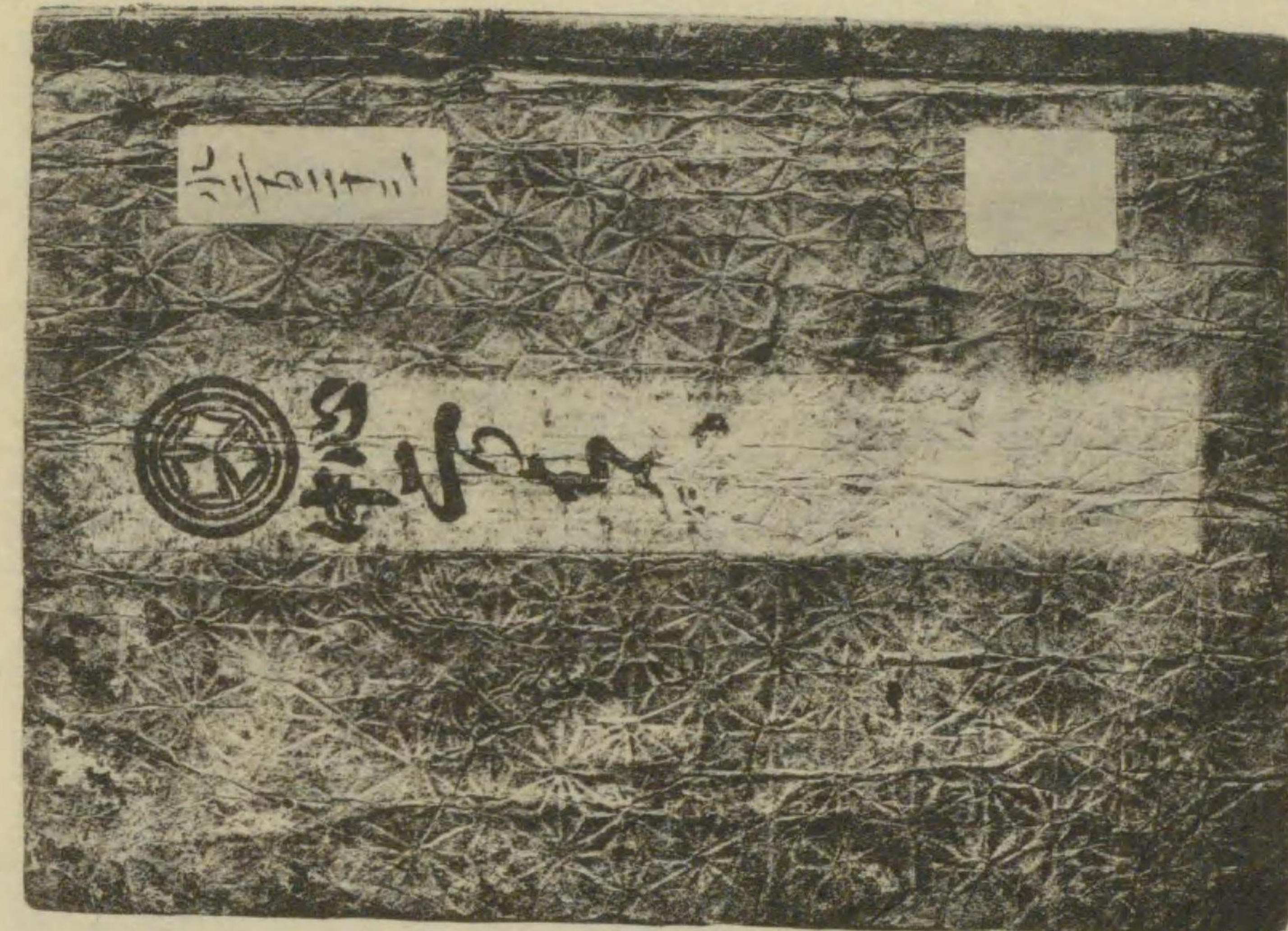
180



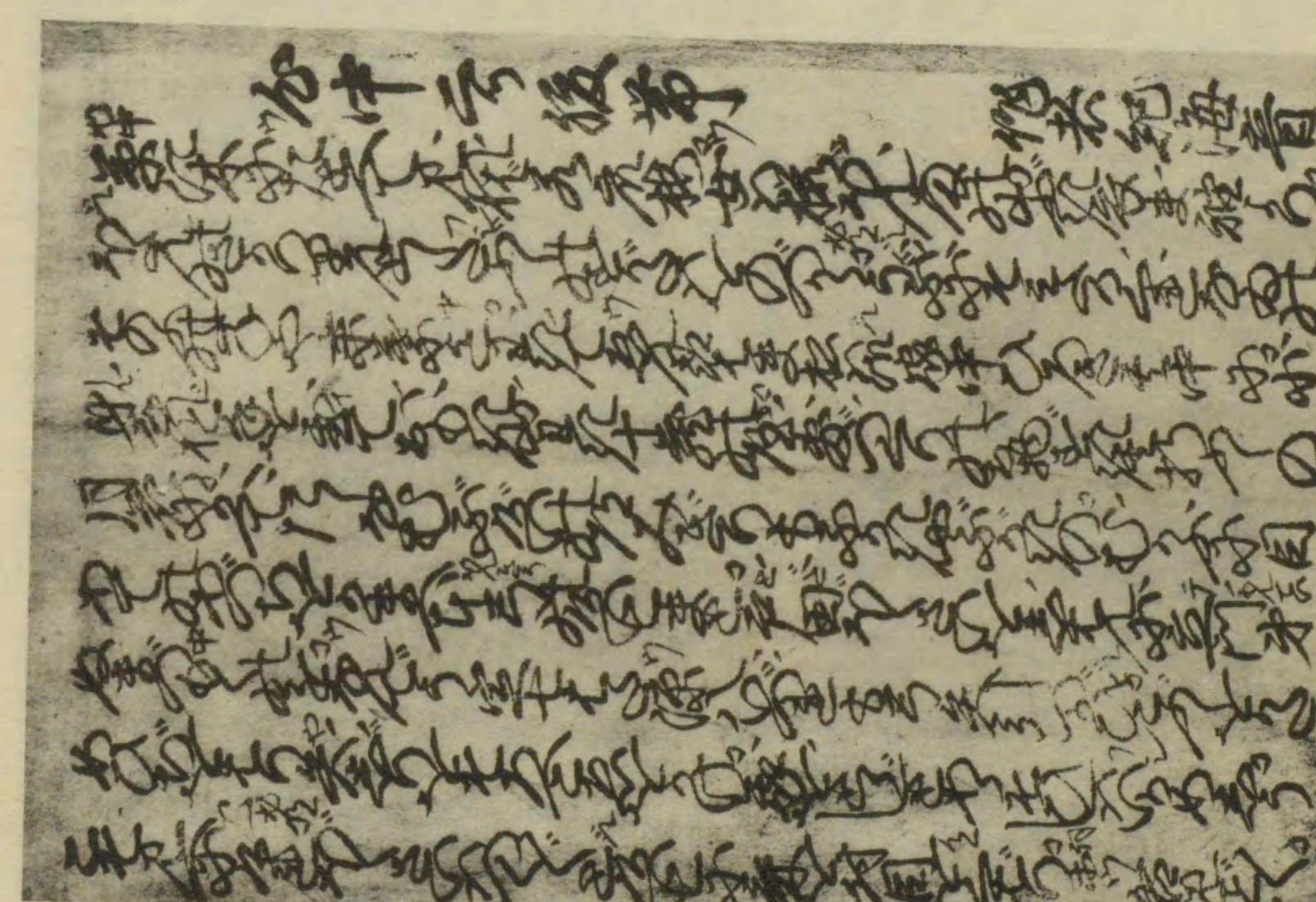
184



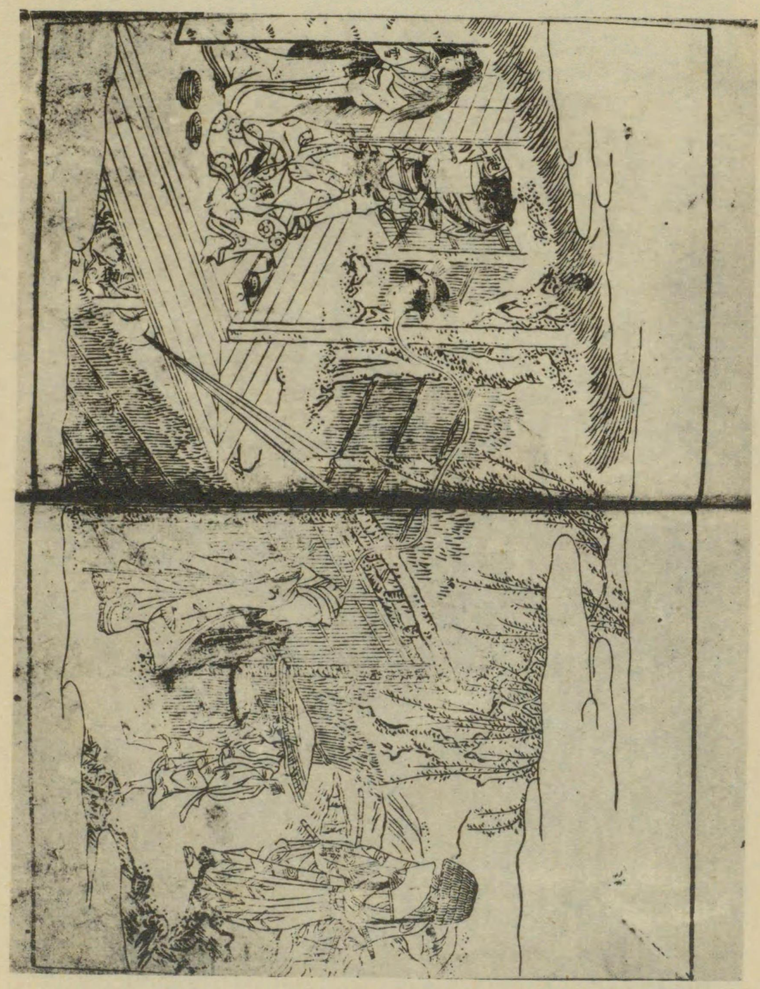
183

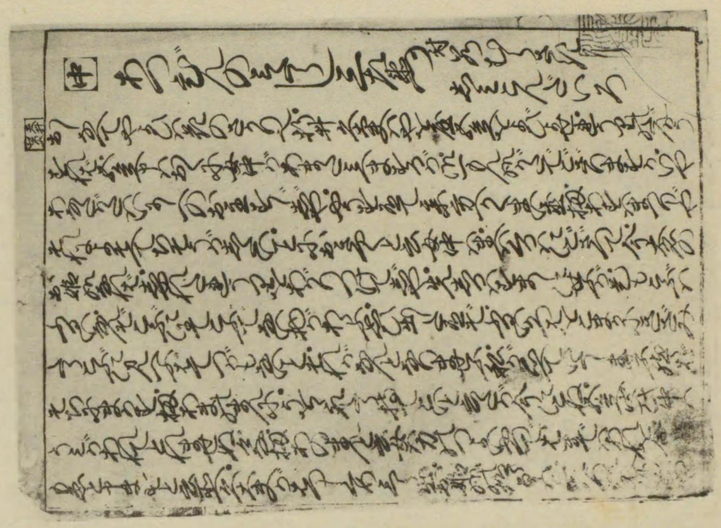


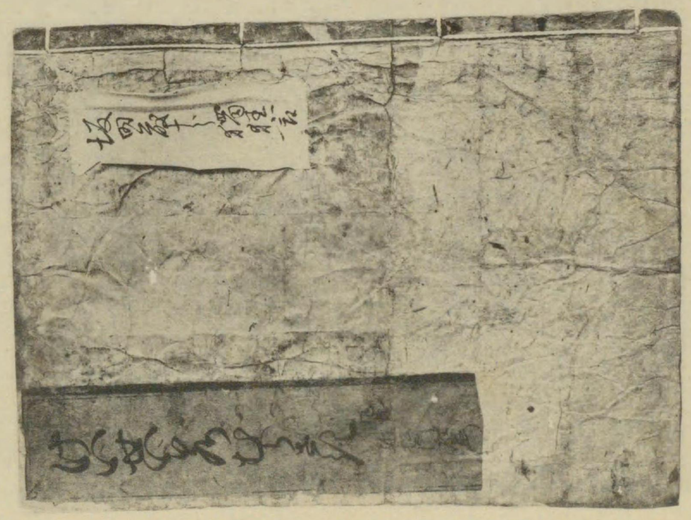
181

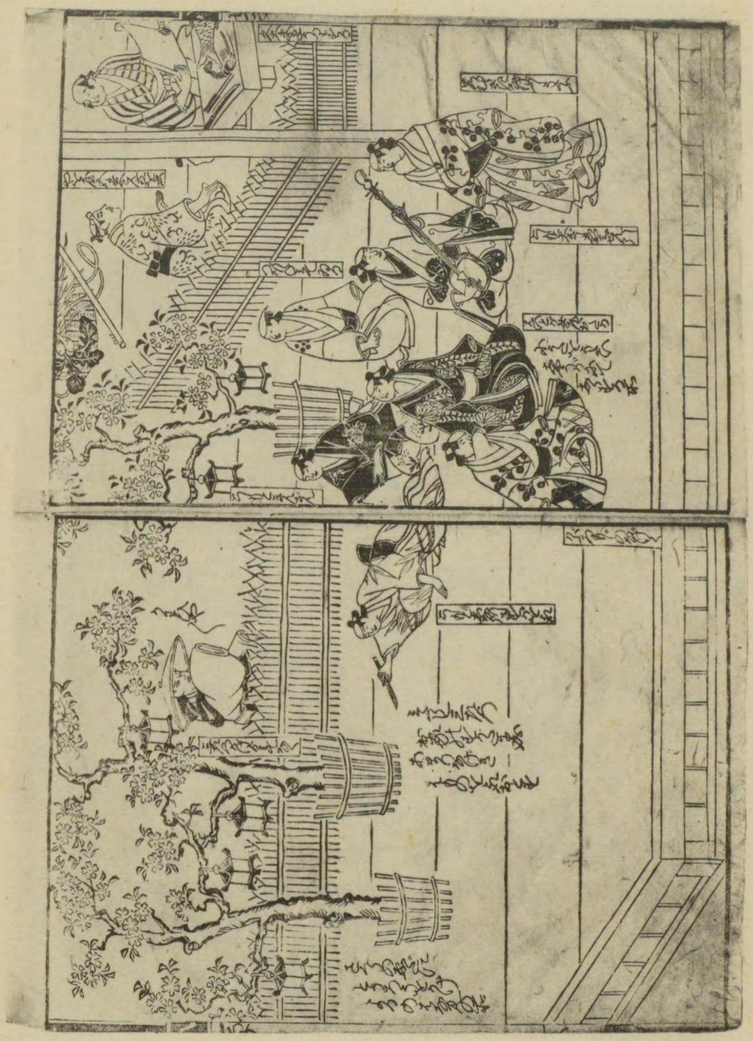


182

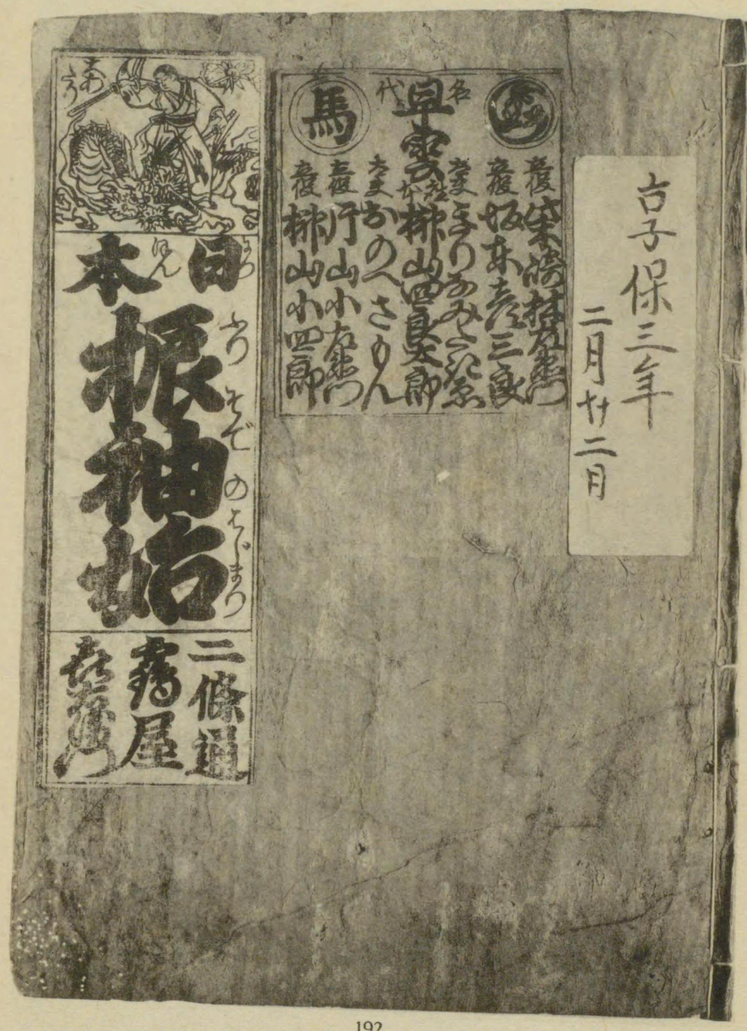


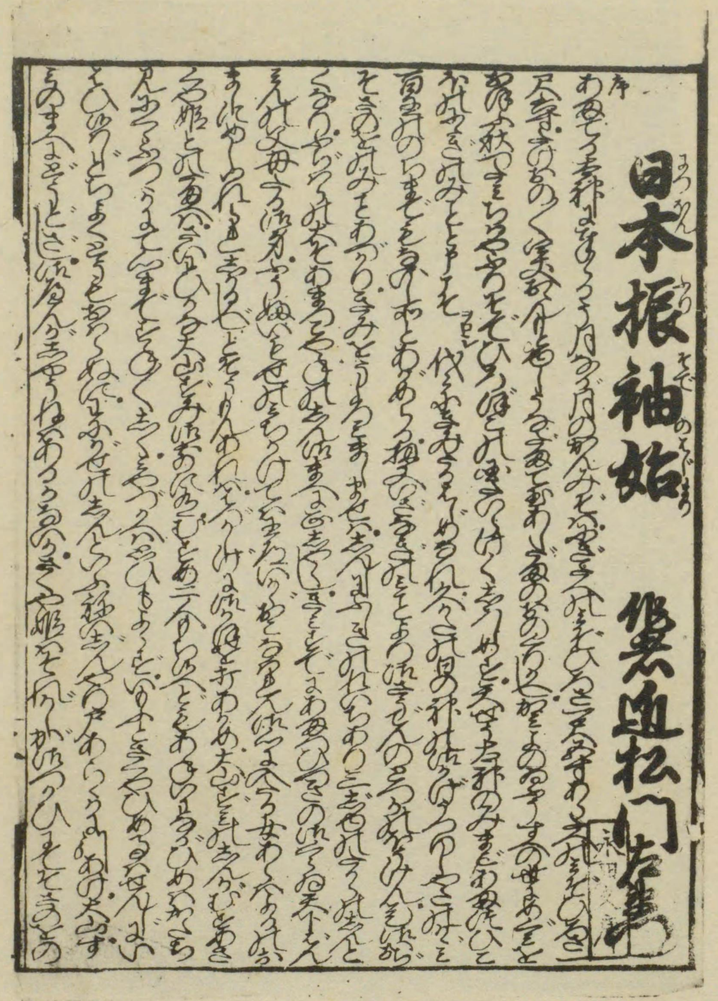


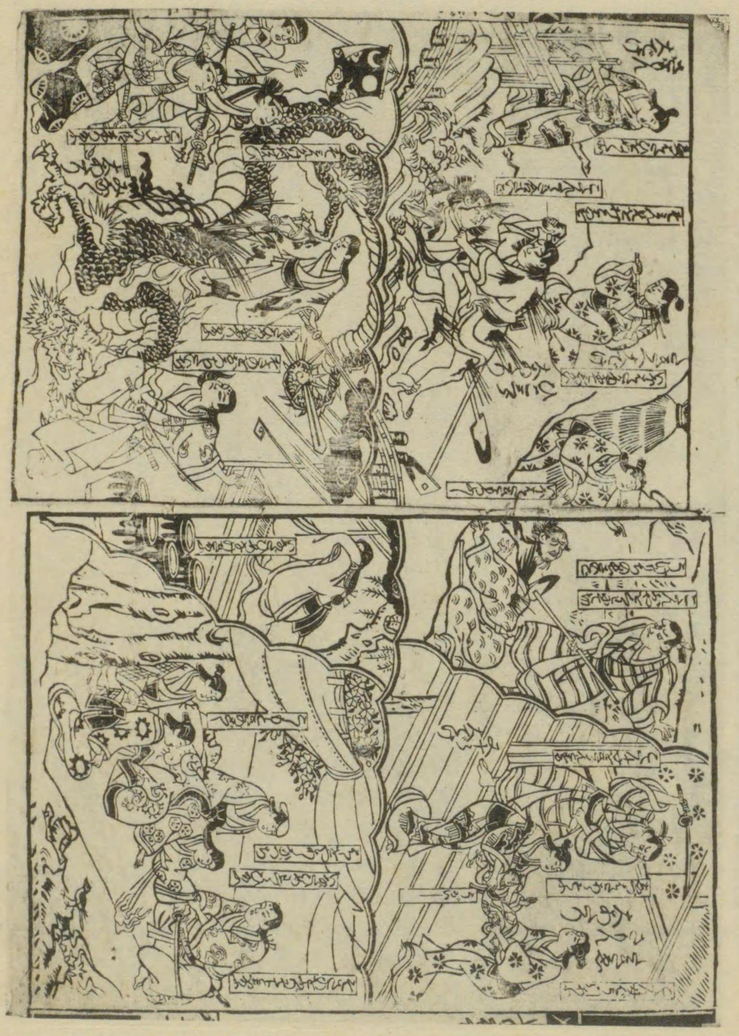


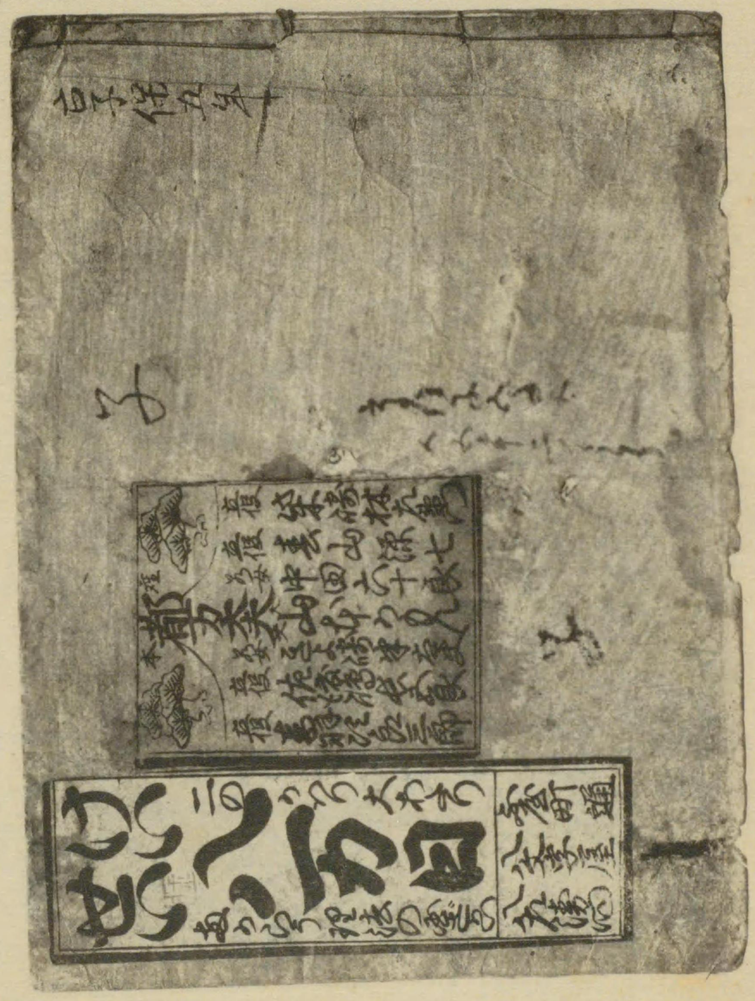


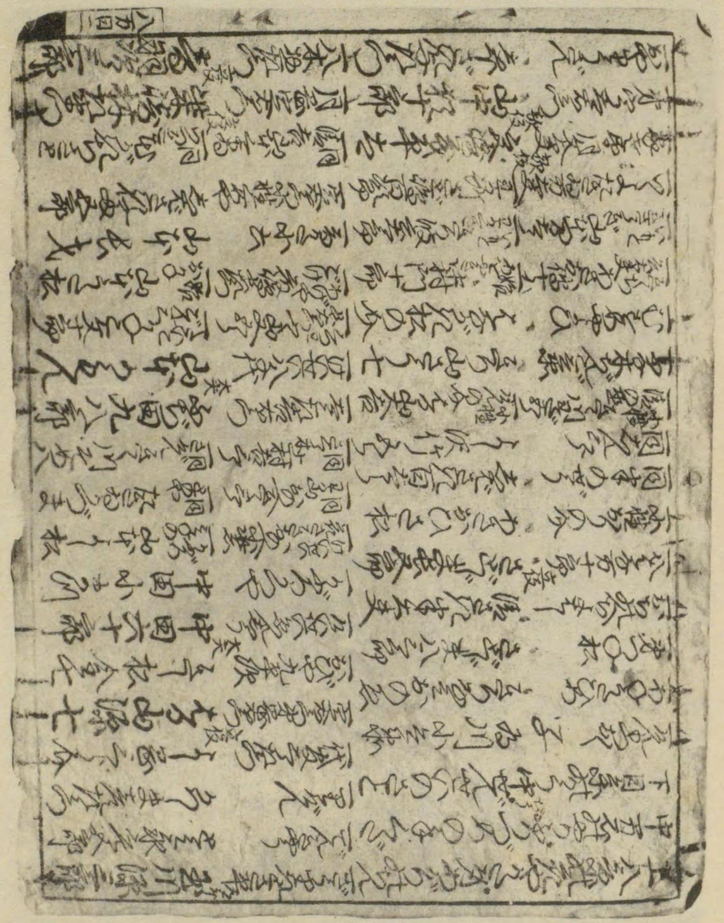
上 けいせい雄床山二の替 五年の大こわかり 点付上ち出

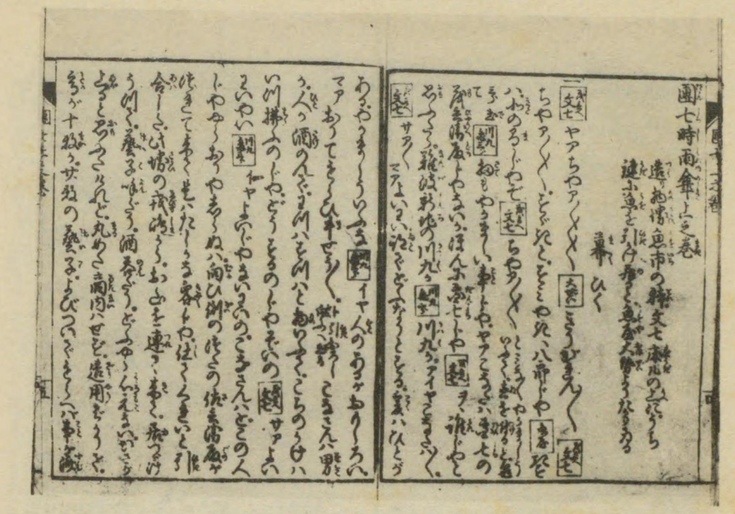

古子保三年
二月廿二月
日本振袖始
二條通
霧屋

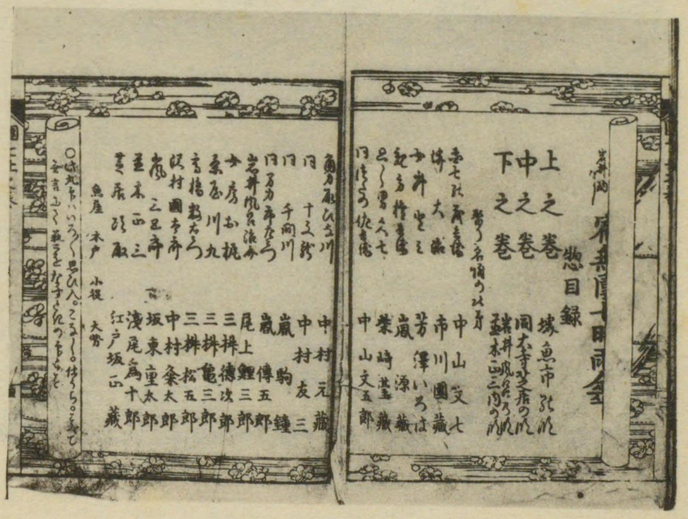

日本振袖始

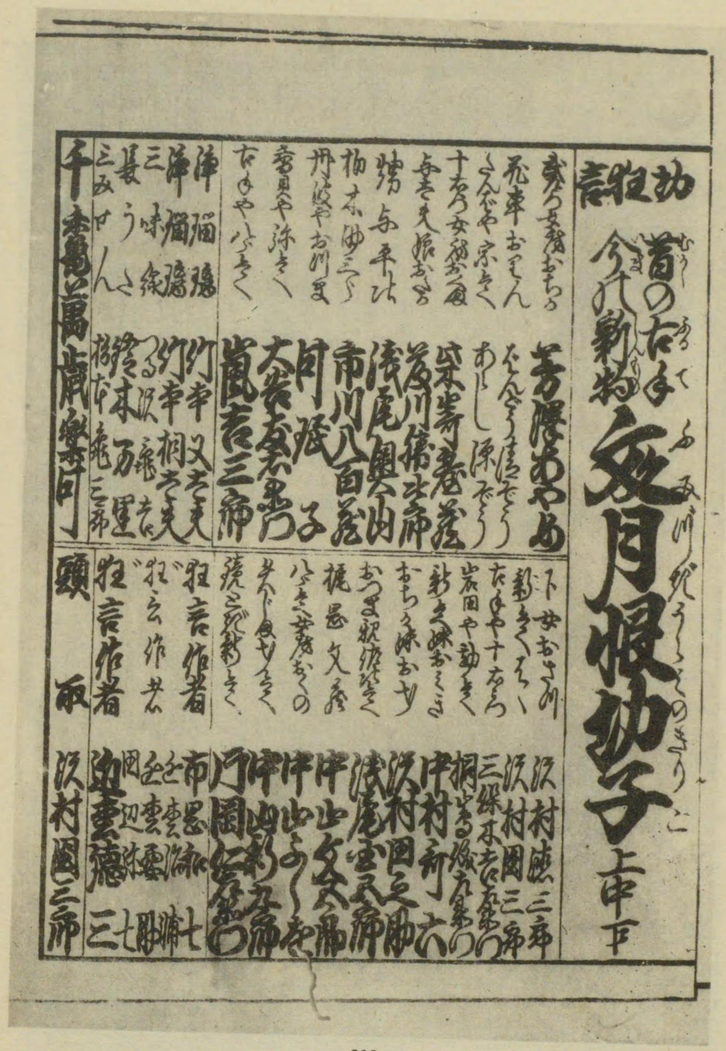


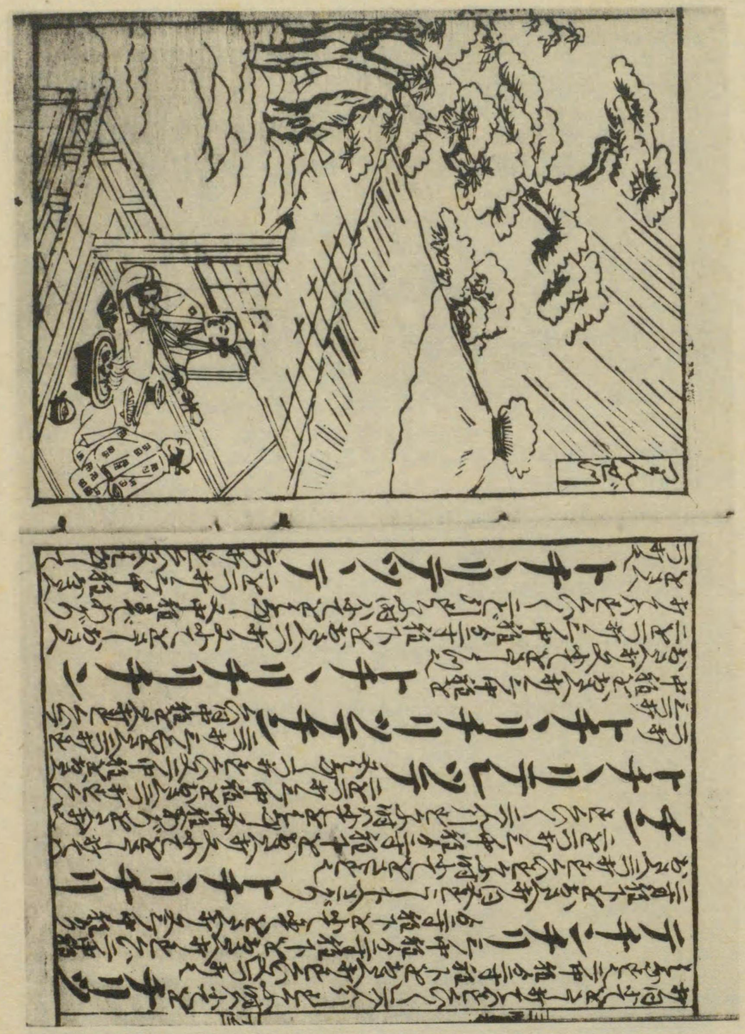


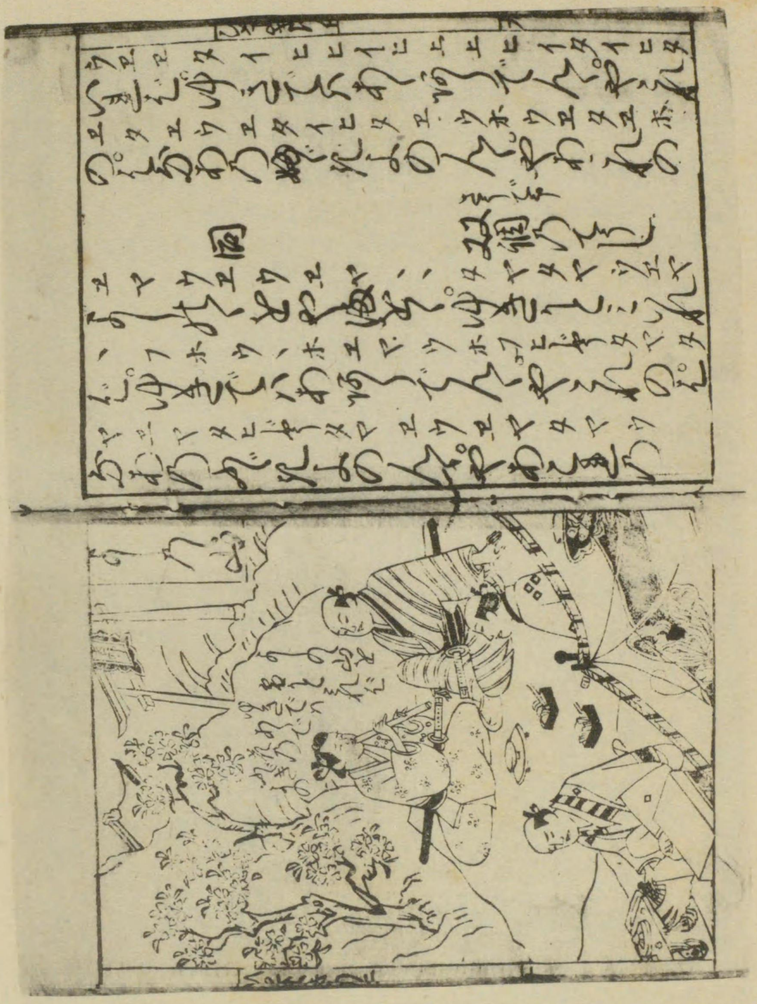


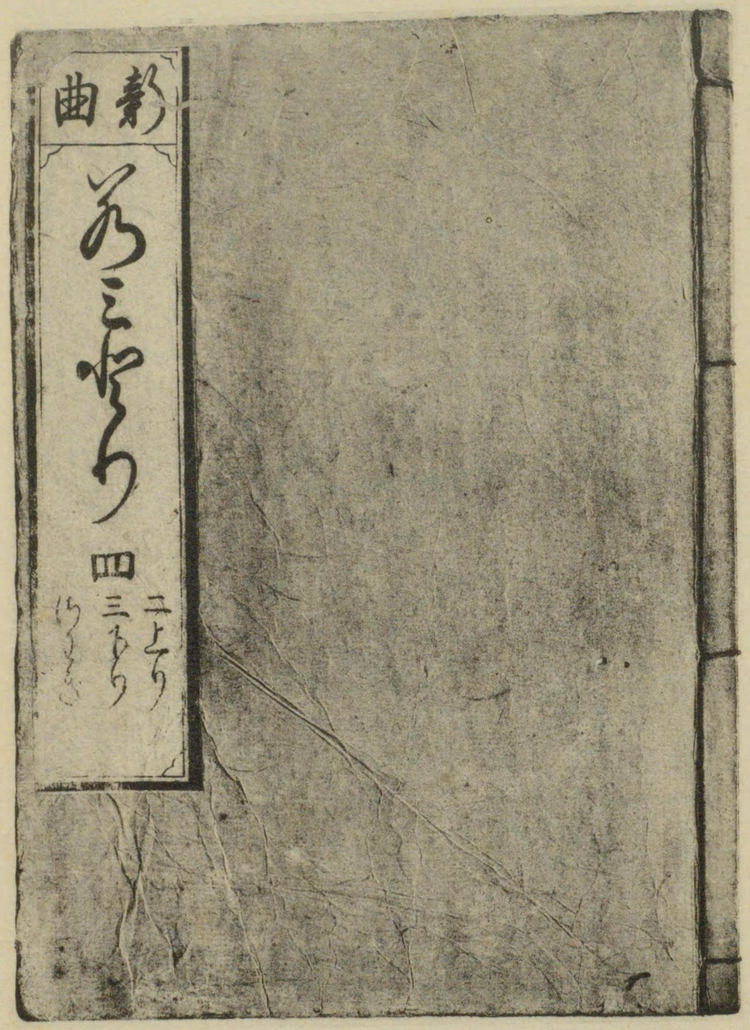


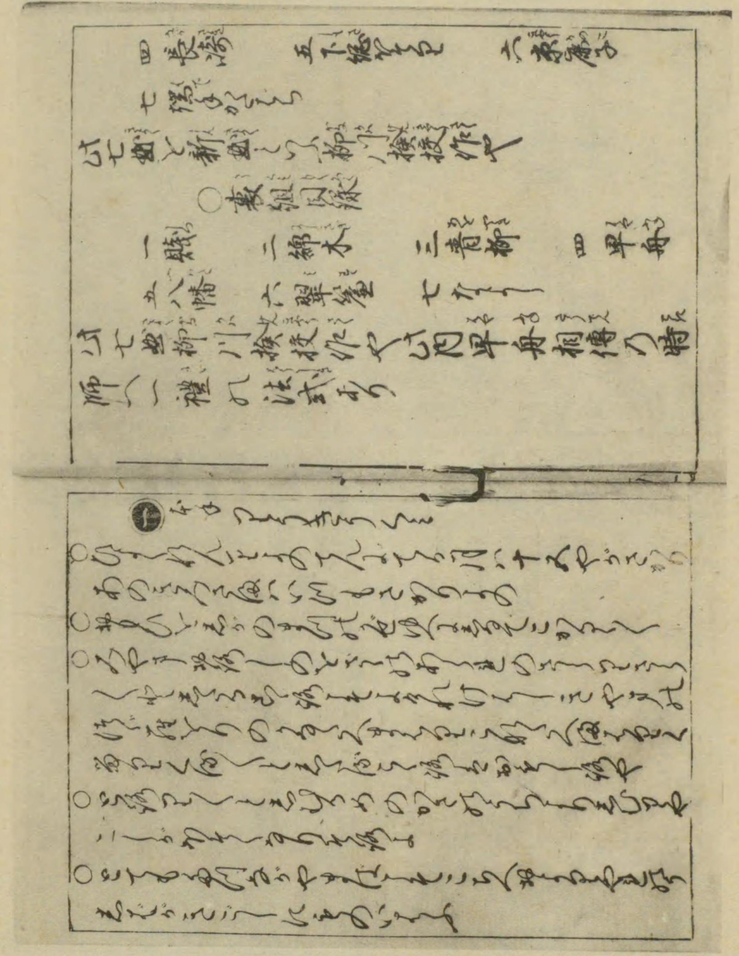


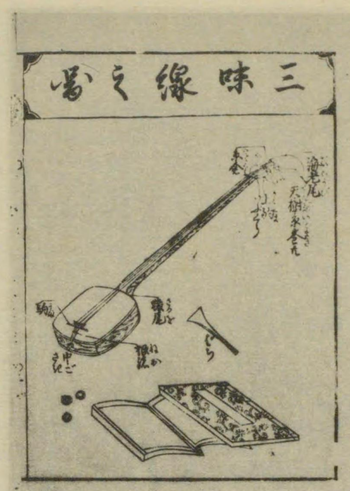


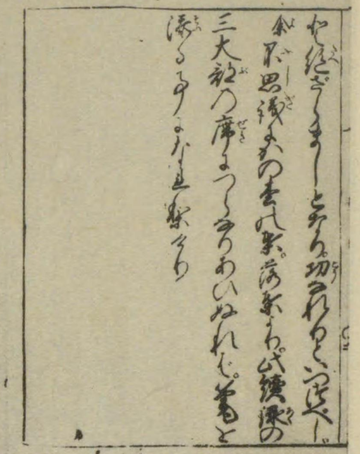


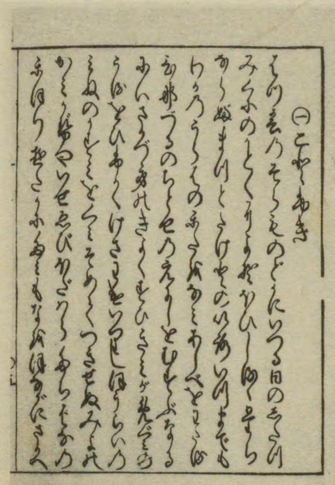


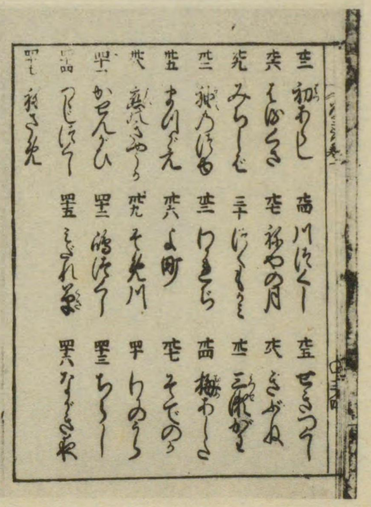

新曲
四

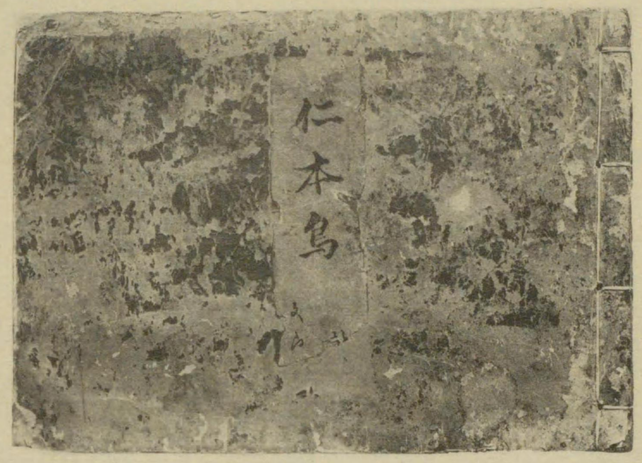


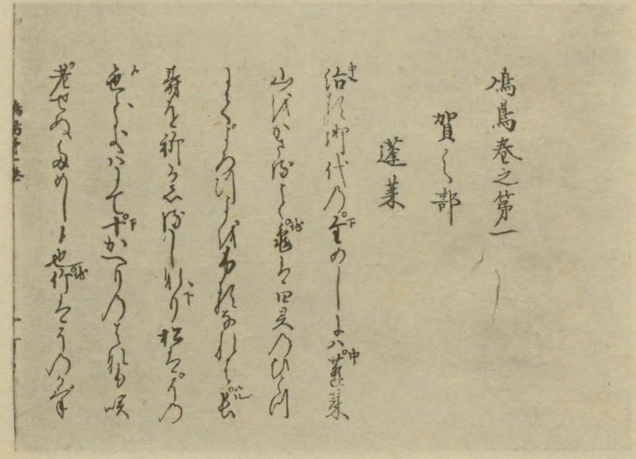

三味線之図



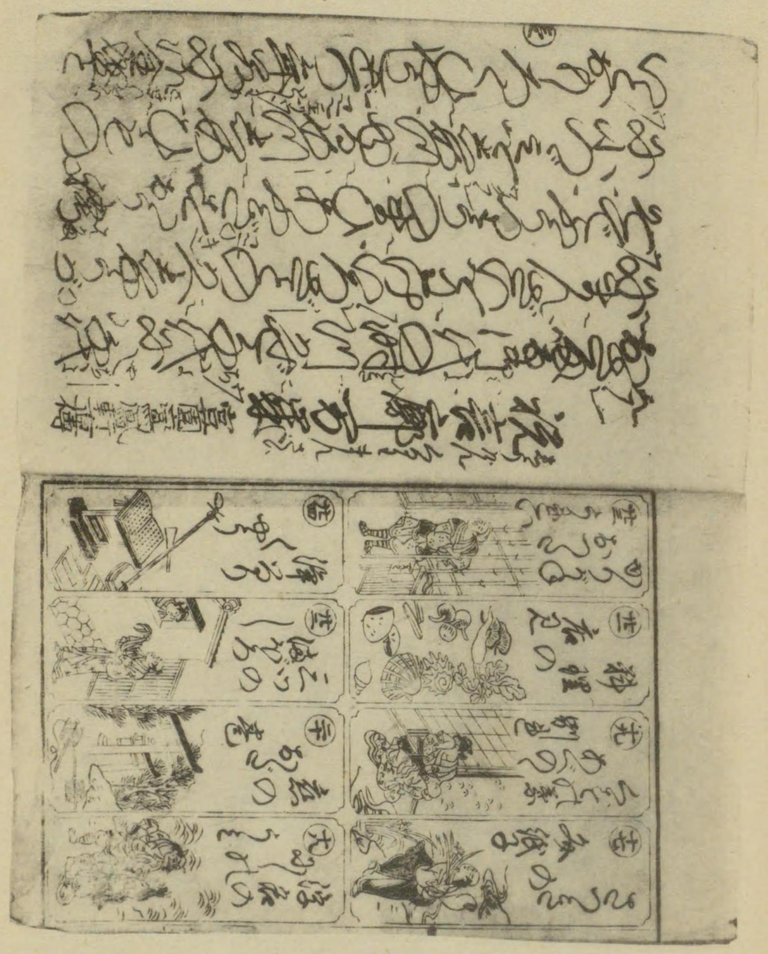


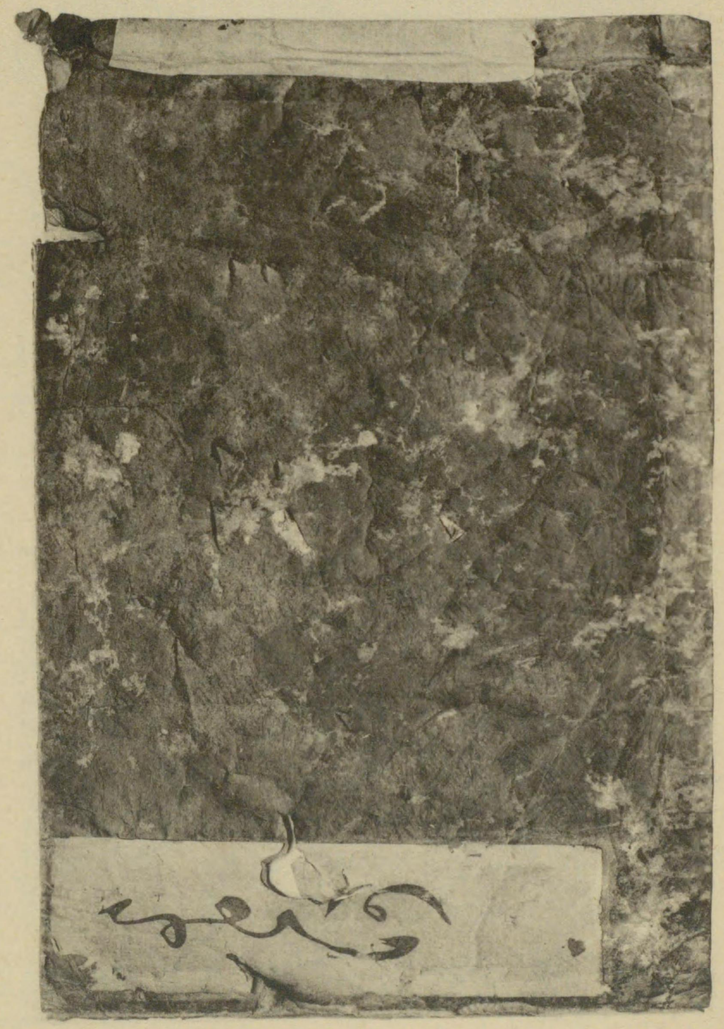


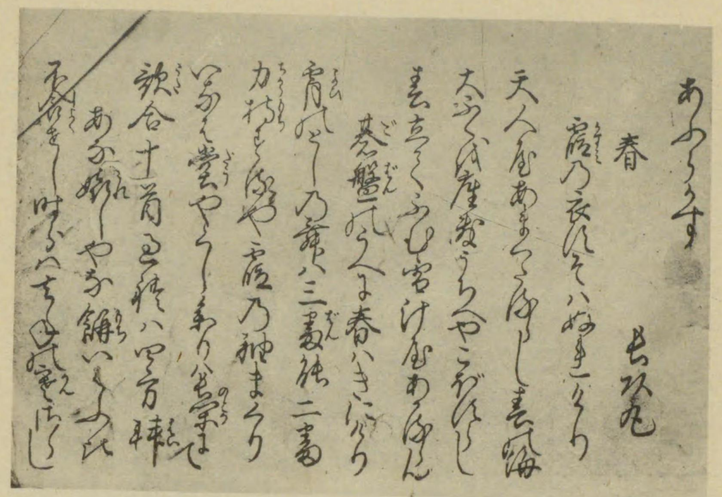

仁本鳥

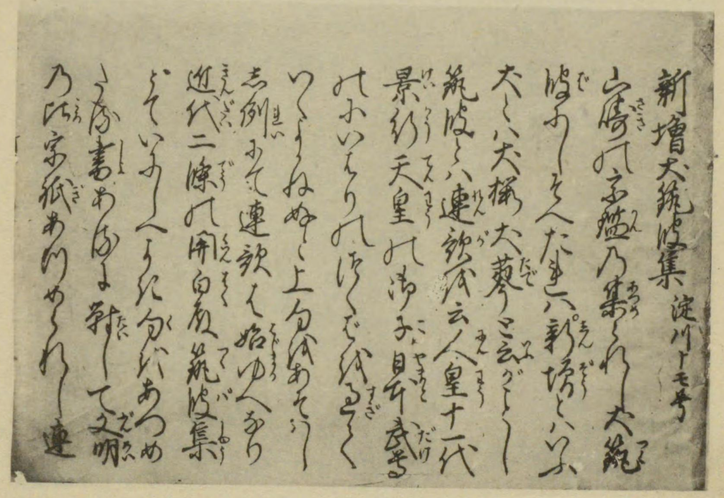

鳩鳥卷之第一
賀之部
蓬莱

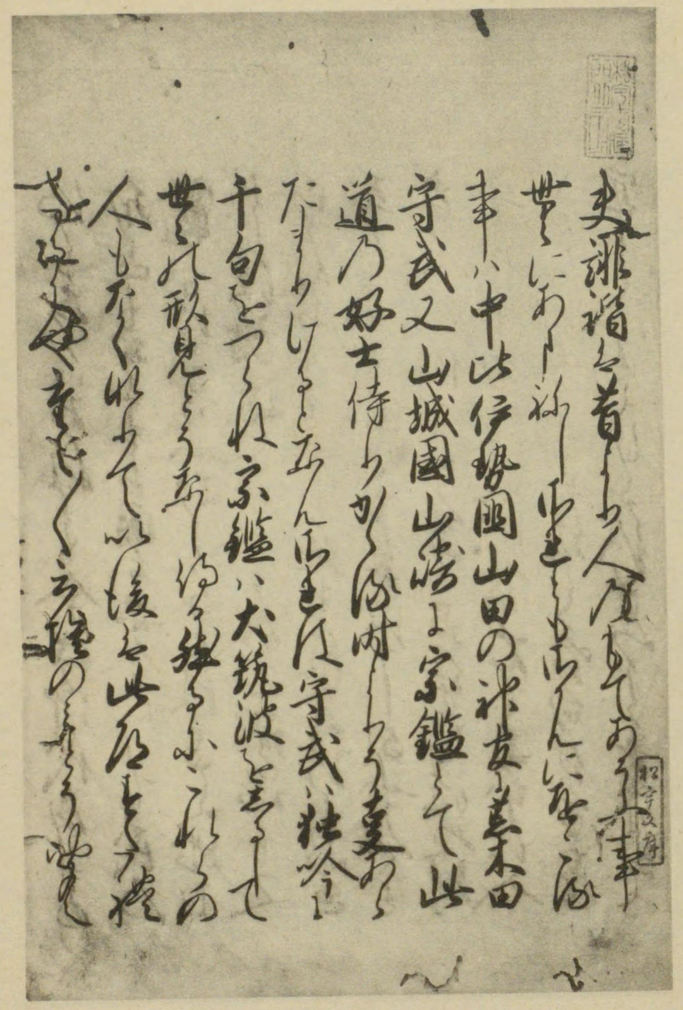
清元延壽太夫
清元美代太夫
清元美勇喜太夫
清元壽磨太夫
清元菊壽太夫
同家内太夫
同壽賀太夫
同古満太夫
同民太夫
同勝美太夫
清元千藏
同彦助
同延三
同常次郎
清元一壽
正芳町
本山本平吉
所川岸通
昔か岩怪談
菊嬉閑陸言

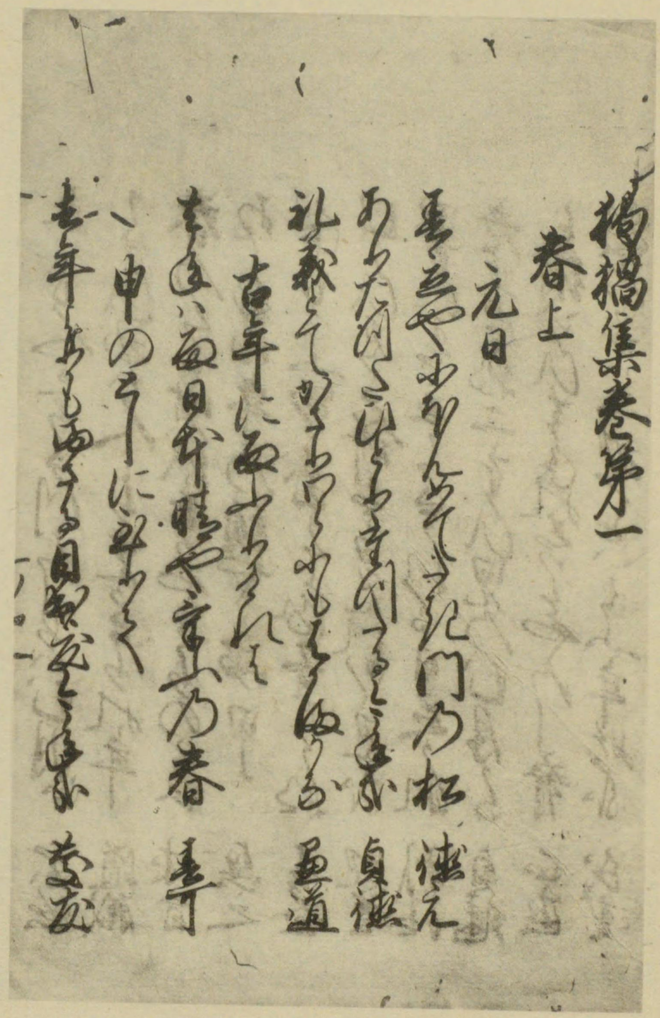


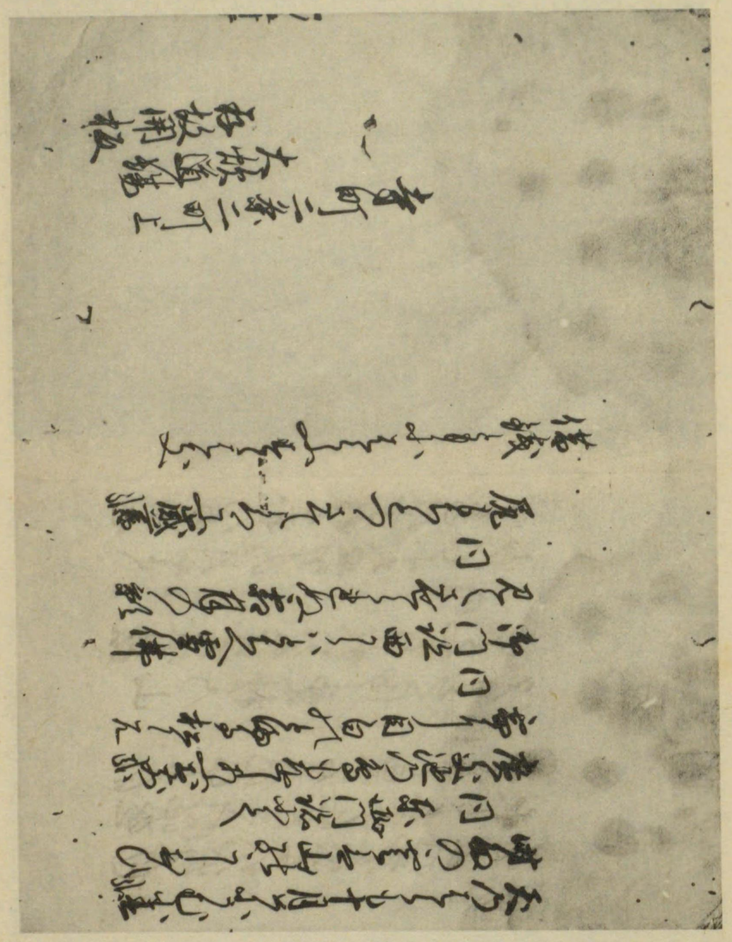


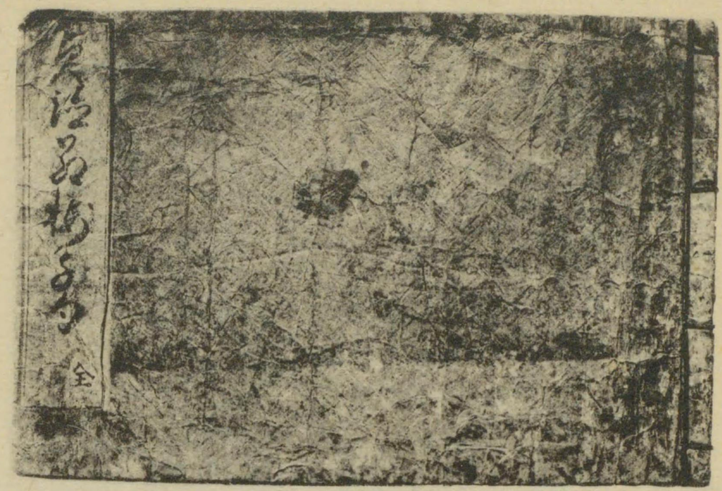


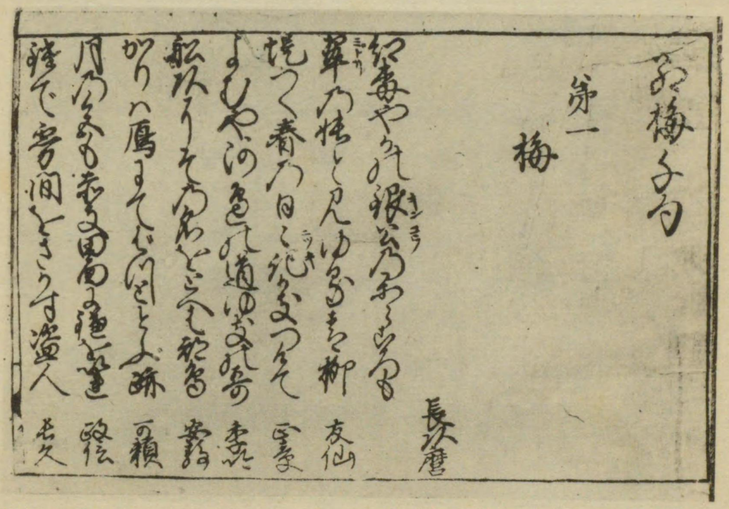




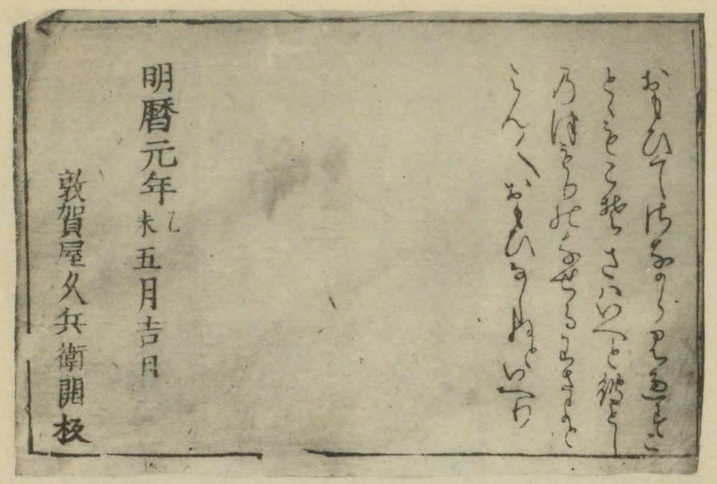
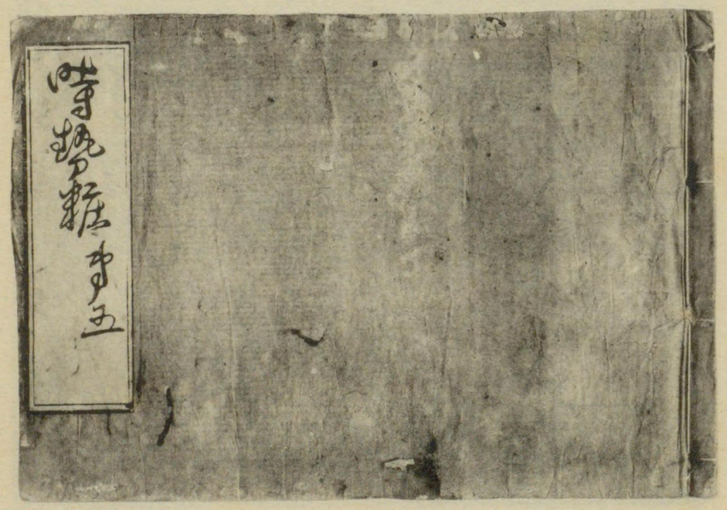
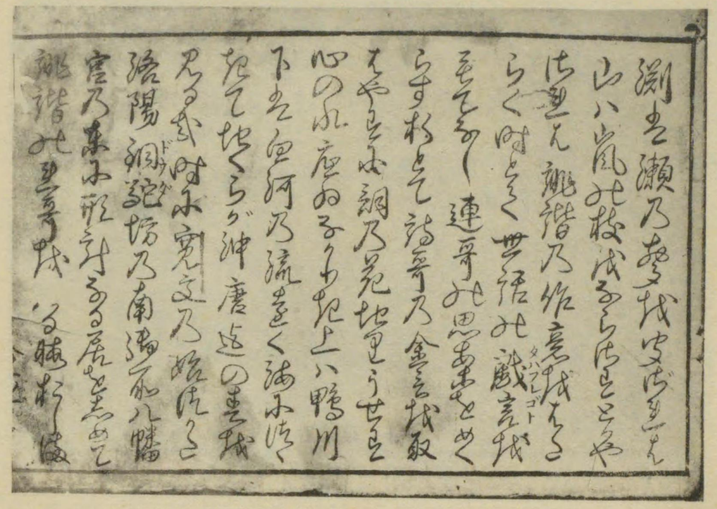
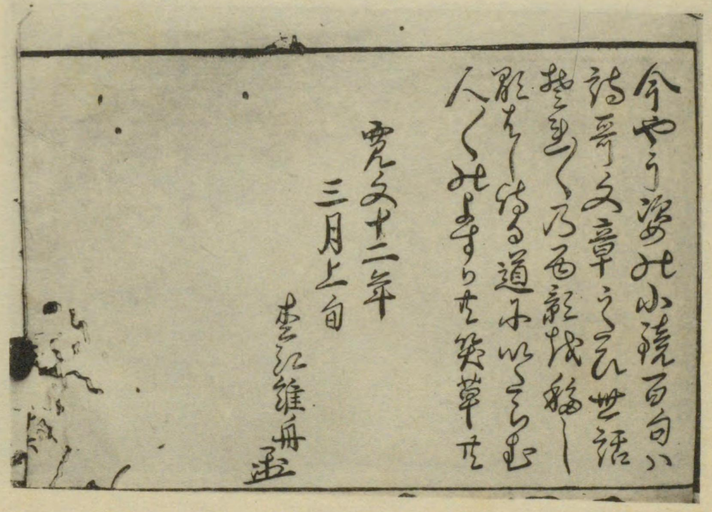
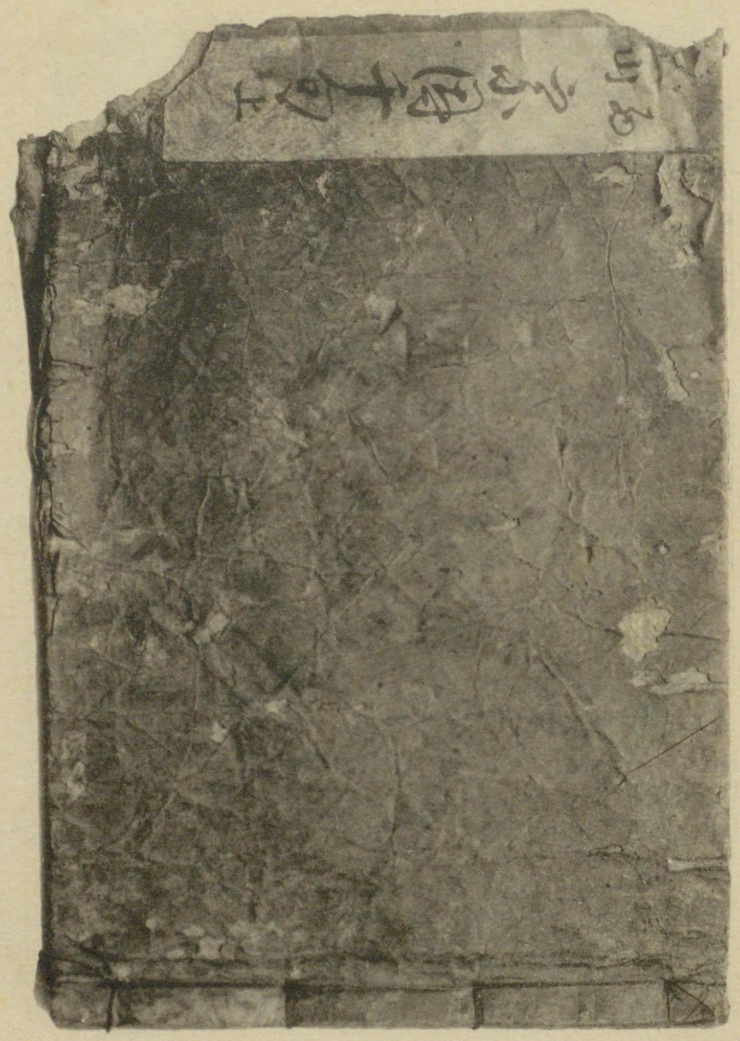








第一
梅



明暦元年乙未五月吉日
敦賀屋久兵衛開板